

(令和7年度 文部科学省 大学における医療人養成の在り方に関する調査研究事業)
地域医療に従事する医師の確保・養成のための調査研究 報告書

令和7年度

**地域枠入学制度と
地域医療支援センターの実情に関する
調査報告**

令和8年3月

一般社団法人 全国医学部長病院長会議

はじめに

本調査は、平成27年度より始まった文部科学省委託事業「大学における医療人養成の在り方に関する調査研究事業」を全国医学部長病院長会議が受託し実施しているもので、地域枠制度の実質的な有効性向上に資することを目的として、各種調査を行い報告して参りました。令和3年には、これまで統一されていなかった地域枠の定義が、厚生労働省の医師需給分科会の議論を踏まえ整理されました。ここでは、地域枠は「別枠方式で選抜する」、「地域医療対策協議会との協議の上で設定する」、「従事要件は卒業直後より当該都道府県内で9年間以上従事する」、「奨学金貸与は問わない」とされました。また、地元出身者枠の定義も、「地元出身者を選抜し、地域医療対策協議会の協議の上で設定する」、「選抜方法、従事要件、奨学金貸与は問わない」と示されました。地元出身者枠医師は、地元定着率が高いとされており、医師不足地域からの期待があるのも事実です。しかし、これまでの地域枠は大学ごとに定義され、奨学金や履行義務の有無などの制度内容や卒前・卒後の支援体制などにばらつきがあり、どのような制度設計が有効であるか定かではありませんでした。毎年行っている本調査では、奨学金非支給の地域枠や地元出身者枠なども調査対象に含め、それらの比較検討を行い、制度設計上の違いとその効果（義務履行状況などと共に最終的な地域定着率）の関係について報告して参りました。

各都道府県および関係の大学は、これらの調査結果を踏まえさらなる検討を加えていただき、地域枠がさらに魅力のある制度になるよう改善がなされ、地域定着への支援体制がより一層拡充し、優秀で熱心な学生からの多くの応募と、地域医療に貢献する医師の養成に繋げられるよう望みます。

本年度も、これまで実施して来た①地域枠入学制度と地域医療支援センターの実情に関する調査（基本調査）、②地域枠入学生の在学中及び卒後転機調査に係る予備調査（制度調査）、③地域枠学生の在学中及び卒後転機調査（転機調査）を、設問形式のアンケート調査を継続して実施しました。また、平成29年度より実施している地域枠に直接関与している方々を対象とした④「地域枠制度についての意見交換会」については、令和2年度からの3年間は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、オンラインで実施しておりましたが、令和5年度より対面で実施しています。この意見交換会は、上記①②③の調査では表に出てこない、具体的問題点や各大学・行政機関などの対応策について情報共有し、改善につなげることを目的としたものです。その中で、離脱対策については、毎回、非常に熱心な議論が行われています。今年度は A) 義務年限終了後の進路、B) 診療科選択、C) 地域枠定員について、熱心な議論が行われました。継続的な制度の改善に関して、多くのヒントが出され、大変有意義な討論会となりました。

毎年のアンケート調査ならびに意見交換会において多大なご協力をいただきました各大学ならびに都道府県等の関係者の皆様に厚く御礼を申し上げますとともに、本調査の趣旨をご理解いただき、今後とも継続したご協力をお願い申し上げます。

本調査結果が今後の地域枠制度の改善の一助として活用され、日本の地域医療の維持発展に寄与する事を願っております。なお、本報告書に関するご意見等がございましたら、全国医学部長病院長会議事務局までお寄せいただければ幸いです。

令和8年3月31日

全国医学部長病院長会議
地域の医療及び医師養成の在り方に関する委員会
委員長 大脇 哲洋

目次

はじめに

調査・集計方法について

| | |
|----------------------------------|----|
| 第1章 地域枠入学制度の概要 | 6 |
| 1.制度区分と定員 | 6 |
| 2.制度内容の詳細 | 7 |
| 2.1.選抜時期、出身地指定 | |
| 2.2.奨学金額、義務年限、卒後研修 | |
| 3.誓約書の記載事項 | 7 |
| 4.地域枠制度の新規導入、継続に関する大学の意向（基本調査より） | 8 |
| 第2章 地域枠入学者の転帰（卒前、卒後の状況） | 15 |
| 1.定員と入学者数の推移 | 15 |
| 2.医師国家試験合格までの状況 | 16 |
| 2.1.ストレート卒業率 | |
| 2.2.医師国家試験現役合格率 | |
| 2.3.退学・転学者 | |
| 3.医師国家試験合格以降の状況 | 16 |
| 3.1.義務履行者数と勤務先病院の状況（規模・設置地域） | |
| (1) 義務履行者数 | |
| (2) 義務履行先病院 | |
| (3) 専攻診療科 | |
| 3.2.義務履行中断中の人数とその理由 | |
| 4.地域枠からの離脱状況 | 17 |
| 第3章 地域枠入学者への支援体制（基本調査） | 34 |
| 1.都道府県との協議 | 34 |
| 2.義務の不履行とその対策 | 34 |
| 3.大学医局への入局者と大学院進学への推移 | 34 |
| 3.1.大学医局への入局について | |
| 3.2.大学院進学について | |

| | |
|---|-----------|
| 4.地域枠入学者への支援体制 | 35 |
| 4.1.卒前支援体制 | |
| 4.2.卒後支援体制 | |
| (1) 専門医の取得支援 | |
| (2) 学位の取得支援 | |
| (3) 臨床研修医の当該地域での履修状況 | |
| 5.その他の取り組み | 36 |
| 5.1.義務履行に関する配置調整について | |
| 5.2.専門研修および大学院進学以外で義務年限履行のために実施・検討している 特色ある取り組みや工夫について | |
| 5.3.都道府県によるキャリア形成卒前支援プランの運用状況 | |
| 6.地域枠等を恒久定員内に設定することの必要性について | 37 |
| 7.キャリア形成プログラムについて | 37 |
| 7.1.キャリア形成卒前支援プラン | |
| 7.2.キャリアコーディネーターの配置状況 | |
| 8.義務履行期間の終了した地域枠医師の医療従事について | 38 |
| | |
| 第4章 地域枠学生の現状及び意識調査 | 39 |
| 1.調査の概要 | 39 |
| 2.調査結果の概要 | 39 |
| 3.まとめ | 40 |
| | |
| 第5章 地域枠制度についての意見交換会 | 49 |
| 1.意見交換会の趣旨 | 49 |
| 2.意見交換会の概要 | 49 |
| 3.意見交換会の内容 | 51 |
| 4.令和7年度意見交換会のまとめ | 56 |
| 5.その他 | 56 |
| | |
| 集計データ集 | (1) |
| 調査票等 | (57) |

調査・集計方法について

本調査では、地域枠制度の現状を把握し制度の実効性向上に資する目的で、平成27年度より以下の2種類の調査を毎年実施してきた。すなわち、地域枠入学生の卒前卒後の状況を各種指標に基づき客観的に評価するようデザインした①「地域枠入学生の転帰調査」（以下転帰調査と略す）と、①を補完するものとして位置づけた②「地域枠入学制度と地域医療支援センターの実情に関する設問形式のアンケート調査」（以下「地域枠基本調査」と略す）である（調査内容については調査票等p(58)～(67)参照）。

加えて、転帰調査の対象とした制度については、制度内容の詳細（奨学金の有無、選抜方法、義務年限、臨床研修、専門研修等）を調査・データベース化し、制度間の比較をする際の資料とした（調査票等p(69),(70)参照）。

「転帰調査」の主たる調査対象は、調査の主眼の一つを制度間の有効性を比較検討することとしているため、地域枠制度の定義を広くとらえ、定員増に伴い設定された制度や奨学金を貸与する制度に限定せず、下記の4つの区分（以下制度区分と略す）にあてはまる制度とし、それらを有する70大学（令和4年度に地域枠入学者の募集を停止した1大学を含む）（特定の目的を持って設置された産業医大、防衛医大、自治医大及び新設された医科大学・医学部2校を除く）を対象とした^{注1)}。このため、定員増と必ずしも連動していない制度や従来からの制度、大学独自に運営している制度なども含まれている^{注2)}。

一方、「地域枠基本調査」での調査対象は、設問内容を踏まえ、全国の医学部を有する79大学とした（特定の目的を持って設置された産業医科大学、防衛医科大学校、自治医科大学は集計から除いた）。調査時点は例年どおり本年度も5月末とし、制度区分別および、設立別（国立、公立、私立）、都市規模別（中大都市群、小都市群^{注3)}）等に分けて調査結果を集計した。

可及的データクリーニング後、入力漏れ項目等については集計より除外した。また、「修学資金」、「修学金」の用語は「奨学金」に統一し、文中の数値は必要な場合を除き、小数点第二位を四捨五入して表示した。

なお、転帰調査に関しては、本年度調査に際し過去データの追加提出・修正等や変更・新設された制度があったため、一部の数値に過年度調査報告書記載の数値と異なるものがあり、ご留意願いたい。

注1)．制度区分（本調査で調査対象とした「地域枠制度」の範囲）

「地域枠制度」とは、地域医療に従事する医師の養成とそれによる医師不足の軽減を目的とし、大学による入学定員枠の設定や主に自治体による奨学金貸与等の優遇策を導入した制度である。本調査では、①奨学金の有無、②選抜時期、③義務履行年数設定の有無により以下のような区分に分け、それらに該当する制度を調査に含めた。

なお、本調査は、平成20年以降に入学した学生（編入学については平成25年度以降卒業者）で、下記A、Bの何れかの区分に該当する者を対象としているが、大学が選抜や入学後の地域枠学生の指導等に関与せず、組織として把握していないものは除いた。

A：奨学金を支給する制度

A1：別枠で入学選抜を実施し、卒後一定の年数の義務履行を課すもの

A2：入学後選抜し、卒後一定の年数の義務履行を課すもの

B：奨学金を支給しない制度

B1：別枠で入学選抜し、卒後、一定の年数の義務履行を課すもの

B2：別枠で入学選抜するが、卒後の義務履行年数が明示されていないもの

(B2区分は出身地指定のある地元優先枠等であるが、義務履行年数が明記されず「卒後県内勤務」、「県内医療に貢献」などの記載があるものとした)

注2) 地域枠等については、厚生労働省の医療従事者の需給に関する検討会医師需給分科会の中で、地域枠・地元出身者枠医師は地域医療を支える重要な役割を担っており、偏在対策を進める上で、その重要性が増しているものの、その定義が曖昧であり、都道府県ごとに内容に差があるといった問題意識が示され、枠組みの見直しが行われた。その結果、都道府県と連携し、偏在対策として有効な「従事要件を課す枠」を「地域枠」と定義し、「地域枠」の定義にはあてはまらないが、対象を地元出身者に限定する枠については、「地元出身者枠」とし、各都道府県が偏在対策を講じるために、ある程度柔軟な運用ができるようにすることとなった。また、従前よりある大学独自枠の枠組みは維持することとなった。(令和2年8月31日 医療従事者の需給に関する検討会 第35回 医師需給分科会)

新たに整理された「地域枠」、「地元出身者枠」、「大学独自枠」の定義の詳細については、令和3年4月28日付厚生労働省医政局医事課長事務連絡「令和4年度の地域枠等の定義について」を参照されたいが、本調査で用いている制度区分と厚生労働省が新たに定めた定義、および相互の関係は、便宜的に右のように整理できると考えている。

本調査で用いている制度区分

| 区分 | 入学選抜 | 奨学金 | 従事要件 |
|----|----------|-----|------|
| A1 | 別枠 | 有 | 有 |
| A2 | 入学後(非別枠) | 有 | 有 |
| B1 | 別枠 | なし | 有 |
| B2 | 別枠 | なし | なし |

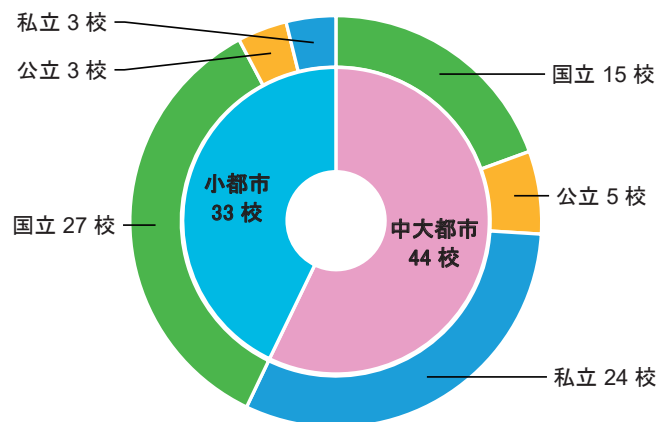
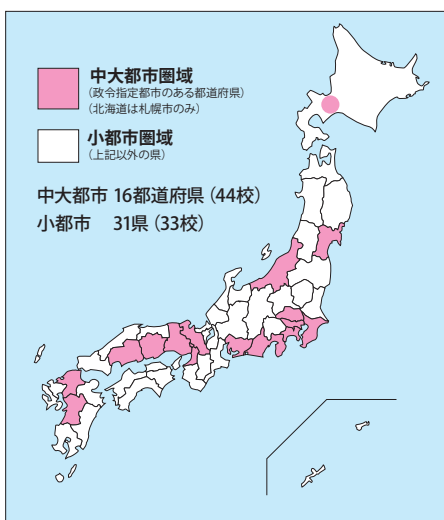
新たに整理された地域枠・地元出身者枠・大学独自枠

| 区分 | 入学選抜 | 奨学金 | 従事要件 |
|--------|------|------|------|
| 地域枠 | 別枠 | 問わない | 有 |
| 地元出身者枠 | 問わない | 問わない | 問わない |
| 大学独自枠 | 問わない | 問わない | 問わない |

相互の関係

| 区分 | A1 | A2 | B1 | B2 |
|--------|----|----|----|----|
| 地域枠 | ◎ | × | ◎ | × |
| 地元出身者枠 | ○ | ○ | ○ | ◎ |
| 大学独自枠 | ○ | ○ | ○ | ○ |

注3) 中大都市群と小都市群に該当する都道府県の分布(左図)と各々に含まれる大学数(右図)(人口50万以上の人口を有する政令指定都市の有無で区分しているが、全国医学部長病院長会議で従来実施している他の調査との整合性を図る目的で、現状とは異なる都市分類で区分している)



第1章 地域枠入学制度の概要

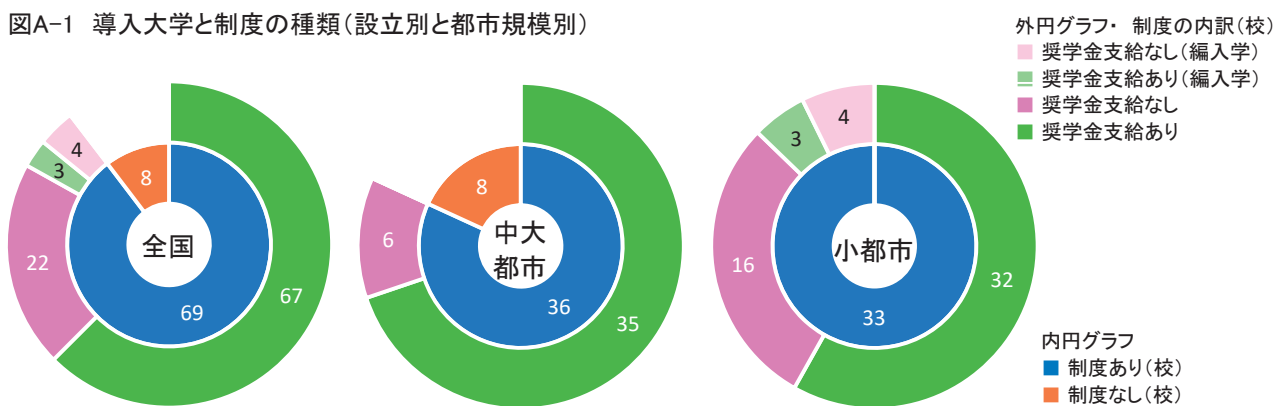
平成18年の「新医師確保総合対策」およびその後のいくつかの施策に呼応した医学部入学定員の増員により、地域枠制度は多くの大学に導入されてきた。令和7年度時点で、転帰調査の対象とした地域枠制度（編入学地域枠及び中途貸与枠を含む）を導入している69大学（令和4年度に地域枠入学者の募集を停止した1大学を除く）に対し、本年度の設置（新設・改廃）状況、新たに整理された「地域枠」、「地元出身者枠」、「大学独自枠」の区分設定に加え、「都道府県との協議」の有無、転帰先別の「義務猶予期間年数」、「誓約書記載事項」を追加調査した。

調査対象の70校中67校から回答が得られ、未回答3校については、継続性の観点から昨年度の内容を流用することとした。

表A-1 導入大学と制度の種類（設立別と都市規模別）

| | 全国 | 中大都市 | | | 小都市 | | | | | | | |
|------------------------|----|------|----|----|-----|----|----|----|----|----|----|----|
| | | 国立 | 公立 | 私立 | 計 | 国立 | 公立 | 私立 | 計 | 国立 | 公立 | 私立 |
| 回答校 (校) | 77 | 42 | 8 | 27 | 44 | 15 | 5 | 24 | 33 | 27 | 3 | 3 |
| 1 制度あり (校) | 69 | 37 | 8 | 24 | 36 | 10 | 5 | 21 | 33 | 27 | 3 | 3 |
| (複数回答あり) | | | | | | | | | | | | |
| 1 奨学金を支給する 地域枠 (校) | 67 | 36 | 8 | 23 | 35 | 10 | 5 | 20 | 32 | 26 | 3 | 3 |
| 2 奨学金を支給しない 地域枠 (校) | 22 | 11 | 6 | 5 | 6 | 0 | 3 | 3 | 16 | 11 | 3 | 2 |
| 3 奨学金を支給する 編入学地域枠 (校) | 3 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 3 | 0 | 0 |
| 4 奨学金を支給しない 編入学地域枠 (校) | 4 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 | 4 | 0 | 0 |
| 2 制度なし (校) | 8 | 5 | 0 | 3 | 8 | 5 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 |

図A-1 導入大学と制度の種類（設立別と都市規模別）



1. 制度区分と定員

地域枠制度は、奨学金の有無、選抜時期（入試時又は入学後）、義務履行年数設定や出身地指定の有無などの違いにより多岐にわたる。医師の希望するキャリア形成を重視し医師不足地域等への配置調整が難しくなることや、受験資格に出身地指定を導入し全国公募の意義が薄れることなどを考慮し、地域枠制度を導入している69大学中50大学（72.5%）は、目的に応じて複数の制度を導入していた。従来の制度区分A1は新たに整理された「地域枠」とほぼ同一とみられる（表・図A-2参照）。

本調査で対象とした令和7年度時点での制度総数(各大学の制度数の合計)は199制度で、定員総数は1,734人であった(編入学制度、中途学年からの貸与制度を含む)。制度数は昨年度より6制度増加(新設:12制度、終了:6制度)、定員は28人増となった(表A-3参照)。

令和3年4月28日付厚生労働省医政局医事課長事務連絡で新たに整理された「地域枠」、「地元出身者枠」、「大学独自枠」の定義に基づいて分類した集計では、恒久定員と臨時定員が混在する制度で、定員の振り分けが流動的である制度があるため、定員数が重複している(表A-3(1)参照)。

併せて、今年度新たに調査した項目、都道府県との協議状況、大学入試における高校卒業後の年数制限の有無と制限年数の集計を掲載する(表A-3(2)~(4)参照)。

2. 制度内容の詳細

2.1. 選抜時期、出身地指定

選抜時期については、入学後に希望者を募り選抜するA2区分4制度(全制度数の2.0%、全定員数の1.5%)以外の制度は全て別枠入試である。昨年に比べA1区分(制度:8増、定員:71増)、A2区分(制度:3減、定員:55減)、B1区分(制度:2増、定員:20増)、B2区分(制度:1減、定員:8減)となっている(図A-3参照)。

2.2. 奨学金額、従事要件義務履行年限、卒後研修

2.2.1. A区分

A区分の奨学金貸与総額については、200万円~4,480万円と幅があり、当然のことながら貸与期間が短い制度では貸与総額が少ない傾向にあり、私立大学は国公立大学より貸与総額が高い傾向は変わらない(表A-4参照)。また、義務年限についても2~14年と幅があり、義務年限が初期研修を含め9年の制度が最多であった(表A-5(1)参照)。また、義務履行猶予期間については1~10年と幅があり、A区分では161制度中97制度で猶予期間を設けていた。また、「猶予期間なし」の制度もA区分で161制度中38制度、B1区分で30制度中20制度あった(表A-5(2)参照)。指定地域における初期臨床研修の場合は1~2年を義務年限に含める制度がほとんどであった(表A-5(3)参照)。

A区分の義務履行病院については、164制度中、「大学を含む知事(都道府県等)が指定した公的病院」を指定する制度が128(78.0%)と多かった。また、104(63.4%)の制度では「義務年限のうち、特定地域もしくは医師不足地域の病院・診療所での就労」を義務に含めていた(表A-6参照)。

2.2.2. B1区分

一方、B1区分の義務履行年数は、最短で臨床研修の2年、最長は9年であったが、年限を決めている28制度中19制度は臨床研修を含め6年以下であった(表A-5(1)参照)。義務履行病院は「指定された大学病院およびその関連病院」が30制度中23制度であった(表A-6参照)。

3. 誓約書の記載事項

今年度新たに誓約書の記載内容を調査したところ、履行義務内容や年限に関する記載が多く見られた(表A-7参照)。その一方で、記載が少ない項目としては「大学病院研修の期間の取扱い(11件)」や「大学院に在学している期間の取扱い(17件)」、「これら以外の猶予期間・条件(18件)」などが挙げられ、研修や進学に伴う詳細な猶予規定を明文化している制度は少数に留まっていることが伺える。

4. 地域枠制度の新規導入、継続に関する大学の意向（基本調査より）

現時点での、地域枠への期待や問題点を踏まえ、今後の地域枠制度の新規導入、継続について各大学へ地域枠基本調査を実施した（「令和7年度地域枠入学制度と地域医療支援センターの実情に関する調査」Q1～Q2-2参照）。

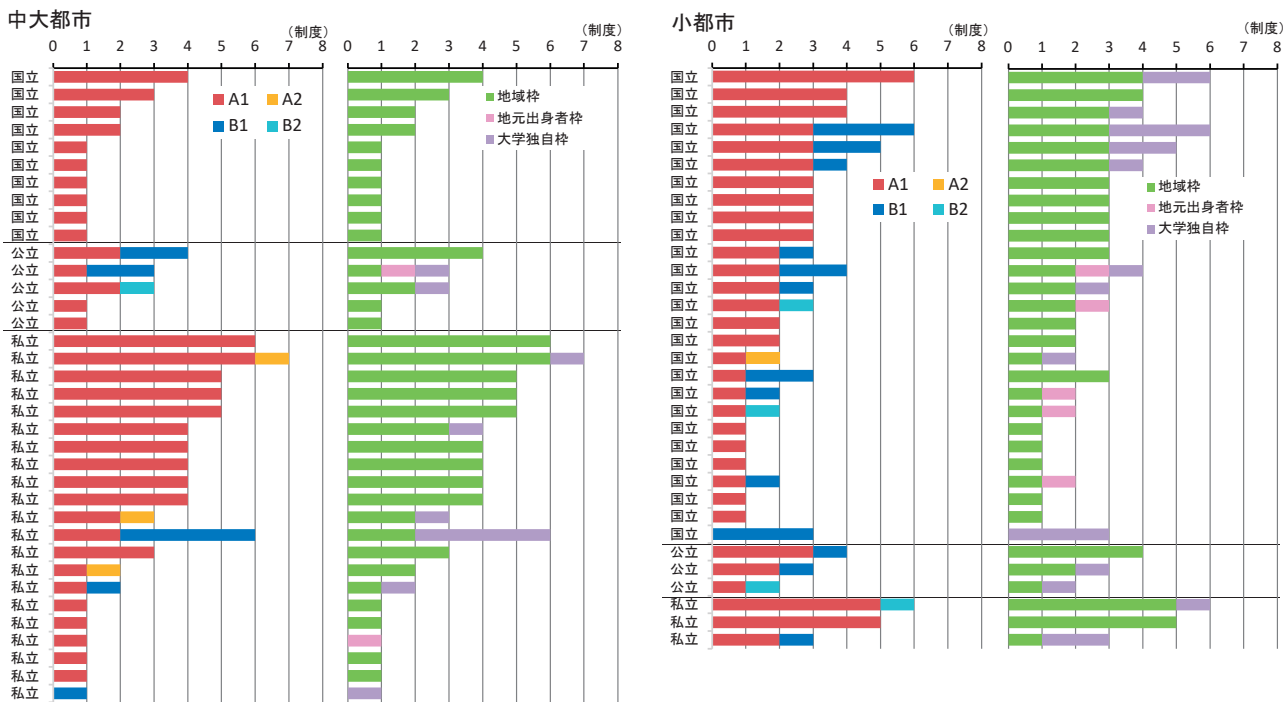
産業医科大学、防衛医科大学校、自治医科大学を除く79大学の内、地域枠制度を導入していない大学は9大学（11.4%）であった。今後の地域枠制度導入については、8大学から回答があり、4大学では「今後も導入しない」との回答であったが、「今後導入予定」と回答した大学が2大学、「今後導入検討」が2大学あった（表A-8、A-8(1)参照）。

既に導入している大学への制度継続についての質問は集計データ集p(3)を、導入しないと回答した大学の理由は集計データ集p(4)～(7)「選択した理由」参照されたし。

表A-2 従来の制度区分(A1・A2・B1・B2)の制度数と新たに整理された地域枠等の制度数

| n= 199 | A1区分 | A2区分 | B1区分 | B2区分 | 計 |
|--------|------|------|------|------|-----|
| 地域枠 | 153 | 1 | 6 | 1 | 161 |
| 地元出身者枠 | 1 | 0 | 4 | 2 | 7 |
| 大学独自枠 | 6 | 3 | 20 | 2 | 31 |
| 計 | 160 | 4 | 30 | 5 | 199 |

図A-2 大学別制度の導入数と区分内訳・地域枠等内訳



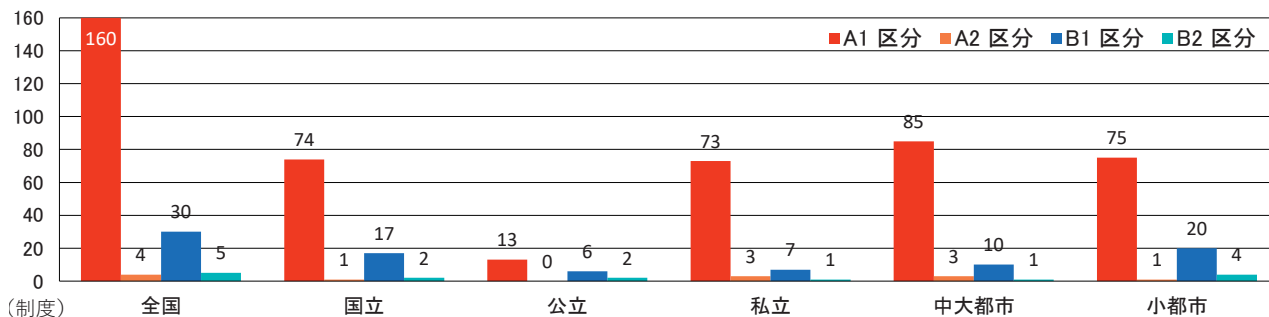
表A-3 制度区別の制度数と定員

※(平均)は1制度あたりの定員数

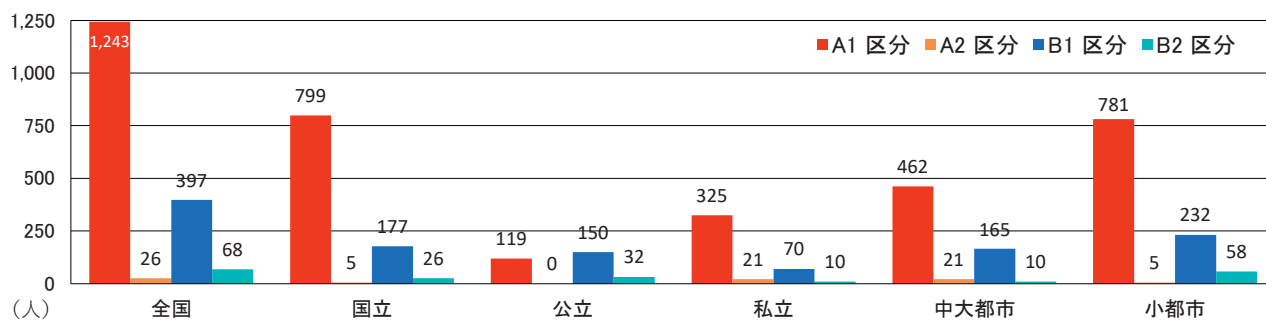
| 制度区分 | 全国 | | | 国立 | | | 公立 | | | 私立 | | | 中大都市 | | | 小都市 | | |
|------|-----|-------|------|----|-------|------|----|-----|------|----|-----|------|------|-----|------|-----|-------|------|
| | 制度 | 定員 | (平均) | 制度 | 定員 | (平均) | 制度 | 定員 | (平均) | 制度 | 定員 | (平均) | 制度 | 定員 | (平均) | 制度 | 定員 | (平均) |
| A1区分 | 160 | 1,243 | 7.8 | 74 | 799 | 10.8 | 13 | 119 | 9.2 | 73 | 325 | 4.5 | 85 | 462 | 5.4 | 75 | 781 | 10.4 |
| A2区分 | 4 | 26 | 6.5 | 1 | 5 | 5.0 | 0 | 0 | | 3 | 21 | 7.0 | 3 | 21 | 7.0 | 1 | 5 | 5.0 |
| B1区分 | 30 | 397 | 13.2 | 17 | 177 | 10.4 | 6 | 150 | 25.0 | 7 | 70 | 10.0 | 10 | 165 | 16.5 | 20 | 232 | 11.6 |
| B2区分 | 5 | 68 | 13.6 | 2 | 26 | 13.0 | 2 | 32 | 16.0 | 1 | 10 | 10.0 | 1 | 10 | 10.0 | 4 | 58 | 14.5 |
| 計 | 199 | 1,734 | 8.7 | 94 | 1,007 | 10.7 | 21 | 301 | 14.3 | 84 | 426 | 5.1 | 99 | 658 | 6.6 | 100 | 1,076 | 10.8 |

※編入学制度、中途貸与制度を含む

図A-3(1) 制度区別の制度数



図A-3(2) 制度区別の定員数



表A-3(1) 新たに整理された地域枠等による制度数と定員

※(平均)は1制度あたりの定員数

| 制度区分 | 全定員 | | | 恒久定員 | | | 臨時定員 | | | 恒久・臨時混在 | | |
|--------|-----|-------|------|------|-----|------|------|-----|------|---------|------|------|
| | 制度 | 定員 | (平均) | 制度 | 定員 | (平均) | 制度 | 定員 | (平均) | 制度 | 恒久定員 | 臨時定員 |
| 地域枠 | 161 | 1,279 | 7.9 | 22 | 223 | 10.1 | 116 | 702 | 6.1 | 23 | 107 | 246 |
| 地元出身者枠 | 7 | 78 | 11.1 | 6 | 68 | 11.3 | 1 | 10 | 10.0 | 0 | 0 | 0 |
| 大学独自枠 | 31 | 377 | 12.2 | 30 | 362 | 12.1 | 0 | 0 | | 1 | 3 | 12 |
| 計 | 199 | 1,734 | 8.7 | 58 | 653 | 11.3 | 117 | 712 | 6.1 | 24 | 110 | 258 |

※編入学制度、中途貸与制度を含む

表A-3(2) 都道府県との協議の有無

※():割合

| | 全国 | A1 | A2 | B1 | B2 | 地域枠 | 地元出身者枠 | 大学独自枠 |
|------|------------|------------|----------|-----------|-----------|------------|----------|-----------|
| 全制度数 | 199 | 160 | 4 | 30 | 5 | 161 | 7 | 31 |
| 協議あり | 141 (70.9) | 129 (80.6) | 2 (50.0) | 10 (33.3) | 0 | 130 (80.7) | 0 (0.0) | 11 (35.5) |
| 協議なし | 27 (13.6) | 8 (5.0) | 2 (50.0) | 12 (40.0) | 5 (100.0) | 10 (6.2) | 4 (57.1) | 13 (41.9) |
| 未回答 | 31 (15.6) | 23 (14.4) | 0 | 8 (26.7) | 0 | 21 (13.0) | 3 (42.9) | 7 (22.6) |

| | 全国 | 国立 | 公立 | 私立 | 中大都市 | 小都市 |
|------|------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 全制度数 | 199 | 94 | 21 | 84 | 99 | 100 |
| 協議あり | 141 (70.9) | 68 (72.3) | 14 (66.7) | 59 (70.2) | 72 (72.7) | 69 (69.0) |
| 協議なし | 27 (13.6) | 11 (11.7) | 3 (14.3) | 13 (15.5) | 11 (11.1) | 16 (16.0) |
| 未回答 | 31 (15.6) | 15 (16.0) | 4 (19.0) | 12 (14.3) | 16 (16.2) | 15 (15.0) |

表A-3(3) 高校卒業後年数制限

※():割合

| | 全国 | A1 | A2 | B1 | B2 | 地域枠 | 地元出身者枠 | 大学独自枠 |
|------|-----------|-----------|----------|-----------|----------|-----------|----------|-----------|
| 全制度数 | 199 | 160 | 4 | 30 | 5 | 161 | 7 | 31 |
| 制限あり | 89 (44.7) | 70 (43.8) | 1 (25.0) | 15 (50.0) | 3 (60.0) | 69 (42.9) | 5 (71.4) | 15 (48.4) |
| 現役のみ | 18 (9.0) | 12 (7.5) | 0 | 4 (13.3) | 2 (40.0) | 14 (8.7) | 0 | 4 (12.9) |
| 制限なし | 82 (41.2) | 69 (43.1) | 2 (50.0) | 11 (36.7) | 0 | 69 (42.9) | 1 (14.3) | 12 (38.7) |
| 未回答 | 10 (5.0) | 9 (5.6) | 1 (25.0) | 0 | 0 | 9 (5.6) | 1 (14.3) | 0 |

| | 全国 | 国立 | 公立 | 私立 | 中大都市 | 小都市 |
|------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 全制度数 | 199 | 94 | 21 | 84 | 99 | 100 |
| 制限あり | 89 (44.7) | 58 (61.7) | 11 (52.4) | 20 (23.8) | 32 (32.3) | 57 (57.0) |
| 現役のみ | 18 (9.0) | 6 (6.4) | 2 (9.5) | 10 (11.9) | 8 (8.1) | 10 (10.0) |
| 制限なし | 82 (41.2) | 29 (30.9) | 8 (38.1) | 45 (53.6) | 50 (50.5) | 32 (32.0) |
| 未回答 | 10 (5.0) | 1 (1.1) | 0 | 9 (10.7) | 9 (9.1) | 1 (1.0) |

表A-3(4) 高校卒業後年数制限ありの場合の年数

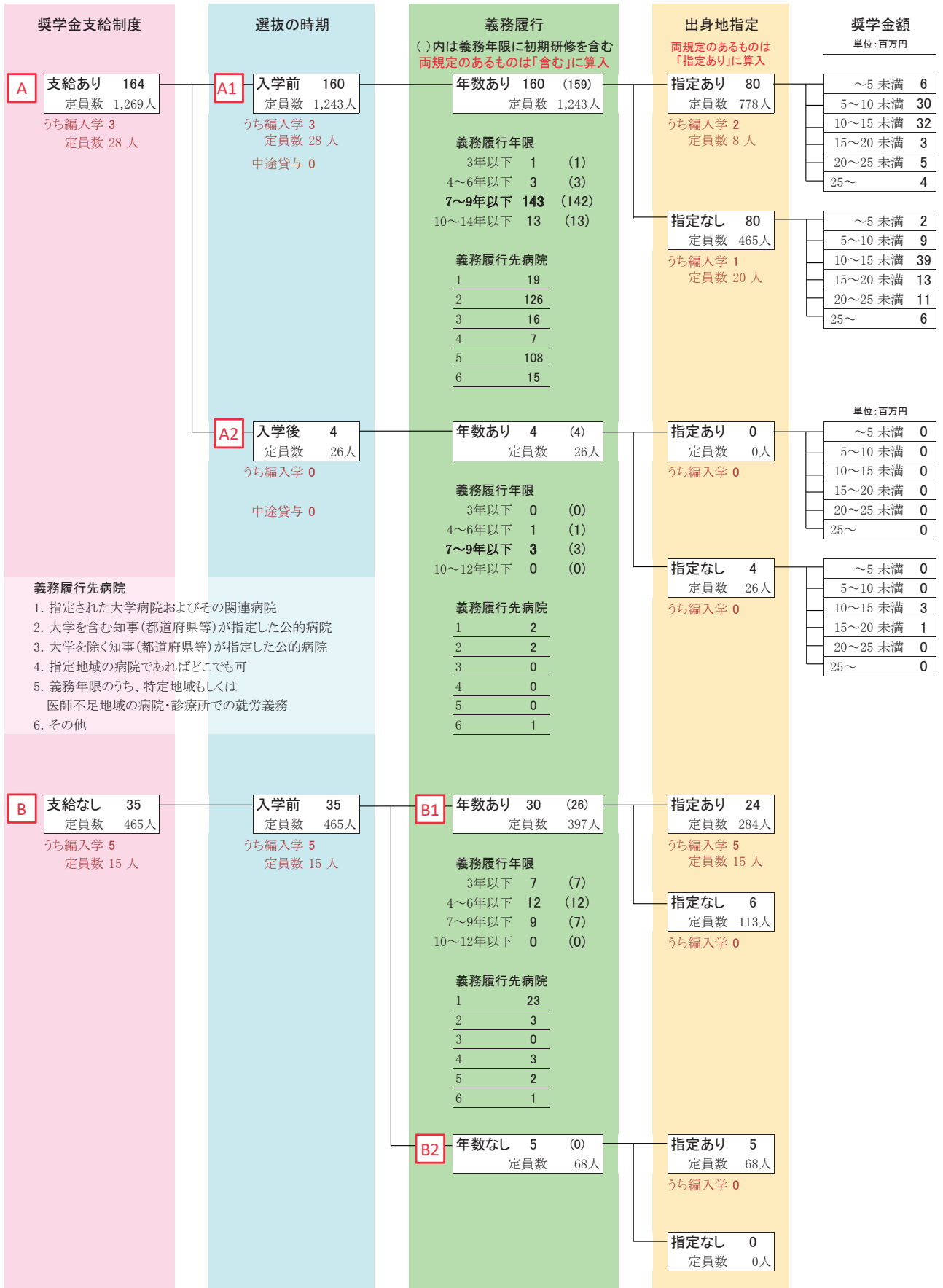
※():割合

| | 全国 | A1 | A2 | B1 | B2 | 地域枠 | 地元出身者枠 | 大学独自枠 |
|------|-----------|-----------|---------|----------|----------|-----------|----------|----------|
| 全制度数 | 89 | 70 | 1 | 15 | 3 | 69 | 5 | 15 |
| 1年 | 56 (62.9) | 45 (64.3) | 1 (100) | 8 (53.3) | 2 (66.7) | 44 (63.8) | 4 (80.0) | 8 (53.3) |
| 2年 | 25 (28.1) | 22 (31.4) | 0 | 2 (13.3) | 1 (33.3) | 22 (31.9) | 1 (20.0) | 2 (13.3) |
| 3年 | 2 (2.2) | 2 (2.9) | 0 | 0 | 0 | 2 (2.9) | 0 | 0 |
| 4年 | 4 (4.5) | 1 (1.4) | 0 | 3 (20.0) | 0 | 1 (1.4) | 0 | 3 (20.0) |
| 未回答 | 2 (2.2) | 0 | 0 | 2 (13.3) | 0 | 0 | 0 | 2 (13.3) |

| | 全国 | 国立 | 公立 | 私立 | 中大都市 | 小都市 |
|------|-----------|-----------|----------|-----------|-----------|-----------|
| 全制度数 | 89 | 58 | 11 | 20 | 32 | 57 |
| 1年 | 56 (62.9) | 36 (62.1) | 7 (63.6) | 13 (65.0) | 17 (53.1) | 39 (68.4) |
| 2年 | 25 (28.1) | 18 (31.0) | 3 (27.3) | 4 (20.0) | 10 (31.3) | 15 (26.3) |
| 3年 | 2 (2.2) | 2 (3.4) | 0 | 0 (0.0) | 1 (3.1) | 1 (1.8) |
| 4年 | 4 (4.5) | 0 | 1 (9.1) | 3 (15.0) | 4 (12.5) | 0 (0.0) |
| 未回答 | 2 (2.2) | 2 (3.4) | 0 | 0 | 0 | 2 (3.5) |

図A-3 現行の区分別制度数と定員（令和5年度）

※定員以外の数値は、奨学制度件数

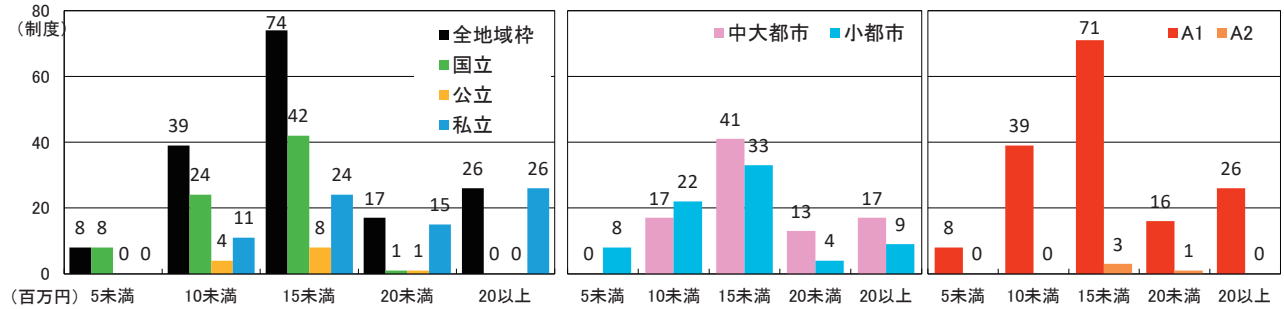


※同一都道府県による奨学金制度であっても、大学が異なれば違う制度として集計した。

表A-4 6年間一人当たりの奨学金貸与総額

| | 全地域枠 | 国立 | 公立 | 私立 | 中大都市 | 小都市 | A1 | A2 | B1 | B2 |
|------------|------|------|------|------|------|------|------|------|----|----|
| 制度数 | 164 | 75 | 13 | 76 | 88 | 76 | 160 | 4 | | |
| (平均) (百万円) | 13.8 | 9.8 | 10.2 | 18.3 | 15.8 | 11.4 | 13.8 | 13.3 | | |
| (最多) | 44.8 | 17.9 | 15.2 | 44.8 | 44.8 | 36.6 | 44.8 | 16.0 | | |
| (最少) | 2.0 | 2.0 | 7.2 | 6.0 | 6.0 | 2.0 | 2.0 | 10.8 | | |

図A-4 6年間一人当たりの奨学金貸与総額



表A-5(1) 義務履行年数

| | (奨学金支給あり A区分:A1・A2) | | | | | | | (奨学金支給なし B1区分) | | | | | | (新定義地域枠等) | | | |
|-----|---------------------|-----|----|----|----|----|------|----------------|-----|----|----|----|------|-----------|-----|--------|-------|
| | A区分 | A1 | A2 | 国立 | 公立 | 私立 | 中大都市 | 小都市 | B区分 | 国立 | 公立 | 私立 | 中大都市 | 小都市 | 地域枠 | 地元出身者枠 | 大学独自枠 |
| 制度数 | 164 | 160 | 4 | 75 | 13 | 76 | 88 | 76 | 28 | 15 | 6 | 7 | 10 | 18 | 160 | 5 | 27 |
| 2年 | 1 | 1 | | 1 | | | | 1 | 1 | | | | | 1 | | | 2 |
| 3年 | | | | | | | | 6 | 5 | 1 | | | 6 | | 2 | 3 | 1 |
| 4年 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5年 | 1 | 1 | | | | 1 | | 1 | 4 | 2 | | 2 | 1 | 3 | | | 5 |
| 6年 | 3 | 2 | 1 | 2 | | 1 | 1 | 2 | 8 | 3 | | 5 | 5 | 3 | | | 11 |
| 7年 | | | | | | | | | 3 | 1 | 2 | | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 8年 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9年 | 146 | 143 | 3 | 66 | 13 | 67 | 81 | 65 | 6 | 3 | 3 | | 2 | 4 | 146 | | 6 |
| 10年 | 8 | 8 | | 2 | | 6 | 6 | 2 | | | | | | | 6 | 1 | 1 |
| 11年 | 4 | 4 | | 3 | | 1 | | | | | | | | | 4 | | |
| 14年 | 1 | 1 | | 1 | | | | | | | | | | | 1 | | |

表A-5(2) 義務履行猶予期間

| | (奨学金支給あり A区分:A1・A2) | | | | | | | (奨学金支給なし B1区分) | | | | | | (新定義地域枠等) | | | |
|-----|---------------------|-----|----|----|----|----|------|----------------|-----|----|----|----|------|-----------|-----|--------|-------|
| | A区分 | A1 | A2 | 国立 | 公立 | 私立 | 中大都市 | 小都市 | B区分 | 国立 | 公立 | 私立 | 中大都市 | 小都市 | 地域枠 | 地元出身者枠 | 大学独自枠 |
| 制度数 | 161 | 157 | 4 | 74 | 13 | 74 | 86 | 75 | 30 | 17 | 6 | 7 | 10 | 20 | 159 | 7 | 30 |
| 1年 | 3 | 3 | | 2 | | 1 | 2 | 1 | | | | | | | 3 | | |
| 2年 | 10 | 10 | | 8 | | 2 | 1 | 9 | | | | | | | 10 | | |
| 3年 | 25 | 25 | | 16 | 4 | 5 | 12 | 13 | | | | | | | 25 | | |
| 4年 | 19 | 19 | | 3 | 2 | 14 | 17 | 2 | 2 | | 2 | | 2 | | 21 | | |
| 5年 | 12 | 12 | | 10 | | 2 | 2 | 10 | | | | | | | 10 | | 2 |
| 6年 | 12 | 12 | | 3 | | 9 | 6 | 6 | | | | | | | 12 | | |
| 7年 | 12 | 11 | 1 | 2 | | 10 | 12 | | | | | | | | 12 | | |
| 8年 | 2 | 1 | 1 | 2 | | | | 2 | | | | | | | 1 | | 1 |
| 9年 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10年 | 2 | 2 | | 2 | | | | 2 | | | | | | | 2 | | |
| なし | 38 | 37 | 1 | 20 | 7 | 11 | 17 | 21 | 20 | 9 | 4 | 7 | 8 | 12 | 37 | 2 | 19 |
| 未回答 | 26 | 25 | 1 | 6 | | 20 | 17 | 9 | 8 | 8 | | | 8 | | 26 | 5 | 8 |

表A-5(3)義務履行と初期研修(全国)

※条件付き: 県内研修をした場合は1年又は2年を義務年限にカウントする

| 制度区分 初期研修 (数) | A1 | | | | | | A2 | | | | | | B1 | | | | | |
|---------------------|-----|-------|-----|----|------|----|----|----|-----|----|------|----|----|----|-----|----|------|----|
| | 含む | | 含まず | | 条件付き | | 含む | | 含まず | | 条件付き | | 含む | | 含まず | | 条件付き | |
| | 制度 | 定員 | 制度 | 定員 | 制度 | 定員 | 制度 | 定員 | 制度 | 定員 | 制度 | 定員 | 制度 | 定員 | 制度 | 定員 | 制度 | 定員 |
| 義務履行 2年 | 1 | 20 | | | | | | | | | | | 1 | 18 | | | | |
| 3年 | | | | | | | | | | | | | 6 | 82 | | | | |
| 5年 | 1 | 1 | | | | | | | | | | | 4 | 33 | | | | |
| 6年 | 2 | 10 | | | | | 1 | 12 | | | | | 8 | 83 | | | | |
| 7年 | | | | | | | | | | | | | 1 | 10 | 2 | 75 | | |
| 9年 | 133 | 1,053 | 1 | 2 | 9 | 50 | 3 | 14 | | | | | 6 | 92 | | | | |
| 10年 | 8 | 54 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11年 | 4 | 37 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 14年 | 1 | 16 | | | | | | | | | | | | | | | | |

表A-6 義務履行病院(複数回答あり)

(奨学金支給あり A区分)

(奨学金支給なし B1区分)

(新定義地域枠等)

| 制度数 | A区分 | | A区分 | | | | | B1区分 | | B1区分 | | | B1区分 | | 新定義地域枠等 | | |
|-------|-----|-----|-----|----|----|------|-----|------|----|------|----|------|------|-----|---------|-------|----|
| | A1 | A2 | 国立 | 公立 | 私立 | 中大都市 | 小都市 | B1区分 | 国立 | 公立 | 私立 | 中大都市 | 小都市 | 地域枠 | 地元出身者枠 | 大学独自枠 | |
| 164 | 160 | 4 | 75 | 13 | 76 | 88 | 76 | 30 | 17 | 6 | 7 | 10 | 20 | 160 | 5 | 29 | |
| 1(制度) | 21 | 19 | 2 | 11 | 2 | 8 | 10 | 11 | 23 | 11 | 5 | 7 | 10 | 13 | 23 | 4 | 17 |
| 2 | 128 | 126 | 2 | 61 | 11 | 56 | 66 | 62 | 3 | 3 | | | 3 | 122 | 1 | 8 | |
| 3 | 16 | 16 | | 4 | 1 | 11 | 12 | 4 | | | | | | 16 | | | |
| 4 | 7 | 7 | | 1 | 1 | 5 | 7 | | 3 | 3 | | | 3 | 7 | | 3 | |
| 5 | 104 | 104 | | 46 | 11 | 47 | 59 | 45 | 2 | | 2 | 2 | | 104 | | 2 | |
| 6 | 13 | 12 | 1 | 7 | | 6 | 6 | 7 | 1 | | 1 | | 1 | 12 | | 2 | |

1. 指定された大学病院およびその関連病院
2. 大学を含む知事(都道府県等)が指定した公的病院
3. 大学を除く知事(都道府県等)が指定した公的病院
4. 指定地域の病院であればどこでも可
5. 義務年限のうち、特定地域もしくは医師不足地域の病院・診療所での就労義務
6. その他

表A-7 誓約書の提出

| | 全制度 | 地域枠 | 地元出身者枠 | 大学独自枠 |
|------|-----|-----|--------|-------|
| 義務あり | 191 | 158 | 4 | 29 |
| 1. | 151 | 128 | 4 | 19 |
| 2. | 112 | 94 | 4 | 14 |
| 3. | 56 | 55 | | 1 |
| 4. | 11 | 10 | 1 | |
| 5. | 57 | 48 | 2 | 7 |
| 6. | 39 | 31 | 2 | 6 |
| 7. | 84 | 72 | 2 | 10 |
| 8. | 17 | 17 | | |
| 9. | 18 | 17 | | 1 |
| 10. | 28 | 28 | | |
| 11. | 74 | 68 | | 6 |
| 未回答 | 27 | 21 | | 6 |
| 義務なし | 8 | 3 | 3 | 2 |

記載事項

1. 履行義務
2. 履行義務年限
3. 履行義務年限のうちの医師不足地域勤務の年限
4. 大学病院研修の期間の取扱い
5. 初期研修の期間の取扱い
6. 後期研修の期間の取扱い
7. 義務履行病院について
8. 大学院に在学している期間の取扱い
9. 上記4～8以外の猶予期間・条件
10. 診療科指定について
11. その他

第1章

表A-8 地域枠制度の有無

| | 全国 | 国立 | 公立 | 私立 | 中大都市 | 小都市 |
|----------|----|----|----|----|------|-----|
| 回答校 (校) | 79 | 42 | 8 | 29 | 46 | 33 |
| 1 ある (校) | 70 | 37 | 8 | 25 | 37 | 33 |
| 2 ない | 9 | 5 | 0 | 4 | 9 | 0 |

「2. ない」場合

表A-8(1) 今後の制度導入について

| | 全国 | 国立 | 公立 | 私立 | 中大都市 | 小都市 |
|----------------|----|----|----|----|------|-----|
| 回答校 (校) | 8 | 5 | 0 | 3 | 8 | 0 |
| 1 今後も導入しない (校) | 4 | 4 | 0 | 0 | 4 | 0 |
| 2 今後導入予定 | 2 | 0 | 0 | 2 | 2 | 0 |
| 3 今後導入検討 | 2 | 1 | 0 | 1 | 2 | 0 |

※未答：1校

第2章 地域枠入学者の転帰（卒前、卒後の状況）

地域枠入学者の転帰情報について、令和7年度は国立大学37校中32校、公立大学8校中5校、私立大学25校中24校、合計70校中61校から回答を得て、経時データを含めて集計した。

集計方法は、以下の3段階とした。

1. 入学状況（平成20～令和7年度地域枠入学生）については、定員数との充足状況
2. 医師国家試験合格（平成25年度～令和5年度卒業生）については、地域枠入学生の学修成果等をストレート卒業率^{注1)}と医師国家試験現役合格率^{注2)}ならびに退学・転学率を指標として全国平均^{注3)}と比較
3. 医師国家試験合格以降については、地域枠出身者の義務履行状況を義務履行率、中絶率などを指標として評価、また、卒後一定の義務を有する全入学生について、離脱率（中途辞退率）を入学者数に対する割合として算出

転帰調査の対象大学61校からのデータ集計に際しては、設立別、都市規模別、制度区分別に分けて集計し、一部の項目については出身地（県内、県外）別^{注4)}、男女別の集計を行った。^{注5) 注6)}

注1)．ストレート卒業率：入学者数に対する修業年限で卒業した人数の割合。

注2)．医師国試現役合格率：卒業者数に対する卒業年度の医師国家試験に合格した人数の割合。

注3)．ストレート卒業率の全国平均については、平成28年度までは全国医学部長病院長会議「平成29年度医学教育カリキュラムの現状」より引用した。平成29年度からは文部科学省公表データを用いた。また、医師国家試験現役合格率については厚生労働省医師国家試験合格状況より引用した。

注4)．義務履行地である都道府県出身者を「県内」、それ以外の都道府県出身者を「県外」として区分した。

注5)．地域枠制度の内容（奨学金額、選抜時期、義務年限、出身地指定等）に変更があった場合には、集計上の必要性に応じ、変更年度以降を別の制度として集計したものがある。

注6)．全体の集計は1年次入学時を基点としたため、編入学については、6年制と仮定した遡る年度の入学者数に合算して集計した。このため、編入学生については、平成24年度以前の卒業生を集計から除外した。中途貸与者（奨学金の中途学年からの貸与者）についても、貸与開始年度ではなく入学年度で集計した。

1. 定員と入学者数の推移

本年度の調査では、調査対象大学61校で令和7年度入学の地域枠定員総数は1,516人（61校）であった（編入学は入学年度の定員とし、奨学金の中途貸与枠の定員については、入学年に遡る年度の定員に加えて集計した）。内訳は、A1区分:1,158人、A2区分:26人、B1区分:274人、B2区分:58人であった。また、中大都市群と小都市群の定員総数は、それぞれ621人、895人であった。また1校当たりの定員は、国立大学25.8人（826人/32校）、公立大学55.4人（277人/5校）、私立大学17.3人（413人/24校）であった。本年度の入学者は、全地域枠で930人、A1区分で745人、A2区分で17人、B1区分で120人、B2区分で48人であり、中大都市群では366人、小都市群では564人であった（図・表B-1参照）。

なお、定員充足率に関しては、二つの制度で合計何人のように個々の制度の定員が明確でないものがあり、そのような場合は実質入学者数の平均で按分した人数を個々の定員とし、充足率を算出した。

2. 医師国家試験合格までの状況

2.1. ストレート卒業率

当初、全地域枠のストレート卒業率は全国平均を上回っていたが、徐々に全国平均に近似してきた（図・表B-2(1)参照）。

2.2. 医師国家試験現役合格率

全地域枠の医師国家試験現役合格率は、継続して全国平均を上回っていた（図・表B-2(2)参照）。

また、全卒業生を出身地別で比較すると、ストレート卒業率（県内:87.5%、県外:79.9%）、国試現役合格率（県内:96.6%、県外:94.2%）とも県内出身の方が県外出身よりやや高かった（集計データ集 表D-1(1)～(3)参照）。

2.3. 退学・転学者

退学・転学者については、地域枠入学者数に占める割合を算出した（集計データ集表D-2(1)～(3)参照）。

3. 医師国家試験合格以降の状況

奨学金の有無や義務年数・具体的な義務内容の設定のみならず、義務不履行への対応にもA区分（奨学金支給枠）とB区分（奨学金を支給しない枠）では大きな差がある。A区分では、義務を履行しない場合には奨学金を返還しなければならず、さらに一括返還で利子加算のある制度が多い。一方B区分では、卒業に関する部分を除けば、地域枠出身者の道義的責任ともいうべきところに依存している。B1区分では、一定の履行義務年数を明示し、誓約書の提出を義務付けていることが多いものの、B2区分の誓約書では「県内医療に貢献」などといった抽象的表現に留まっている場合が多い。B1区分はA区分に比べ義務内容の自由度が高く、専門医取得などのキャリア形成が容易であるという傾向がある。

なお、以下では、具体的な義務年数が設定されていないB2区分については、国家試験合格後の勤務先情報等について記載がないデータが多かったため集計から除いている。

3.1. 義務履行者数と勤務先病院の状況（規模・設置地域）

(1) 義務履行者数

令和7年度調査時点（5月末）では、編入学卒業生や留年生等を除くと平成20年度～令和元年度の入学生が卒業した。初期研修を義務履行に含めているか、義務履行の猶予もしくは中断を認めているかなどの違いにより、各地域枠卒業生の義務履行開始時期は異なる。このため、実際に義務履行中の人数は医師国家試験合格者数より少ない。また、平成25年度以降の国試合格者が調査対象であるが、卒後9年を経過し義務履行年数9年を経過した履行終了者も出てきた（図・表B-3参照）。

(2) 義務履行先病院

地域枠卒業生が初期研修後本年度調査時点で勤務している病院については、県内大学勤務（34.8%）、県内中核病院勤務（53.5%）、県内中小医療機関（9.0%）、県外医療機関（2.1%）であった。また、勤務先の地理区分では、医師不足でない地域勤務が70.2%を占め、医師不足地域の勤務は29.8%と少なかった。勤務先で希望する専門医取得に関する専門研修の可否については、不明を除くとほぼ全ての回答で「可能」であった（表B-3(1)～(3)参照）。

(3) 専攻診療科

回答のあった専攻診療科については、未定が36.7%と最も多く、それ以外では、内科（20.4%）、外科（6.1%）、小児科（4.8%）、産婦人科（4.5%）、整形外科（3.8%）、麻酔科（3.2%）の順であった（表B-6参照）。

3.2. 義務履行中断者の人数とその理由

義務履行の意志を有するものの、専門研修や大学院進学等の何らかの理由で既定の義務を履行していない者

を中断中（猶予期間中の者を含む）としてその人数を集計した。令和6年度までの国試合格者総数9,134人中、中断者数は637人で、その割合（中断率）は7.0%であった。中断者数は初期研修終了後に増加する傾向にある（表B-4参照）。

また、中断理由としては、不明195人（30.6%）を除けば、専門研修220人（34.5%）、その他個人的理由121人（19.0%）、県外への居住地変更50人（7.8%）、大学院入学33人（5.2%）、健康上の理由18人（2.8%）の順であった（表B-4(1)参照）。

男女別でみると、中断率では女性がやや高い傾向にあった（表B-5(5)参照）。

4. 地域枠からの離脱状況

離脱の判定時期については、A区分では「奨学金の返還をした時」とし、B1区分では「指定の病院等に勤務しないか県外に転出などで、所定の義務を履行しないことが明らかとなった時」とした。

令和6年度までの入学者全体（15,721人）で見ると、離脱者は618人で離脱率は3.9%であった。設立別では、国立と私立が公立より高く、制度区分別ではA2区分が高く、中大都市群と小都市群ではほぼ同じであった（表B-5、図B-5(1),(2)参照）。

離脱時期については、6学年から卒後3年目までが多かった（図B-6参照）。また、出身地（県内・県外）による離脱率の比較では、離脱率は入学者全体で県外の離脱率（6.9%）が県内の離脱率（2.9%）を大きく上回った。中大都市群と小都市群を比べると、中大都市群の県外：県内＝6.1%：3.0%、小都市群の県外：県内＝7.9%：2.8%であり、小都市群の県外出身者の離脱率が最も高かった（表B-5(4)参照）。

表B-1 定員数・入学者数・充足率の推移

※単位:人

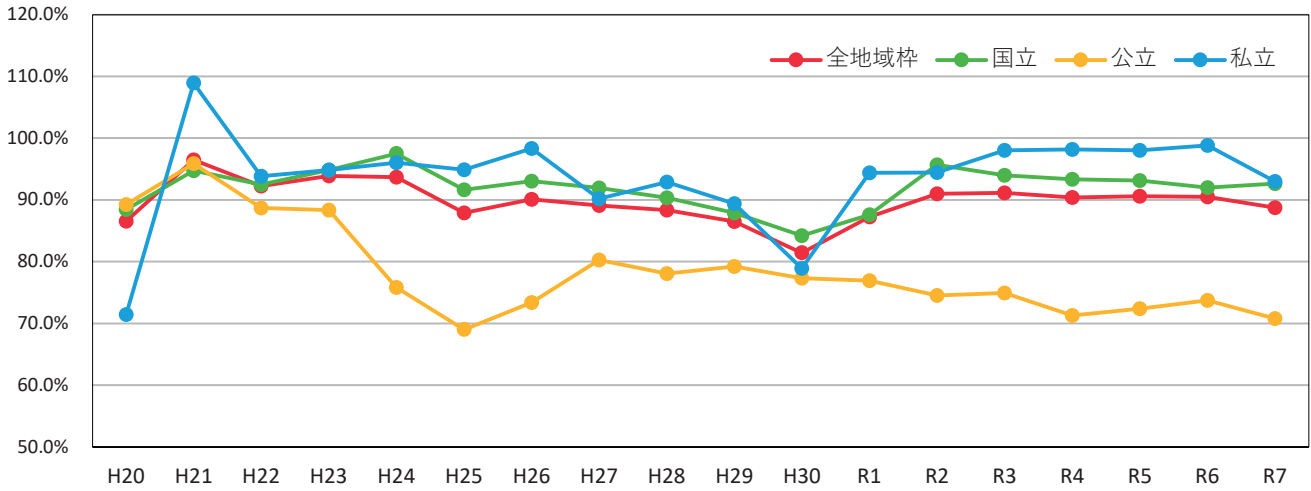
| 設立別 | 全地域枠 | | | 国立 | | | 公立 | | | 私立 | | |
|-------------|--------|--------|-------|--------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
| | 定員数 | 入学者 | 充足率 | 定員数 | 入学者 | 充足率 | 定員数 | 入学者 | 充足率 | 定員数 | 入学者 | 充足率 |
| H20年度(2008) | 290 | 251 | 86.6% | 190 | 168 | 88.4% | 65 | 58 | 89.2% | 35 | 25 | 71.4% |
| H21年度(2009) | 512 | 494 | 96.5% | 359 | 340 | 94.7% | 97 | 93 | 95.9% | 56 | 61 | 108.9% |
| H22年度(2010) | 847 | 781 | 92.2% | 545 | 504 | 92.5% | 124 | 110 | 88.7% | 178 | 167 | 93.8% |
| H23年度(2011) | 930 | 873 | 93.9% | 580 | 550 | 94.8% | 137 | 121 | 88.3% | 213 | 202 | 94.8% |
| H24年度(2012) | 983 | 921 | 93.7% | 601 | 586 | 97.5% | 157 | 119 | 75.8% | 225 | 216 | 96.0% |
| H25年度(2013) | 1,081 | 950 | 87.9% | 633 | 580 | 91.6% | 213 | 147 | 69.0% | 235 | 223 | 94.9% |
| H26年度(2014) | 1,117 | 1,006 | 90.1% | 647 | 602 | 93.0% | 233 | 171 | 73.4% | 237 | 233 | 98.3% |
| H27年度(2015) | 1,208 | 1,076 | 89.1% | 680 | 625 | 91.9% | 253 | 203 | 80.2% | 275 | 248 | 90.2% |
| H28年度(2016) | 1,218 | 1,076 | 88.3% | 683 | 617 | 90.3% | 255 | 199 | 78.0% | 280 | 260 | 92.9% |
| H29年度(2017) | 1,252 | 1,083 | 86.5% | 686 | 603 | 87.9% | 255 | 202 | 79.2% | 311 | 278 | 89.4% |
| H30年度(2018) | 1,271 | 1,035 | 81.4% | 684 | 576 | 84.2% | 260 | 201 | 77.3% | 327 | 258 | 78.9% |
| R1年度(2019) | 1,283 | 1,119 | 87.2% | 684 | 599 | 87.6% | 260 | 200 | 76.9% | 339 | 320 | 94.4% |
| R2年度(2020) | 1,332 | 1,212 | 91.0% | 717 | 686 | 95.7% | 275 | 205 | 74.5% | 340 | 321 | 94.4% |
| R3年度(2021) | 1,354 | 1,234 | 91.1% | 729 | 685 | 94.0% | 275 | 206 | 74.9% | 350 | 343 | 98.0% |
| R4年度(2022) | 1,411 | 1,275 | 90.4% | 752 | 702 | 93.4% | 275 | 196 | 71.3% | 384 | 377 | 98.2% |
| R5年度(2023) | 1,465 | 1,327 | 90.6% | 785 | 731 | 93.1% | 275 | 199 | 72.4% | 405 | 397 | 98.0% |
| R6年度(2024) | 1,505 | 1,362 | 90.5% | 812 | 747 | 92.0% | 278 | 205 | 73.7% | 415 | 410 | 98.8% |
| R7年度(2025) | 1,516 | 1,345 | 88.7% | 826 | 765 | 92.6% | 277 | 196 | 70.8% | 413 | 384 | 93.0% |
| 合計 | 20,575 | 18,420 | 89.5% | 11,593 | 10,666 | 92.0% | 3,964 | 3,031 | 76.5% | 5,018 | 4,723 | 94.1% |

| 都市規模別 | 中大都市 | | | 小都市 | | |
|-------------|-------|-------|-------|--------|--------|-------|
| | 定員数 | 入学者 | 充足率 | 定員数 | 入学者 | 充足率 |
| H20年度(2008) | 55 | 46 | 83.6% | 235 | 205 | 87.2% |
| H21年度(2009) | 131 | 129 | 98.5% | 381 | 365 | 95.8% |
| H22年度(2010) | 278 | 255 | 91.7% | 569 | 526 | 92.4% |
| H23年度(2011) | 326 | 299 | 91.7% | 604 | 574 | 95.0% |
| H24年度(2012) | 346 | 332 | 96.0% | 637 | 589 | 92.5% |
| H25年度(2013) | 404 | 353 | 87.4% | 677 | 597 | 88.2% |
| H26年度(2014) | 422 | 386 | 91.5% | 695 | 620 | 89.2% |
| H27年度(2015) | 481 | 446 | 92.7% | 727 | 630 | 86.7% |
| H28年度(2016) | 488 | 449 | 92.0% | 730 | 627 | 85.9% |
| H29年度(2017) | 519 | 455 | 87.7% | 733 | 628 | 85.7% |
| H30年度(2018) | 534 | 426 | 79.8% | 737 | 609 | 82.6% |
| R1年度(2019) | 539 | 485 | 90.0% | 744 | 634 | 85.2% |
| R2年度(2020) | 532 | 521 | 97.9% | 800 | 691 | 86.4% |
| R3年度(2021) | 544 | 541 | 99.4% | 810 | 693 | 85.6% |
| R4年度(2022) | 583 | 570 | 97.8% | 828 | 705 | 85.1% |
| R5年度(2023) | 617 | 606 | 98.2% | 848 | 721 | 85.0% |
| R6年度(2024) | 625 | 618 | 98.9% | 880 | 744 | 84.5% |
| R7年度(2025) | 621 | 590 | 95.0% | 895 | 755 | 84.4% |
| 合計 | 8,045 | 7,507 | 93.3% | 12,530 | 10,913 | 87.1% |

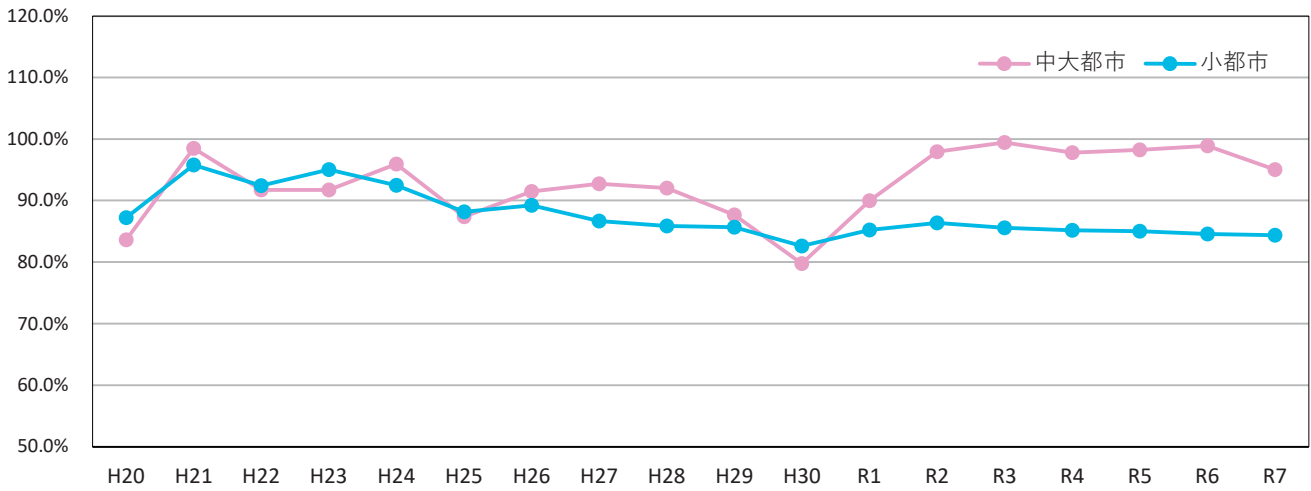
| 制度区分別 | A1区分 | | | A2区分 | | | B1区分 | | | B2区分 | | |
|-------------|--------|--------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|--------|-------|-------|--------|
| | 定員数 | 入学者 | 充足率 | 定員数 | 入学者 | 充足率 | 定員数 | 入学者 | 充足率 | 定員数 | 入学者 | 充足率 |
| H20年度(2008) | 100 | 81 | 81.0% | 55 | 48 | 87.3% | 83 | 71 | 85.5% | 52 | 51 | 98.1% |
| H21年度(2009) | 250 | 227 | 90.8% | 76 | 90 | 118.4% | 101 | 96 | 95.0% | 75 | 81 | 108.0% |
| H22年度(2010) | 451 | 392 | 86.9% | 128 | 136 | 106.3% | 166 | 174 | 104.8% | 85 | 79 | 92.9% |
| H23年度(2011) | 498 | 444 | 89.2% | 170 | 157 | 92.4% | 169 | 174 | 103.0% | 93 | 98 | 105.4% |
| H24年度(2012) | 535 | 466 | 87.1% | 181 | 185 | 102.2% | 169 | 169 | 100.0% | 98 | 101 | 103.1% |
| H25年度(2013) | 590 | 507 | 85.9% | 163 | 142 | 87.1% | 227 | 198 | 87.2% | 101 | 103 | 102.0% |
| H26年度(2014) | 612 | 540 | 88.2% | 152 | 136 | 89.5% | 262 | 242 | 92.4% | 91 | 88 | 96.7% |
| H27年度(2015) | 660 | 578 | 87.6% | 167 | 136 | 81.4% | 295 | 280 | 94.9% | 86 | 82 | 95.3% |
| H28年度(2016) | 673 | 587 | 87.2% | 164 | 128 | 78.0% | 295 | 280 | 94.9% | 86 | 81 | 94.2% |
| H29年度(2017) | 686 | 595 | 86.7% | 185 | 119 | 64.3% | 295 | 274 | 92.9% | 86 | 95 | 110.5% |
| H30年度(2018) | 707 | 570 | 80.6% | 183 | 99 | 54.1% | 303 | 274 | 90.4% | 78 | 92 | 117.9% |
| R1年度(2019) | 730 | 653 | 89.5% | 158 | 94 | 59.5% | 317 | 284 | 89.6% | 78 | 88 | 112.8% |
| R2年度(2020) | 903 | 830 | 91.9% | 42 | 36 | 85.7% | 312 | 271 | 86.9% | 75 | 75 | 100.0% |
| R3年度(2021) | 929 | 843 | 90.7% | 57 | 60 | 105.3% | 290 | 257 | 88.6% | 78 | 74 | 94.9% |
| R4年度(2022) | 989 | 890 | 90.0% | 84 | 78 | 92.9% | 260 | 237 | 91.2% | 78 | 70 | 89.7% |
| R5年度(2023) | 1,058 | 975 | 92.2% | 81 | 73 | 90.1% | 263 | 219 | 83.3% | 63 | 60 | 95.2% |
| R6年度(2024) | 1,149 | 1,044 | 90.9% | 26 | 19 | 73.1% | 264 | 234 | 88.6% | 66 | 65 | 98.5% |
| R7年度(2025) | 1,158 | 1,039 | 89.7% | 26 | 17 | 65.4% | 274 | 241 | 88.0% | 58 | 48 | 82.8% |
| 合計 | 12,678 | 11,261 | 88.8% | 2,098 | 1,753 | 83.6% | 4,345 | 3,975 | 91.5% | 1,427 | 1,431 | 100.3% |

※編入学生は入学年度で集計。 ※中途貸与枠の定員は入学年に遡る年度で集計。

図B-1(1) 定員充足率の推移(全国・設立別)



図B-1(2) 定員充足率の推移(都市別)



図B-1(3) 定員充足率の推移(制度区分別)

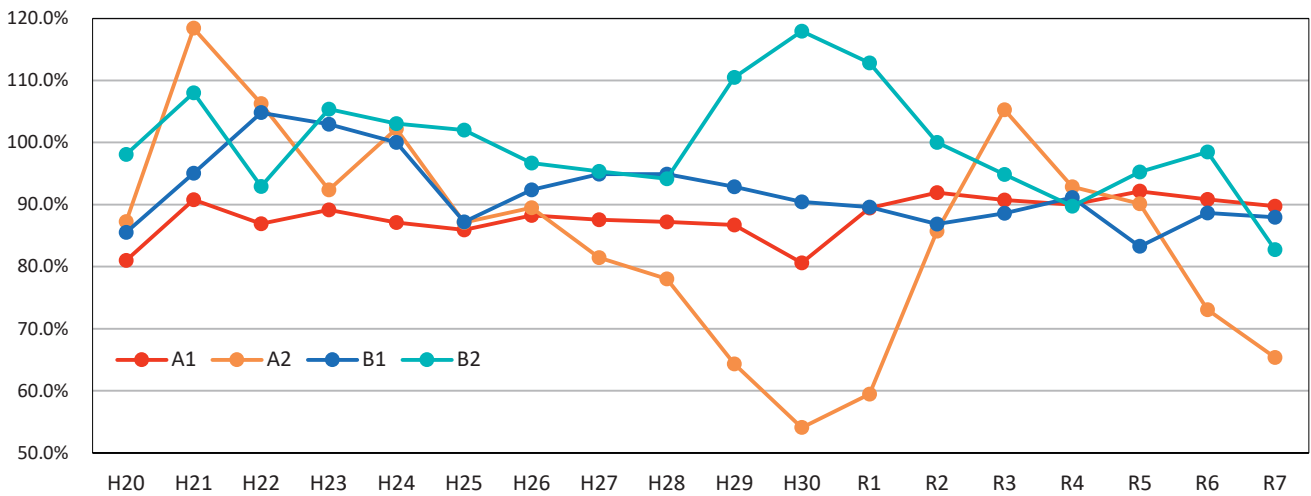


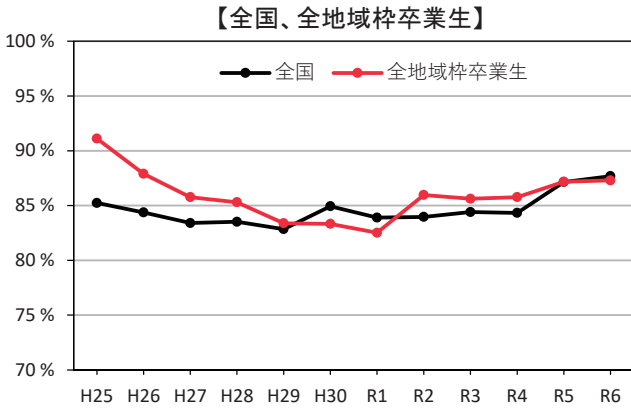
表 B-2(1) ストレート卒業者の推移

※1 ストレート卒業率=(卒業者-留年者・休学者)/入学者数(編入学含む)

| (人) | 全国 | 地域枠 | | | | | | | | | |
|----------------------------|-------|-------|------|------|-------|------|------|------|------|------|------|
| | | 全地域枠 | 国立 | 公立 | 私立 | 中大都市 | 小都市 | A1 | A2 | B1 | B2 |
| H20年度入学者数 | 7,740 | 270 | 186 | 58 | 26 | 50 | 220 | 92 | 54 | 73 | 51 |
| H25年度ストレート卒業者数 | 6,598 | 246 | 168 | 52 | 26 | 46 | 200 | 85 | 51 | 66 | 44 |
| ストレート卒業率 ^{※1} (%) | 85.2 | 91.1 | 90.3 | 89.7 | 100.0 | 92.0 | 90.9 | 92.4 | 94.4 | 90.4 | 86.3 |
| H21年度入学者数 | 8,437 | 504 | 350 | 93 | 61 | 130 | 374 | 228 | 91 | 104 | 81 |
| H26年度ストレート卒業者数 | 7,119 | 443 | 307 | 79 | 57 | 117 | 326 | 199 | 82 | 91 | 71 |
| ストレート卒業率 ^{※1} (%) | 84.4 | 87.9 | 87.7 | 84.9 | 93.4 | 90.0 | 87.2 | 87.3 | 90.1 | 87.5 | 87.7 |
| H22年度入学者数 | 8,705 | 787 | 506 | 110 | 171 | 261 | 526 | 392 | 141 | 175 | 79 |
| H27年度ストレート卒業者数 | 7,261 | 675 | 444 | 99 | 132 | 218 | 457 | 335 | 123 | 145 | 72 |
| ストレート卒業率 ^{※1} (%) | 83.4 | 85.8 | 87.7 | 90.0 | 77.2 | 83.5 | 86.9 | 85.5 | 87.2 | 82.9 | 91.1 |
| H23年度入学者数 | 8,798 | 878 | 554 | 121 | 203 | 302 | 576 | 446 | 158 | 176 | 98 |
| H28年度ストレート卒業者数 | 7,348 | 749 | 470 | 105 | 174 | 262 | 487 | 385 | 133 | 141 | 90 |
| ストレート卒業率 ^{※1} (%) | 83.5 | 85.3 | 84.8 | 86.8 | 85.7 | 86.8 | 84.5 | 86.3 | 84.2 | 80.1 | 91.8 |
| H24年度入学者数 | 8,805 | 909 | 574 | 119 | 216 | 326 | 583 | 459 | 181 | 168 | 101 |
| H29年度ストレート卒業者数 | 7,295 | 758 | 484 | 97 | 177 | 276 | 482 | 385 | 155 | 135 | 83 |
| ストレート卒業率 ^{※1} (%) | 82.9 | 83.4 | 84.3 | 81.5 | 81.9 | 84.7 | 82.7 | 83.9 | 85.6 | 80.4 | 82.2 |
| H25年度入学者数 | 9,082 | 948 | 583 | 147 | 218 | 350 | 598 | 509 | 137 | 199 | 103 |
| H30年度ストレート卒業者数 | 7,714 | 790 | 501 | 112 | 177 | 284 | 506 | 436 | 115 | 160 | 79 |
| ストレート卒業率 ^{※1} (%) | 84.9 | 83.3 | 85.9 | 76.2 | 81.2 | 81.1 | 84.6 | 85.7 | 83.9 | 80.4 | 76.7 |
| H26年度入学者数 | 9,105 | 1,007 | 600 | 171 | 236 | 388 | 619 | 538 | 140 | 241 | 88 |
| R1年度ストレート卒業者数 | 7,639 | 831 | 508 | 124 | 199 | 310 | 521 | 470 | 110 | 176 | 75 |
| ストレート卒業率 ^{※1} (%) | 83.9 | 82.5 | 84.7 | 72.5 | 84.3 | 79.9 | 84.2 | 87.4 | 78.6 | 73.0 | 85.2 |
| H27年度入学者数 | 9,163 | 1,069 | 622 | 203 | 244 | 441 | 628 | 577 | 129 | 281 | 82 |
| R2年度ストレート卒業者数 | 7,694 | 919 | 538 | 175 | 206 | 378 | 541 | 513 | 111 | 221 | 74 |
| ストレート卒業率 ^{※1} (%) | 84.0 | 86.0 | 86.5 | 86.2 | 84.4 | 85.7 | 86.1 | 88.9 | 86.0 | 78.6 | 90.2 |
| H28年度入学者数 | 9,296 | 1,071 | 610 | 199 | 262 | 451 | 620 | 586 | 129 | 275 | 81 |
| R3年度ストレート卒業者数 | 7,847 | 917 | 534 | 171 | 212 | 383 | 534 | 502 | 108 | 233 | 74 |
| ストレート卒業率 ^{※1} (%) | 84.4 | 85.6 | 87.5 | 85.9 | 80.9 | 84.9 | 86.1 | 85.7 | 83.7 | 84.7 | 91.4 |
| H29年度入学者数 | 9,484 | 1,075 | 597 | 202 | 276 | 450 | 625 | 592 | 116 | 272 | 95 |
| R4年度ストレート卒業者数 | 7,998 | 922 | 527 | 162 | 233 | 380 | 542 | 518 | 96 | 225 | 83 |
| ストレート卒業率 ^{※1} (%) | 84.3 | 85.8 | 88.3 | 80.2 | 84.4 | 84.4 | 86.7 | 87.5 | 82.8 | 82.7 | 87.4 |
| H30年度入学者数 | 9,203 | 1,037 | 578 | 201 | 258 | 428 | 609 | 571 | 100 | 274 | 92 |
| R5年度ストレート卒業者数 | 8,021 | 904 | 513 | 179 | 212 | 369 | 535 | 509 | 81 | 234 | 80 |
| ストレート卒業率 ^{※1} (%) | 87.2 | 87.2 | 88.8 | 89.1 | 82.2 | 86.2 | 87.8 | 89.1 | 81.0 | 85.4 | 87.0 |
| R1年度入学者数 | 9,210 | 1,134 | 614 | 200 | 320 | 484 | 650 | 650 | 113 | 283 | 88 |
| R6年度ストレート卒業者数 | 8,076 | 990 | 551 | 174 | 265 | 417 | 573 | 577 | 98 | 239 | 76 |
| ストレート卒業率 ^{※1} (%) | 87.7 | 87.3 | 89.7 | 87.0 | 82.8 | 86.2 | 88.2 | 88.8 | 86.7 | 84.5 | 86.4 |

注:「全国」のストレート卒業者数・率については23年度入学生までは「医学教育カリキュラムの現状」(AJMC隔年調査)から引用。
24年度以降の入学生については文部科学省の公表データによる。

図 B-2(1) ストレート卒業率



ストレート卒業者数

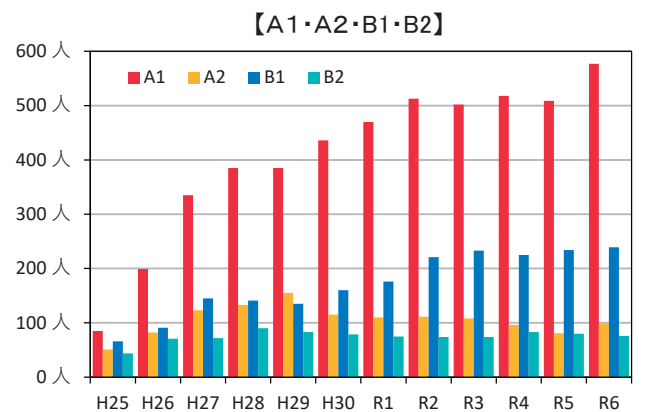
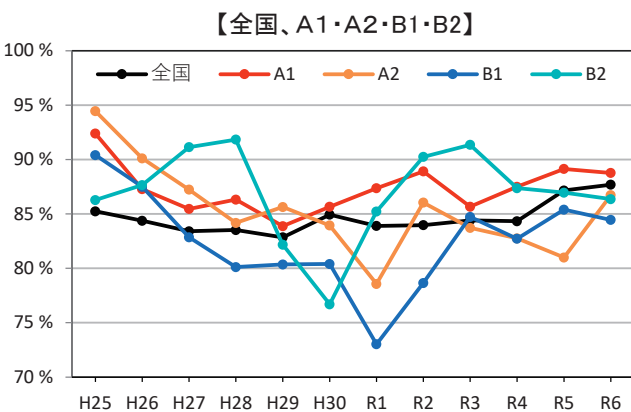
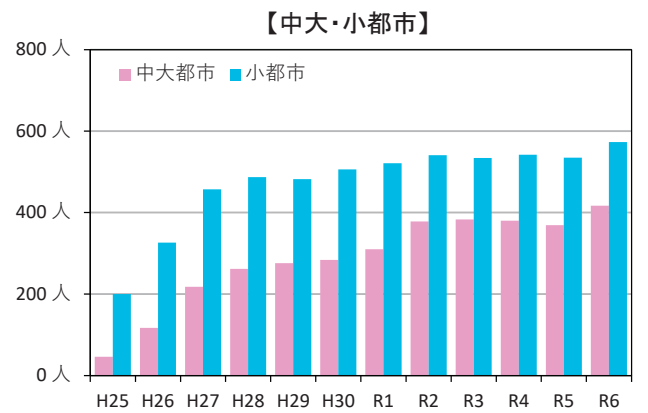
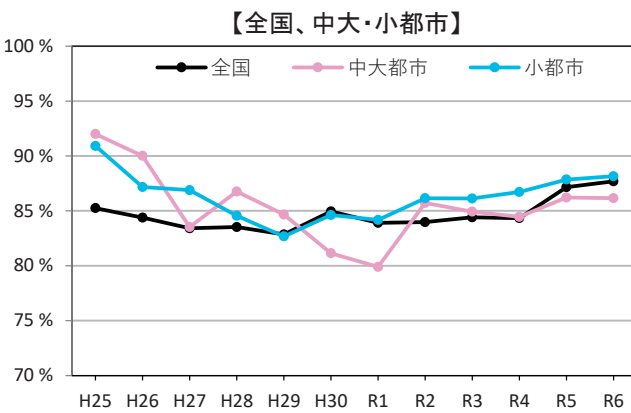
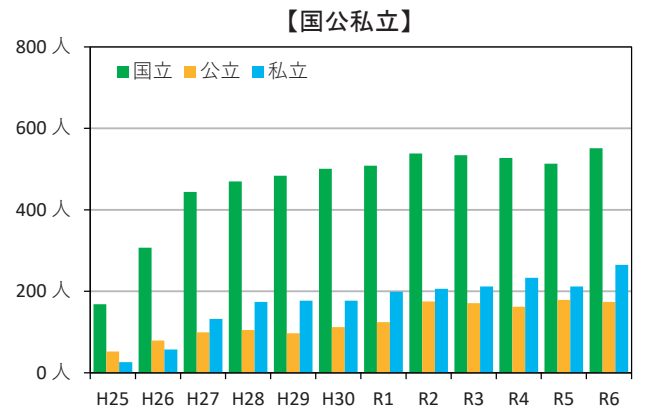
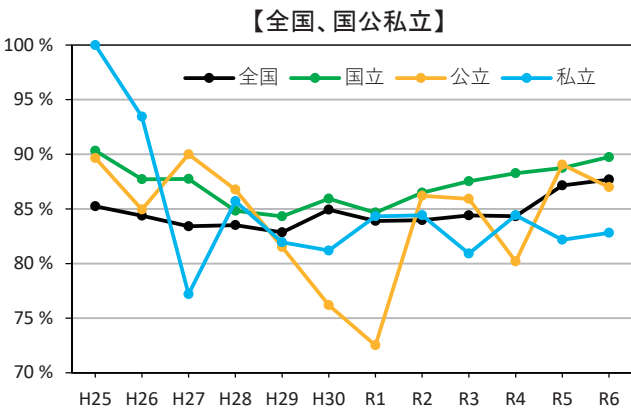
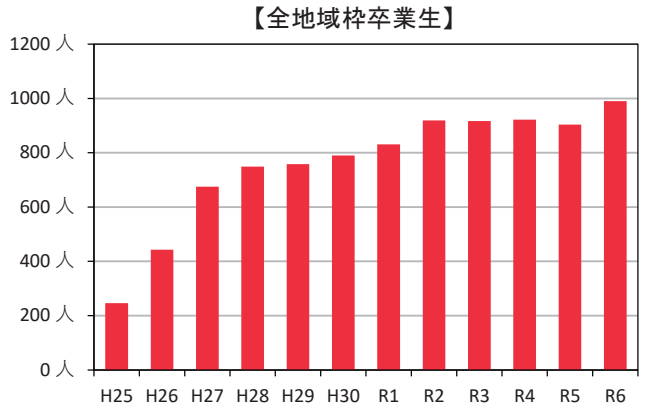


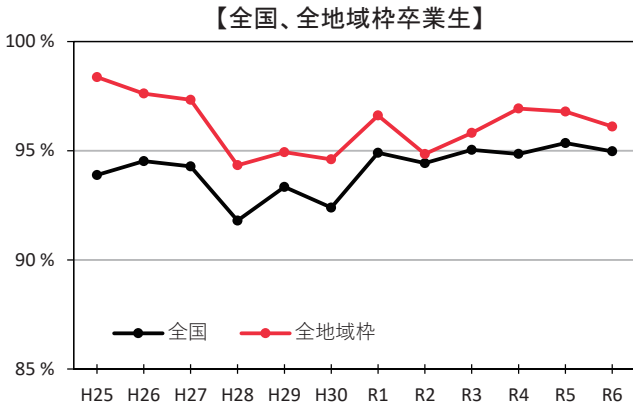
表 B-2(2) 国試現役合格者の推移

※1 現役合格率＝合格者 / 卒業生数（編入学含む）
 ※2 全地域枠の受験者数は、全卒業生が国試を受験したと仮定して算出。

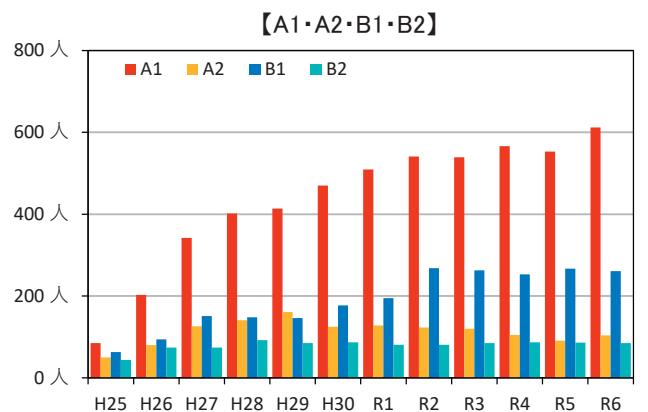
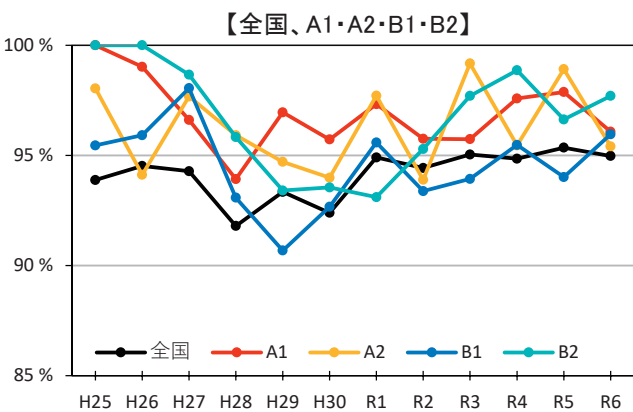
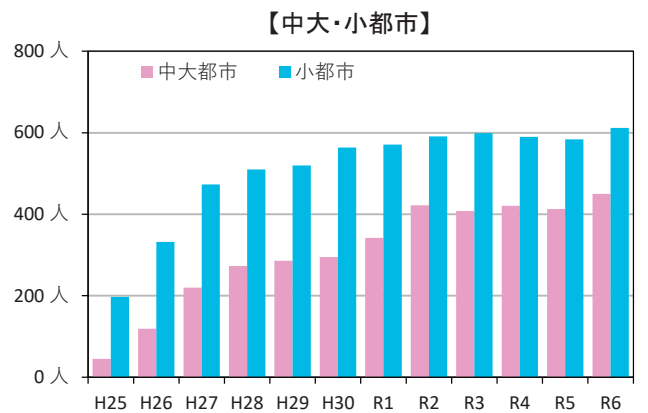
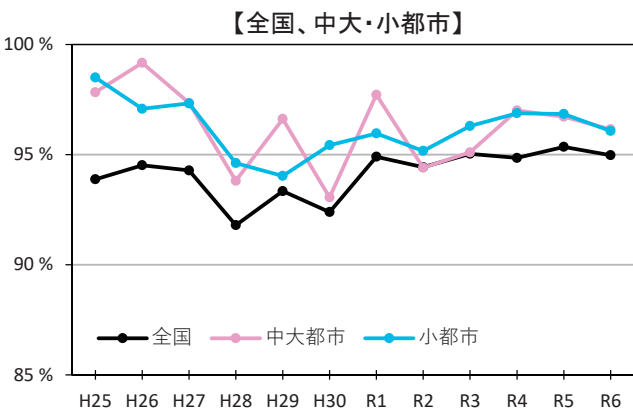
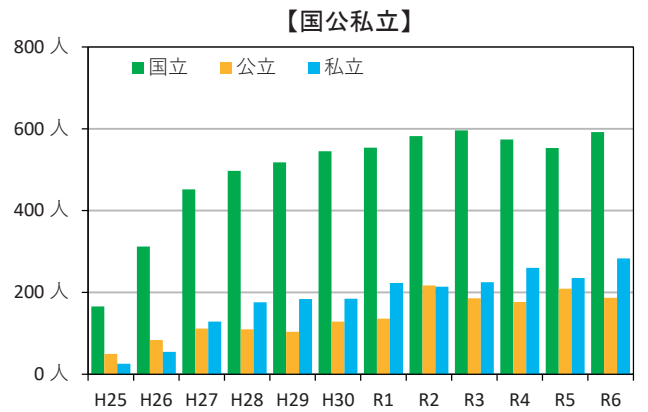
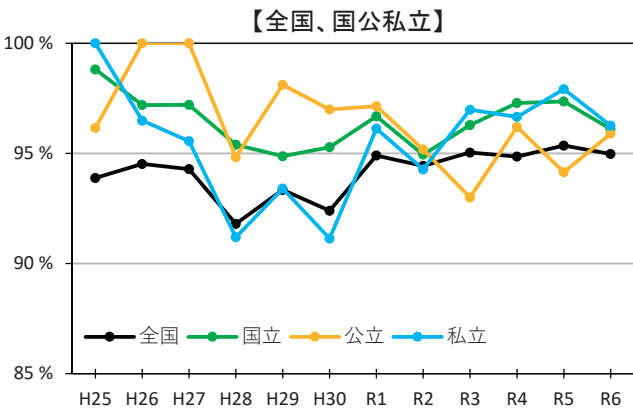
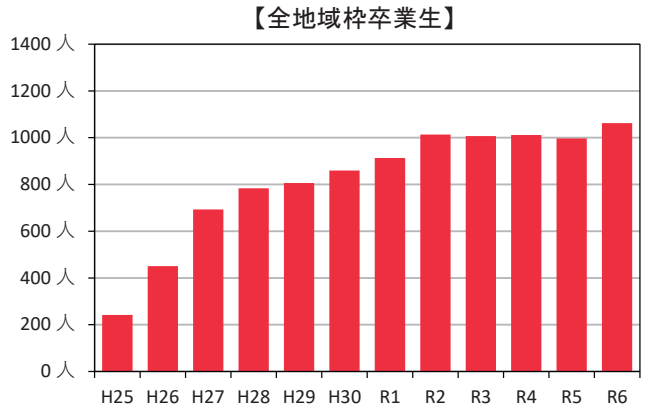
| (人) | 全国 | ※3 全地域枠 | 地域枠 | | | | | | | | |
|-------------------------|-------|------------|------|-------|-------|------|------|-------|------|------|-------|
| | | | 国立 | 公立 | 私立 | 中大都市 | 小都市 | A1 | A2 | B1 | B2 |
| H25年度新卒受験者数 | 7,749 | 246 | 168 | 52 | 26 | 46 | 200 | 85 | 51 | 66 | 44 |
| H25年度現役合格者数 | 7,275 | 242 | 166 | 50 | 26 | 45 | 197 | 85 | 50 | 63 | 44 |
| 現役合格率 ^{※1} (%) | 93.9 | 98.4 | 98.8 | 96.2 | 100.0 | 97.8 | 98.5 | 100.0 | 98.0 | 95.5 | 100.0 |
| H26年度新卒受験者数 | 8,250 | 462 | 321 | 84 | 57 | 120 | 342 | 205 | 85 | 98 | 74 |
| H26年度現役合格者数 | 7,798 | 451 | 312 | 84 | 55 | 119 | 332 | 203 | 80 | 94 | 74 |
| 現役合格率 ^{※1} (%) | 94.5 | 97.6 | 97.2 | 100.0 | 96.5 | 99.2 | 97.1 | 99.0 | 94.1 | 95.9 | 100.0 |
| H27年度新卒受験者数 | 8,660 | 712 | 465 | 112 | 135 | 226 | 486 | 354 | 129 | 154 | 75 |
| H27年度現役合格者数 | 8,165 | 693 | 452 | 112 | 129 | 220 | 473 | 342 | 126 | 151 | 74 |
| 現役合格率 ^{※1} (%) | 94.3 | 97.3 | 97.2 | 100.0 | 95.6 | 97.3 | 97.3 | 96.6 | 97.7 | 98.1 | 98.7 |
| H28年度新卒受験者数 | 8,828 | 830 | 521 | 116 | 193 | 291 | 539 | 428 | 147 | 159 | 96 |
| H28年度現役合格者数 | 8,104 | 783 | 497 | 110 | 176 | 273 | 510 | 402 | 141 | 148 | 92 |
| 現役合格率 ^{※1} (%) | 91.8 | 94.3 | 95.4 | 94.8 | 91.2 | 93.8 | 94.6 | 93.9 | 95.9 | 93.1 | 95.8 |
| H29年度新卒受験者数 | 8,924 | 849 | 546 | 106 | 197 | 296 | 553 | 427 | 170 | 161 | 91 |
| H29年度現役合格者数 | 8,330 | 806 | 518 | 104 | 184 | 286 | 520 | 414 | 161 | 146 | 85 |
| 現役合格率 ^{※1} (%) | 93.3 | 94.9 | 94.9 | 98.1 | 93.4 | 96.6 | 94.0 | 97.0 | 94.7 | 90.7 | 93.4 |
| H30年度新卒受験者数 | 9,176 | 908 | 572 | 133 | 203 | 317 | 591 | 491 | 133 | 191 | 93 |
| H30年度現役合格者数 | 8,478 | 859 | 545 | 129 | 185 | 295 | 564 | 470 | 125 | 177 | 87 |
| 現役合格率 ^{※1} (%) | 92.4 | 94.6 | 95.3 | 97.0 | 91.1 | 93.1 | 95.4 | 95.7 | 94.0 | 92.7 | 93.5 |
| R1年度新卒受験者数 | 9,044 | 945 | 573 | 140 | 232 | 350 | 595 | 523 | 131 | 204 | 87 |
| R1年度現役合格者数 | 8,583 | 913 | 554 | 136 | 223 | 342 | 571 | 509 | 128 | 195 | 81 |
| 現役合格率 ^{※1} (%) | 94.9 | 96.6 | 96.7 | 97.1 | 96.1 | 97.7 | 96.0 | 97.3 | 97.7 | 95.6 | 93.1 |
| R2年度新卒受験者数 | 9,159 | 1,068 | 613 | 228 | 227 | 447 | 621 | 565 | 131 | 287 | 85 |
| R2年度現役合格者数 | 8,649 | 1,013 | 582 | 217 | 214 | 422 | 591 | 541 | 123 | 268 | 81 |
| 現役合格率 ^{※1} (%) | 94.4 | 94.9 | 94.9 | 95.2 | 94.3 | 94.4 | 95.2 | 95.8 | 93.9 | 93.4 | 95.3 |
| R3年度新卒受験者数 | 9,232 | 1,051 | 619 | 200 | 232 | 429 | 622 | 563 | 121 | 280 | 87 |
| R3年度現役合格者数 | 8,774 | 1,007 | 596 | 186 | 225 | 408 | 599 | 539 | 120 | 263 | 85 |
| 現役合格率 ^{※1} (%) | 95.0 | 95.8 | 96.3 | 93.0 | 97.0 | 95.1 | 96.3 | 95.7 | 99.2 | 93.9 | 97.7 |
| R4年度新卒受験者数 | 9,459 | 1,043 | 590 | 184 | 269 | 434 | 609 | 580 | 110 | 265 | 88 |
| R4年度現役合格者数 | 8,972 | 1,011 | 574 | 177 | 260 | 421 | 590 | 566 | 105 | 253 | 87 |
| 現役合格率 ^{※1} (%) | 94.9 | 96.9 | 97.3 | 96.2 | 96.7 | 97.0 | 96.9 | 97.6 | 95.5 | 95.5 | 98.9 |
| R5年度新卒受験者数 | 9,489 | 1,030 | 568 | 222 | 240 | 427 | 603 | 565 | 92 | 284 | 89 |
| R5年度現役合格者数 | 9,048 | 997 | 553 | 209 | 235 | 413 | 584 | 553 | 91 | 267 | 86 |
| 現役合格率 ^{※1} (%) | 95.4 | 96.8 | 97.4 | 94.1 | 97.9 | 96.7 | 96.8 | 97.9 | 98.9 | 94.0 | 96.6 |
| R6年度新卒受験者数 | 9,507 | 1,105 | 616 | 195 | 294 | 468 | 637 | 637 | 109 | 272 | 87 |
| R6年度現役合格者数 | 9,029 | 1,062 | 592 | 187 | 283 | 450 | 612 | 612 | 104 | 261 | 85 |
| 現役合格率 ^{※1} (%) | 95.0 | 96.1 | 96.1 | 95.9 | 96.3 | 96.2 | 96.1 | 96.1 | 95.4 | 96.0 | 97.7 |

注：「全国」の新卒受験者数・現役合格者数・現役合格率については文部科学省の公表データによる。

図 B-2(2) 国試現役合格率



現役合格者数



第2章

表B-3 義務履行状況

※義務履行率: 国試合格者数に対する義務履行者数+終了者の割合

| | 全地域枠 | 国立 | 公立 | 私立 | 中大都市 | 小都市 | A1 | A2 | B1 |
|-----------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| H25年度国試合格者数 (人) | 197 | 123 | 50 | 24 | 40 | 157 | 85 | 49 | 63 |
| 義務履行者数 | 57 | 47 | 2 | 8 | 2 | 55 | 23 | 15 | 19 |
| うち病院勤務者数 | 56 | 46 | 2 | 8 | 2 | 54 | 22 | 15 | 19 |
| うち大学院進学者数 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 |
| うち初期研修者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 中断者数 | 9 | 7 | 1 | 1 | 0 | 9 | 2 | 5 | 2 |
| 義務履行終了者数 | 89 | 45 | 33 | 11 | 24 | 65 | 52 | 17 | 20 |
| 義務履行期間外初期研修者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 離脱者数 | 24 | 19 | 3 | 2 | 1 | 23 | 7 | 9 | 8 |
| 調査打ち切り者数 | 18 | 5 | 11 | 2 | 13 | 5 | 1 | 3 | 14 |
| 義務履行率 (%) | 74.1 | 74.8 | 70.0 | 79.2 | 65.0 | 76.4 | 88.2 | 65.3 | 61.9 |
| H26年度国試合格者数 (人) | 377 | 256 | 72 | 49 | 112 | 265 | 199 | 81 | 97 |
| 義務履行者数 | 116 | 100 | 5 | 11 | 9 | 107 | 73 | 16 | 27 |
| うち病院勤務者数 | 115 | 99 | 5 | 11 | 9 | 106 | 72 | 16 | 27 |
| うち大学院進学者数 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 |
| うち初期研修者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 中断者数 | 21 | 18 | 2 | 1 | 2 | 19 | 8 | 3 | 10 |
| 義務履行終了者数 | 156 | 93 | 35 | 28 | 67 | 89 | 92 | 41 | 23 |
| 義務履行期間外初期研修者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 離脱者数 | 59 | 45 | 5 | 9 | 9 | 50 | 25 | 21 | 13 |
| 調査打ち切り者数 | 25 | 0 | 25 | 0 | 25 | 0 | 1 | 0 | 24 |
| 義務履行率 (%) | 72.1 | 75.4 | 55.6 | 79.6 | 67.9 | 74.0 | 82.9 | 70.4 | 51.5 |
| H27年度国試合格者数 (人) | 619 | 409 | 92 | 118 | 211 | 408 | 339 | 127 | 153 |
| 義務履行者数 | 261 | 204 | 26 | 31 | 55 | 206 | 164 | 55 | 42 |
| うち病院勤務者数 | 260 | 204 | 26 | 30 | 54 | 206 | 163 | 55 | 42 |
| うち大学院進学者数 | 1 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 |
| うち初期研修者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 中断者数 | 59 | 42 | 6 | 11 | 12 | 47 | 31 | 9 | 19 |
| 義務履行終了者数 | 203 | 116 | 39 | 48 | 95 | 108 | 107 | 37 | 59 |
| 義務履行期間外初期研修者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 離脱者数 | 69 | 43 | 6 | 20 | 26 | 43 | 34 | 19 | 16 |
| 調査打ち切り者数 | 27 | 4 | 15 | 8 | 23 | 4 | 3 | 7 | 17 |
| 義務履行率 (%) | 75.0 | 78.2 | 70.7 | 66.9 | 71.1 | 77.0 | 79.9 | 72.4 | 66.0 |
| H28年度国試合格者数 (人) | 699 | 445 | 88 | 166 | 272 | 427 | 406 | 142 | 151 |
| 義務履行者数 | 389 | 272 | 53 | 64 | 129 | 260 | 263 | 69 | 57 |
| うち病院勤務者数 | 387 | 270 | 53 | 64 | 129 | 258 | 261 | 69 | 57 |
| うち大学院進学者数 | 2 | 2 | 0 | 0 | 0 | 2 | 2 | 0 | 0 |
| うち初期研修者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 中断者数 | 77 | 52 | 8 | 17 | 19 | 58 | 42 | 13 | 22 |
| 義務履行終了者数 | 135 | 82 | 0 | 53 | 75 | 60 | 53 | 35 | 47 |
| 義務履行期間外初期研修者数 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 |
| 離脱者数 | 65 | 34 | 8 | 23 | 21 | 44 | 44 | 17 | 4 |
| 調査打ち切り者数 | 32 | 4 | 19 | 9 | 28 | 4 | 3 | 8 | 21 |
| 義務履行率 (%) | 75.0 | 79.6 | 60.2 | 70.5 | 75.0 | 74.9 | 77.8 | 73.2 | 68.9 |
| H29年度国試合格者数 (人) | 749 | 479 | 87 | 183 | 289 | 460 | 431 | 162 | 156 |
| 義務履行者数 | 485 | 330 | 66 | 89 | 150 | 335 | 323 | 86 | 76 |
| うち病院勤務者数 | 484 | 330 | 65 | 89 | 150 | 334 | 322 | 86 | 76 |
| うち大学院進学者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| うち初期研修者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 中断者数 | 86 | 56 | 4 | 26 | 32 | 54 | 48 | 24 | 14 |
| 義務履行終了者数 | 90 | 58 | 0 | 32 | 49 | 41 | 24 | 28 | 38 |
| 義務履行期間外初期研修者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 離脱者数 | 57 | 29 | 2 | 26 | 32 | 25 | 36 | 13 | 8 |
| 調査打ち切り者数 | 31 | 6 | 15 | 10 | 26 | 5 | 0 | 11 | 20 |
| 義務履行率 (%) | 76.8 | 81.0 | 75.9 | 66.1 | 68.9 | 81.7 | 80.5 | 70.4 | 73.1 |
| H30年度国試合格者数 (人) | 810 | 519 | 104 | 187 | 306 | 504 | 485 | 135 | 190 |
| 義務履行者数 | 568 | 386 | 84 | 98 | 174 | 394 | 396 | 70 | 102 |
| うち病院勤務者数 | 560 | 386 | 78 | 96 | 172 | 388 | 388 | 70 | 102 |
| うち大学院進学者数 | 2 | 0 | 0 | 2 | 2 | 0 | 2 | 0 | 0 |
| うち初期研修者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 中断者数 | 75 | 45 | 2 | 28 | 30 | 45 | 36 | 21 | 18 |
| 義務履行終了者数 | 89 | 61 | 0 | 28 | 47 | 42 | 21 | 22 | 46 |
| 義務履行期間外初期研修者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 離脱者数 | 51 | 26 | 1 | 24 | 29 | 22 | 32 | 13 | 6 |
| 調査打ち切り者数 | 27 | 1 | 17 | 9 | 26 | 1 | 0 | 9 | 18 |
| 義務履行率 (%) | 81.1 | 86.1 | 80.8 | 67.4 | 72.2 | 86.5 | 86.0 | 68.1 | 77.9 |

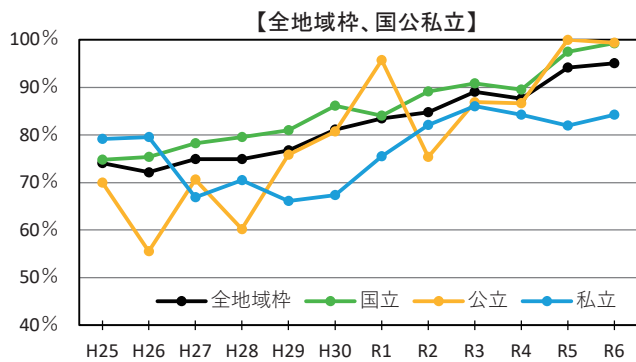
※義務履行率：国試合格者数に対する義務履行者数＋終了者の割合

| | 全地域枠 | 国立 | 公立 | 私立 | 中大都市 | 小都市 | A1 | A2 | B1 |
|----------------|------|------|-------|------|------|------|------|------|------|
| R1年度国試合格者数 (人) | 877 | 534 | 118 | 225 | 355 | 522 | 531 | 134 | 212 |
| 義務履行者数 | 664 | 408 | 113 | 143 | 273 | 391 | 433 | 88 | 143 |
| うち病院勤務者数 | 659 | 406 | 110 | 143 | 273 | 386 | 428 | 88 | 143 |
| うち大学院進学者数 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 |
| うち初期研修者数 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 |
| 中断者数 | 91 | 58 | 4 | 29 | 32 | 59 | 52 | 18 | 21 |
| 義務履行終了者数 | 68 | 41 | 0 | 27 | 25 | 43 | 15 | 13 | 40 |
| 義務履行期間外初期研修者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 離脱者数 | 40 | 23 | 1 | 16 | 15 | 25 | 30 | 6 | 4 |
| 調査打ち切り者数 | 14 | 4 | 0 | 10 | 10 | 4 | 1 | 9 | 4 |
| 義務履行率 (%) | 83.5 | 84.1 | 95.8 | 75.6 | 83.9 | 83.1 | 84.4 | 75.4 | 86.3 |
| R2年度国試合格者数 (人) | 954 | 552 | 195 | 207 | 426 | 528 | 554 | 126 | 274 |
| 義務履行者数 | 766 | 451 | 147 | 168 | 346 | 420 | 469 | 101 | 196 |
| うち病院勤務者数 | 758 | 450 | 141 | 167 | 344 | 414 | 462 | 100 | 196 |
| うち大学院進学者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| うち初期研修者数 | 2 | 1 | 0 | 1 | 2 | 0 | 1 | 1 | 0 |
| 中断者数 | 66 | 40 | 5 | 21 | 20 | 46 | 45 | 7 | 14 |
| 義務履行終了者数 | 43 | 41 | 0 | 2 | 4 | 39 | 18 | 6 | 19 |
| 義務履行期間外初期研修者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 離脱者数 | 30 | 14 | 4 | 12 | 12 | 18 | 21 | 7 | 2 |
| 調査打ち切り者数 | 49 | 6 | 39 | 4 | 44 | 5 | 1 | 5 | 43 |
| 義務履行率 (%) | 84.8 | 89.1 | 75.4 | 82.1 | 82.2 | 86.9 | 87.9 | 84.9 | 78.5 |
| R3年度国試合格者数 (人) | 960 | 570 | 168 | 222 | 424 | 536 | 554 | 127 | 279 |
| 義務履行者数 | 812 | 483 | 146 | 183 | 363 | 449 | 483 | 103 | 226 |
| うち病院勤務者数 | 800 | 480 | 143 | 177 | 361 | 439 | 472 | 103 | 225 |
| うち大学院進学者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| うち初期研修者数 | 9 | 3 | 0 | 6 | 2 | 7 | 8 | 0 | 1 |
| 中断者数 | 56 | 34 | 2 | 20 | 20 | 36 | 34 | 9 | 13 |
| 義務履行終了者数 | 43 | 35 | 0 | 8 | 8 | 35 | 17 | 8 | 18 |
| 義務履行期間外初期研修者数 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 |
| 離脱者数 | 26 | 14 | 1 | 11 | 12 | 14 | 19 | 6 | 1 |
| 調査打ち切り者数 | 22 | 3 | 19 | 0 | 21 | 1 | 0 | 1 | 21 |
| 義務履行率 (%) | 89.1 | 90.9 | 86.9 | 86.0 | 87.5 | 90.3 | 90.3 | 87.4 | 87.5 |
| R4年度国試合格者数 (人) | 958 | 545 | 165 | 248 | 431 | 527 | 586 | 105 | 267 |
| 義務履行者数 | 836 | 484 | 143 | 209 | 380 | 456 | 524 | 86 | 226 |
| うち病院勤務者数 | 774 | 441 | 133 | 200 | 362 | 412 | 479 | 73 | 222 |
| うち大学院進学者数 | 2 | 0 | 0 | 2 | 2 | 0 | 1 | 1 | 0 |
| うち初期研修者数 | 31 | 20 | 4 | 7 | 16 | 15 | 24 | 3 | 4 |
| 中断者数 | 79 | 49 | 4 | 26 | 21 | 58 | 48 | 11 | 20 |
| 義務履行終了者数 | 4 | 4 | 0 | 0 | 0 | 4 | 1 | 0 | 3 |
| 義務履行期間外初期研修者数 | 2 | 0 | 0 | 2 | 1 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| 離脱者数 | 20 | 8 | 1 | 11 | 12 | 8 | 11 | 8 | 1 |
| 調査打ち切り者数 | 17 | 0 | 17 | 0 | 17 | 0 | 1 | 0 | 16 |
| 義務履行率 (%) | 87.7 | 89.5 | 86.7 | 84.3 | 88.2 | 87.3 | 89.6 | 81.9 | 85.8 |
| R5年度国試合格者数 (人) | 941 | 516 | 192 | 233 | 424 | 517 | 566 | 96 | 279 |
| 義務履行者数 | 886 | 503 | 192 | 191 | 400 | 486 | 543 | 79 | 264 |
| うち病院勤務者数 | 6 | 2 | 1 | 3 | 2 | 4 | 2 | 2 | 2 |
| うち大学院進学者数 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 |
| うち初期研修者数 | 879 | 500 | 191 | 188 | 398 | 481 | 540 | 77 | 262 |
| 中断者数 | 8 | 7 | 0 | 1 | 1 | 7 | 3 | 0 | 5 |
| 義務履行終了者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 義務履行期間外初期研修者数 | 40 | 3 | 0 | 37 | 16 | 24 | 17 | 13 | 10 |
| 離脱者数 | 6 | 3 | 0 | 3 | 6 | 0 | 3 | 3 | 0 |
| 調査打ち切り者数 | 1 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 |
| 義務履行率 (%) | 94.2 | 97.5 | 100.0 | 82.0 | 94.3 | 94.0 | 95.9 | 82.3 | 94.6 |
| R6年度国試合格者数 (人) | 993 | 546 | 167 | 280 | 449 | 544 | 619 | 99 | 275 |
| 義務履行者数 | 944 | 542 | 166 | 236 | 427 | 517 | 595 | 86 | 263 |
| うち病院勤務者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| うち大学院進学者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| うち初期研修者数 | 944 | 542 | 166 | 236 | 427 | 517 | 595 | 86 | 263 |
| 中断者数 | 10 | 3 | 1 | 6 | 8 | 2 | 5 | 0 | 5 |
| 義務履行終了者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 義務履行期間外初期研修者数 | 39 | 1 | 0 | 38 | 14 | 25 | 19 | 13 | 7 |
| 離脱者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 調査打ち切り者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 義務履行率 (%) | 95.1 | 99.3 | 99.4 | 84.3 | 95.1 | 95.0 | 96.1 | 86.9 | 95.6 |

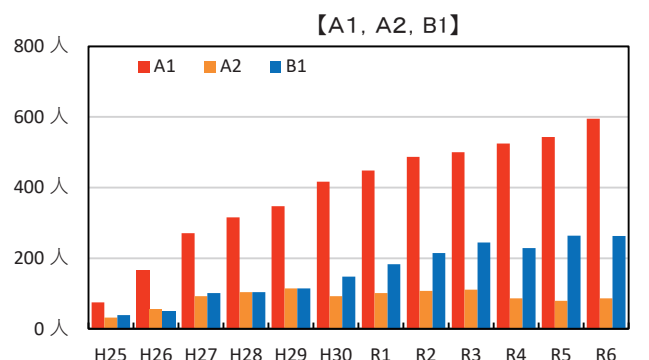
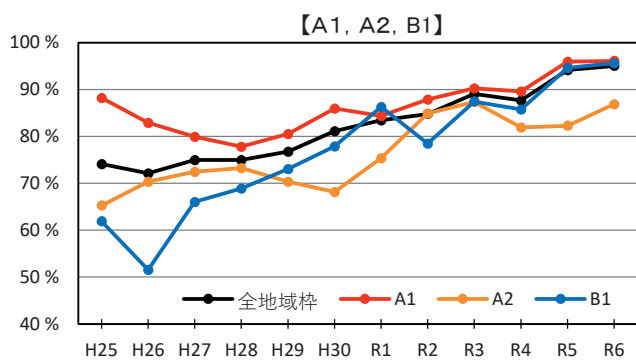
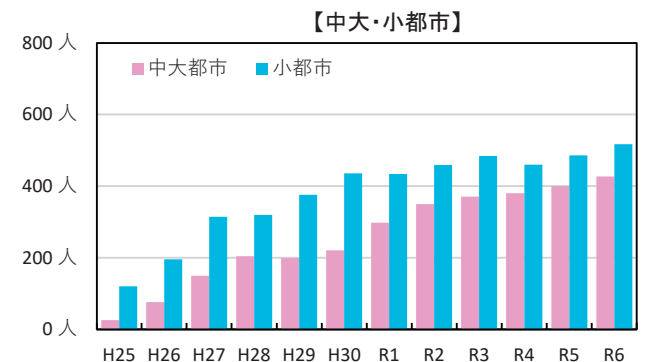
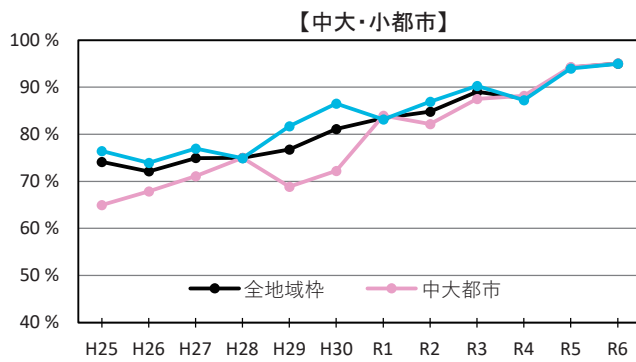
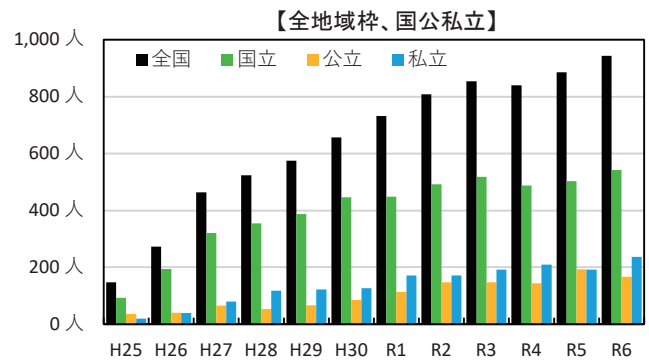
12年分の合計

| | 全地域枠 | 国立 | 公立 | 私立 | 中大都市 | 小都市 | A1 | A2 | B1 |
|---------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 国試合格者数 (人) | 9,134 | 5,494 | 1,498 | 2,142 | 3,739 | 5,395 | 5,355 | 1,383 | 2,396 |
| 義務履行者数 | 6,784 | 4,210 | 1,143 | 1,431 | 2,708 | 4,076 | 4,289 | 854 | 1,641 |
| うち病院勤務者数 | 4,859 | 3,114 | 757 | 988 | 1,858 | 3,001 | 3,071 | 677 | 1,111 |
| うち大学院進学者数 | 11 | 6 | 0 | 5 | 5 | 6 | 10 | 1 | 0 |
| うち初期研修者数 | 1,866 | 1,067 | 361 | 438 | 845 | 1,021 | 1,169 | 167 | 530 |
| 中断者数 | 637 | 411 | 39 | 187 | 197 | 440 | 354 | 120 | 163 |
| 義務履行終了者数 | 920 | 576 | 107 | 237 | 394 | 526 | 400 | 207 | 313 |
| 義務履行期間外初期研修者数 | 83 | 6 | 0 | 77 | 31 | 52 | 39 | 26 | 18 |
| 離脱者数 | 447 | 258 | 32 | 157 | 175 | 272 | 262 | 122 | 63 |
| 調査打ち切り者数 | 263 | 33 | 177 | 53 | 234 | 29 | 11 | 54 | 198 |
| 義務履行率 (%) | 84.3 | 87.1 | 83.4 | 77.9 | 83.0 | 85.3 | 87.6 | 76.7 | 81.6 |

図B-3(1) 国試合格年度別義務履行率の推移



図B-3(2) 国試合格年度別義務履行者数の推移



表B-3(1) 義務履行先病院

| | 全地域枠 | 国立 | 公立 | 私立 | 中大都市 | 小都市 | A1 | A2 | B1 |
|--------|------------|------------|----------|----------|------------|------------|------------|----------|-----------|
| 回答数 | 4,850 (%) | 3,109 (%) | 756 (%) | 985 (%) | 1,853 (%) | 2,997 (%) | 3,066 (%) | 675 (%) | 1,109 (%) |
| 1. (人) | 1,688 34.8 | 1,021 32.8 | 144 19.0 | 523 53.1 | 612 33.0 | 1,076 35.9 | 998 32.6 | 261 38.7 | 429 38.7 |
| 2. | 2,593 53.5 | 1,648 53.0 | 574 75.9 | 371 37.7 | 1,023 55.2 | 1,570 52.4 | 1,670 54.5 | 349 51.7 | 574 51.8 |
| 3. | 437 9.0 | 349 11.2 | 20 2.6 | 68 6.9 | 180 9.7 | 257 8.6 | 296 9.7 | 51 7.6 | 90 8.1 |
| 4. | 103 2.1 | 78 2.5 | 5 0.7 | 20 2.0 | 22 1.2 | 81 2.7 | 76 2.5 | 12 1.8 | 15 1.4 |
| 5. | 29 0.6 | 13 0.4 | 13 1.7 | 3 0.3 | 16 0.9 | 13 0.4 | 26 0.8 | 2 0.3 | 1 0.1 |

1. 県内大学
2. 県内大学以外の中核病院
3. 県内中小医療機関
4. 県外医療機関
5. その他

表B-3(2) 義務履行先の地理区分

| | 全地域枠 | 国立 | 公立 | 私立 | 中大都市 | 小都市 | A1 | A2 | B1 |
|--------|------------|------------|----------|----------|------------|------------|------------|----------|-----------|
| 回答数 | 4,850 (%) | 3,109 (%) | 756 (%) | 985 (%) | 1,853 (%) | 2,997 (%) | 3,066 (%) | 675 (%) | 1,109 (%) |
| 1. (人) | 1,446 29.8 | 1,008 32.4 | 84 11.1 | 354 35.9 | 653 35.2 | 793 26.5 | 1,048 34.2 | 226 33.5 | 172 15.5 |
| 2. | 3,404 70.2 | 2,101 67.6 | 672 88.9 | 631 64.1 | 1,200 64.8 | 2,204 73.5 | 2,018 65.8 | 449 66.5 | 937 84.5 |

1. 過疎地等医師不足地域
2. 医師不足でない地域

表B-3(3) 勤務先で希望する専門医取得に関する専門研修の可否

| | 全地域枠 | 中大都市 | 小都市 |
|----------|------------|-----------|------------|
| 回答数 | 6,268 (%) | 2,357 (%) | 3,911 (%) |
| 1 可能 (人) | 3,831 97.7 | 944 95.3 | 2,887 98.5 |
| 2 不可 | 91 2.3 | 47 4.7 | 44 1.5 |
| 3 不明 | 2,346 | 1,366 | 980 |

※(%)は「不明」回答分を除く対象者の割合

表B-4 国試合格年度別 義務履行中断者数の推移

| 国試合格年度 | 国試合格者 | 全地域枠 中断者 | (%) | 国立 | 公立 | 私立 | 中大都市 | 小都市 | A1 | A2 | B1 |
|-----------|-------|-------------|------|-----|----|-----|------|-----|-----|-----|-----|
| H25年度 (人) | 197 | 9 | 4.6 | 7 | 1 | 1 | 0 | 9 | 2 | 5 | 2 |
| H26年度 | 377 | 21 | 5.6 | 18 | 2 | 1 | 2 | 19 | 8 | 3 | 10 |
| H27年度 | 619 | 59 | 9.5 | 42 | 6 | 11 | 12 | 47 | 31 | 9 | 19 |
| H28年度 | 699 | 77 | 11.0 | 52 | 8 | 17 | 19 | 58 | 42 | 13 | 22 |
| H29年度 | 749 | 86 | 11.5 | 56 | 4 | 26 | 32 | 54 | 48 | 24 | 14 |
| H30年度 | 810 | 75 | 9.3 | 45 | 2 | 28 | 30 | 45 | 36 | 21 | 18 |
| R1年度 | 877 | 91 | 10.4 | 58 | 4 | 29 | 32 | 59 | 52 | 18 | 21 |
| R2年度 | 954 | 66 | 6.9 | 40 | 5 | 21 | 20 | 46 | 45 | 7 | 14 |
| R3年度 | 960 | 56 | 5.8 | 34 | 2 | 20 | 20 | 36 | 34 | 9 | 13 |
| R4年度 | 958 | 79 | 8.2 | 49 | 4 | 26 | 21 | 58 | 48 | 11 | 20 |
| R5年度 | 941 | 8 | 0.9 | 7 | 0 | 1 | 1 | 7 | 3 | 0 | 5 |
| R6年度 | 993 | 10 | 1.0 | 3 | 1 | 6 | 8 | 2 | 5 | 0 | 5 |
| 計 | 9,134 | 637 | 7.0 | 411 | 39 | 187 | 197 | 440 | 354 | 120 | 163 |

表B-4(1) 義務履行中断者の中断理由

| | 全地域枠 | 国立 | 公立 | 私立 | 中大都市 | 小都市 | A1 | A2 | B1 |
|-------------|------|-----|----|-----|------|-----|-----|-----|-----|
| 1 専門研修 (人) | 220 | 123 | 7 | 90 | 56 | 164 | 154 | 63 | 3 |
| 2 大学院入学 | 33 | 21 | 2 | 10 | 20 | 13 | 20 | 4 | 9 |
| 3 健康上の理由 | 18 | 13 | 2 | 3 | 9 | 9 | 12 | 3 | 3 |
| 4 県外への居住地変更 | 50 | 46 | | 4 | 8 | 42 | 15 | 8 | 27 |
| 5 その他個人的理由 | 121 | 92 | 14 | 15 | 26 | 95 | 86 | 12 | 23 |
| 6 不明 | 195 | 116 | 14 | 65 | 78 | 117 | 67 | 30 | 98 |
| 計 | 637 | 411 | 39 | 187 | 197 | 440 | 354 | 120 | 163 |

表B-5 入学年度別離脱者数と離脱率の推移

※離脱率＝離脱者/入学者

| 入学年度 | 全地域枠 | | | 国立 | | | 公立 | | | 私立 | | |
|----------|--------|-----|------|-------|-----|------|-------|-----|------|-------|-----|------|
| | 入学者 | 離脱者 | (%) | 入学者 | 離脱者 | (%) | 入学者 | 離脱者 | (%) | 入学者 | 離脱者 | (%) |
| H20年度(人) | 219 | 26 | 11.9 | 136 | 20 | 14.7 | 58 | 3 | 5.2 | 25 | 3 | 12.0 |
| H21年度 | 423 | 80 | 18.9 | 287 | 56 | 19.5 | 78 | 9 | 11.5 | 58 | 15 | 25.9 |
| H22年度 | 708 | 87 | 12.3 | 460 | 53 | 11.5 | 90 | 4 | 4.4 | 158 | 30 | 19.0 |
| H23年度 | 780 | 96 | 12.3 | 496 | 51 | 10.3 | 96 | 9 | 9.4 | 188 | 36 | 19.1 |
| H24年度 | 808 | 61 | 7.5 | 509 | 36 | 7.1 | 94 | 1 | 1.1 | 205 | 24 | 11.7 |
| H25年度 | 845 | 73 | 8.6 | 519 | 32 | 6.2 | 122 | 4 | 3.3 | 204 | 37 | 18.1 |
| H26年度 | 919 | 53 | 5.8 | 552 | 25 | 4.5 | 146 | 2 | 1.4 | 221 | 26 | 11.8 |
| H27年度 | 987 | 47 | 4.8 | 577 | 24 | 4.2 | 178 | 4 | 2.2 | 232 | 19 | 8.2 |
| H28年度 | 990 | 38 | 3.8 | 565 | 14 | 2.5 | 174 | 1 | 0.6 | 251 | 23 | 9.2 |
| H29年度 | 980 | 30 | 3.1 | 545 | 12 | 2.2 | 177 | 1 | 0.6 | 258 | 17 | 6.6 |
| H30年度 | 945 | 15 | 1.6 | 521 | 5 | 1.0 | 176 | 0 | 0.0 | 248 | 10 | 4.0 |
| R1年度 | 1,046 | 11 | 1.1 | 561 | 4 | 0.7 | 175 | 0 | 0.0 | 310 | 7 | 2.3 |
| R2年度 | 1,142 | 0 | 0.0 | 651 | 0 | 0.0 | 180 | 0 | 0.0 | 311 | 0 | 0.0 |
| R3年度 | 1,157 | 0 | 0.0 | 643 | 0 | 0.0 | 181 | 0 | 0.0 | 333 | 0 | 0.0 |
| R4年度 | 1,203 | 0 | 0.0 | 665 | 0 | 0.0 | 171 | 0 | 0.0 | 367 | 0 | 0.0 |
| R5年度 | 1,270 | 0 | 0.0 | 709 | 0 | 0.0 | 174 | 0 | 0.0 | 387 | 0 | 0.0 |
| R6年度 | 1,299 | 1 | 0.1 | 718 | 1 | 0.1 | 181 | 0 | 0.0 | 400 | 0 | 0.0 |
| 計 | 15,721 | 618 | 3.9 | 9,114 | 333 | 3.7 | 2,451 | 38 | 1.6 | 4,156 | 247 | 5.9 |

| 入学年度 | 中大都市 | | | 小都市 | | | A1 | | | A2 | | | B1 | | |
|----------|-------|-----|------|-------|-----|------|--------|-----|------|-------|-----|------|-------|-----|------|
| | 入学者 | 離脱者 | (%) | 入学者 | 離脱者 | (%) | 入学者 | 離脱者 | (%) | 入学者 | 離脱者 | (%) | 入学者 | 離脱者 | (%) |
| H20年度(人) | 45 | 2 | 4.4 | 174 | 24 | 13.8 | 92 | 7 | 7.6 | 54 | 10 | 18.5 | 73 | 9 | 12.3 |
| H21年度 | 125 | 17 | 13.6 | 298 | 63 | 21.1 | 228 | 37 | 16.2 | 91 | 26 | 28.6 | 104 | 17 | 16.3 |
| H22年度 | 256 | 34 | 13.3 | 452 | 53 | 11.7 | 392 | 49 | 12.5 | 141 | 26 | 18.4 | 175 | 12 | 6.9 |
| H23年度 | 297 | 38 | 12.8 | 483 | 58 | 12.0 | 446 | 64 | 14.3 | 158 | 24 | 15.2 | 176 | 8 | 4.5 |
| H24年度 | 321 | 34 | 10.6 | 487 | 27 | 5.5 | 459 | 40 | 8.7 | 181 | 16 | 8.8 | 168 | 5 | 3.0 |
| H25年度 | 345 | 47 | 13.6 | 500 | 26 | 5.2 | 509 | 48 | 9.4 | 137 | 20 | 14.6 | 199 | 5 | 2.5 |
| H26年度 | 383 | 27 | 7.0 | 536 | 26 | 4.9 | 538 | 37 | 6.9 | 140 | 12 | 8.6 | 241 | 4 | 1.7 |
| H27年度 | 436 | 19 | 4.4 | 551 | 28 | 5.1 | 577 | 31 | 5.4 | 129 | 12 | 9.3 | 281 | 4 | 1.4 |
| H28年度 | 446 | 19 | 4.3 | 544 | 19 | 3.5 | 586 | 24 | 4.1 | 129 | 13 | 10.1 | 275 | 1 | 0.4 |
| H29年度 | 445 | 19 | 4.3 | 535 | 11 | 2.1 | 592 | 14 | 2.4 | 116 | 15 | 12.9 | 272 | 1 | 0.4 |
| H30年度 | 423 | 10 | 2.4 | 522 | 5 | 1.0 | 571 | 4 | 0.7 | 100 | 10 | 10.0 | 274 | 1 | 0.4 |
| R1年度 | 479 | 10 | 2.1 | 567 | 1 | 0.2 | 650 | 5 | 0.8 | 113 | 6 | 5.3 | 283 | 0 | 0.0 |
| R2年度 | 520 | 0 | 0.0 | 622 | 0 | 0.0 | 835 | 0 | 0.0 | 36 | 0 | 0.0 | 271 | 0 | 0.0 |
| R3年度 | 541 | 0 | 0.0 | 616 | 0 | 0.0 | 843 | 0 | 0.0 | 60 | 0 | 0.0 | 254 | 0 | 0.0 |
| R4年度 | 570 | 0 | 0.0 | 633 | 0 | 0.0 | 890 | 0 | 0.0 | 78 | 0 | 0.0 | 235 | 0 | 0.0 |
| R5年度 | 606 | 0 | 0.0 | 664 | 0 | 0.0 | 995 | 0 | 0.0 | 53 | 0 | 0.0 | 222 | 0 | 0.0 |
| R6年度 | 618 | 0 | 0.0 | 681 | 1 | 0.1 | 1,046 | 1 | 0.1 | 19 | 0 | 0.0 | 234 | 0 | 0.0 |
| 計 | 6,856 | 276 | 4.0 | 8,865 | 342 | 3.9 | 10,249 | 361 | 3.5 | 1,735 | 190 | 11.0 | 3,737 | 67 | 1.8 |

図 B-5(1) 入学年度別離脱率の推移

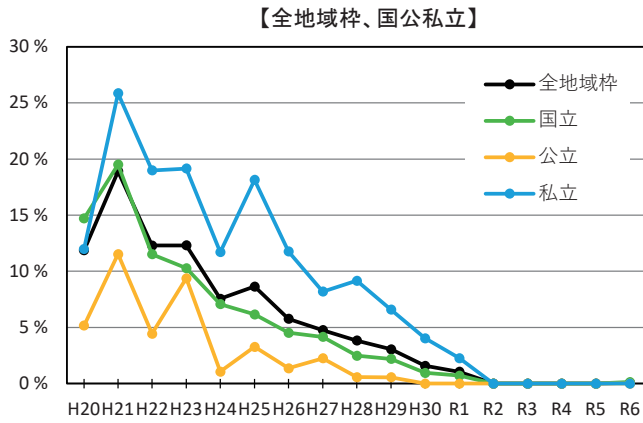
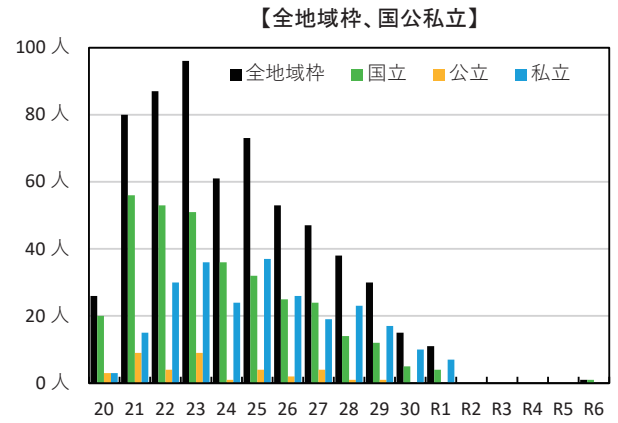
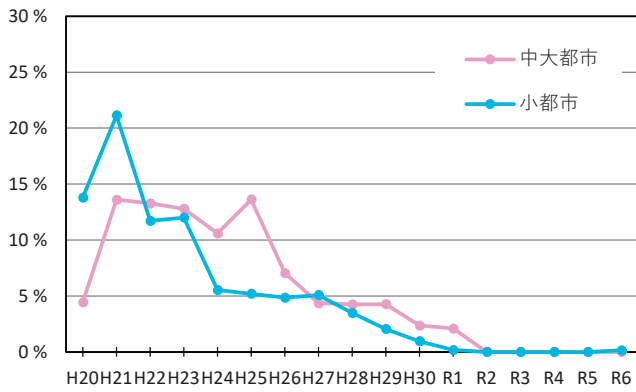


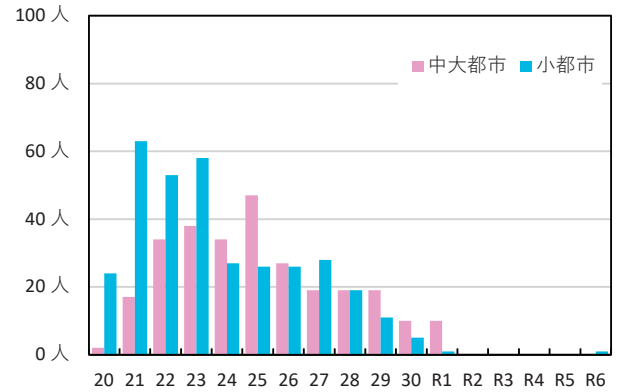
図 B-5(2) 入学年度別離脱者数の推移



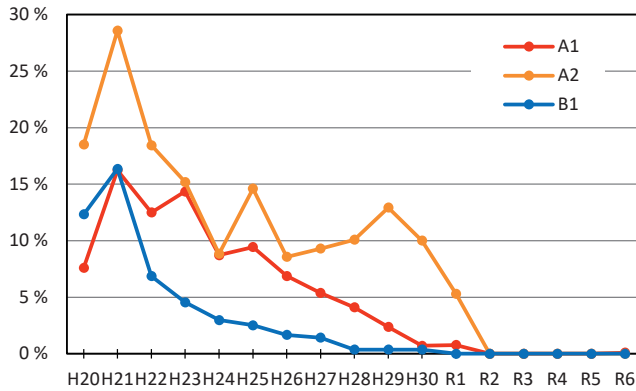
【中大・小都市】



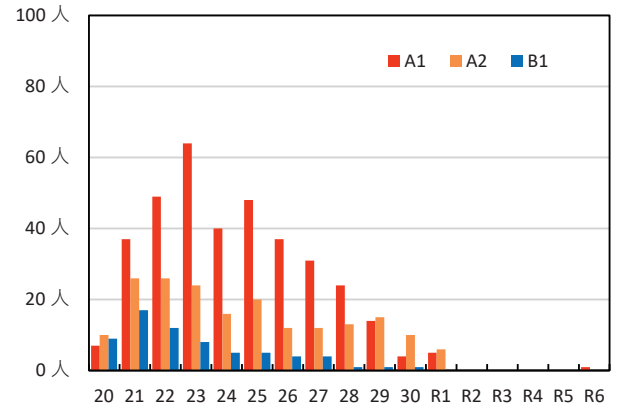
【中大・小都市】



【A1, A2, B1】



【A1, A2, B1】



表B-5(1) 入学年度別卒前離脱者数と離脱率の推移

※卒前離脱率=卒前離脱者/入学者

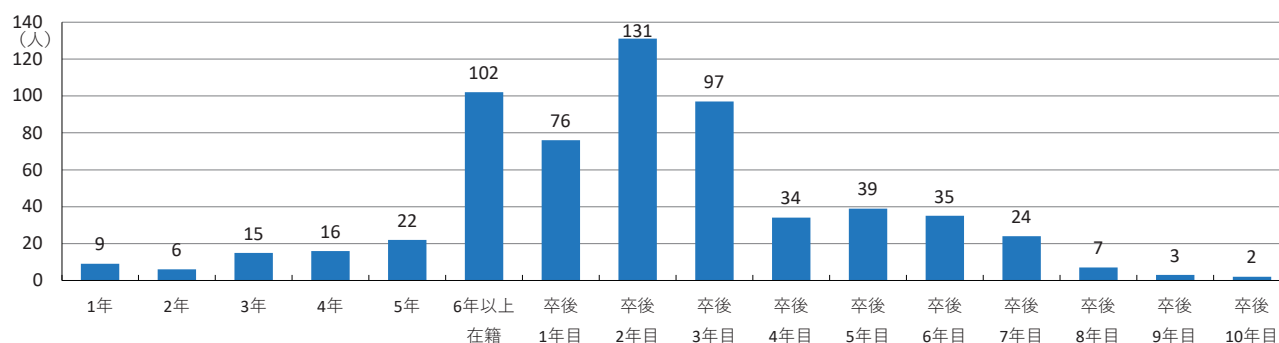
| 入学年度 | 入学者 | 全離脱者 (%) | | 国立 (%) | | 公立 (%) | | 私立 (%) | | 中大 (%) | | 小 (%) | | A1 (%) | | A2 (%) | | B1 (%) | |
|----------|--------|----------|-----|--------|-----|--------|-----|--------|-----|--------|-----|-------|-----|--------|-----|--------|-----|--------|-----|
| H20年度(人) | 219 | 1 | 0.5 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 1 | 4.0 | 1 | 2.2 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 1 | 1.9 | 0 | 0.0 |
| H21年度 | 423 | 11 | 2.6 | 7 | 2.4 | 0 | 0.0 | 4 | 6.9 | 6 | 4.8 | 5 | 1.7 | 7 | 3.1 | 4 | 4.4 | 0 | 0.0 |
| H22年度 | 708 | 13 | 1.8 | 6 | 1.3 | 0 | 0.0 | 7 | 4.4 | 6 | 2.3 | 7 | 1.5 | 10 | 2.6 | 3 | 2.1 | 0 | 0.0 |
| H23年度 | 780 | 26 | 3.3 | 15 | 3.0 | 2 | 2.1 | 9 | 4.8 | 13 | 4.4 | 13 | 2.7 | 19 | 4.3 | 6 | 3.8 | 1 | 0.6 |
| H24年度 | 808 | 11 | 1.4 | 7 | 1.4 | 0 | 0.0 | 4 | 2.0 | 7 | 2.2 | 4 | 0.8 | 5 | 1.1 | 6 | 3.3 | 0 | 0.0 |
| H25年度 | 845 | 27 | 3.2 | 11 | 2.1 | 3 | 2.5 | 13 | 6.4 | 20 | 5.8 | 7 | 1.4 | 21 | 4.1 | 6 | 4.4 | 0 | 0.0 |
| H26年度 | 919 | 18 | 2.0 | 6 | 1.1 | 1 | 0.7 | 11 | 5.0 | 11 | 2.9 | 7 | 1.3 | 11 | 2.0 | 7 | 5.0 | 0 | 0.0 |
| H27年度 | 987 | 13 | 1.3 | 7 | 1.2 | 0 | 0.0 | 6 | 2.6 | 6 | 1.4 | 7 | 1.3 | 6 | 1.0 | 5 | 3.9 | 2 | 0.7 |
| H28年度 | 990 | 13 | 1.3 | 2 | 0.4 | 0 | 0.0 | 11 | 4.4 | 6 | 1.3 | 7 | 1.3 | 5 | 0.9 | 8 | 6.2 | 0 | 0.0 |
| H29年度 | 980 | 14 | 1.4 | 6 | 1.1 | 0 | 0.0 | 8 | 3.1 | 9 | 2.0 | 5 | 0.9 | 6 | 1.0 | 8 | 6.9 | 0 | 0.0 |
| H30年度 | 945 | 11 | 1.2 | 2 | 0.4 | 0 | 0.0 | 9 | 3.6 | 6 | 1.4 | 5 | 1.0 | 3 | 0.5 | 7 | 7.0 | 1 | 0.4 |
| R1年度 | 1,046 | 11 | 1.1 | 4 | 0.7 | 0 | 0.0 | 7 | 2.3 | 10 | 2.1 | 1 | 0.2 | 5 | 0.8 | 6 | 5.3 | 0 | 0.0 |
| R2年度 | 1,142 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 |
| R3年度 | 1,157 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 |
| R4年度 | 1,203 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 |
| R5年度 | 1,270 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 |
| R6年度 | 1,299 | 1 | 0.1 | 1 | 0.1 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 1 | 0.1 | 1 | 0.1 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 |
| 計 | 15,721 | 170 | 1.1 | 74 | 0.8 | 6 | 0.2 | 90 | 2.2 | 101 | 1.5 | 69 | 0.8 | 99 | 1.0 | 67 | 3.9 | 4 | 0.1 |

表B-5(2) 入学年度別卒後離脱者数と離脱率の推移

※卒後離脱率=卒後離脱者/入学者

| 入学年度 | 入学者 | 全離脱者 (%) | | 国立 (%) | | 公立 (%) | | 私立 (%) | | 中大 (%) | | 小 (%) | | A1 (%) | | A2 (%) | | B1 (%) | |
|----------|-------|----------|------|--------|------|--------|------|--------|------|--------|------|-------|------|--------|------|--------|------|--------|------|
| H20年度(人) | 219 | 25 | 11.4 | 20 | 14.7 | 3 | 5.2 | 2 | 8.0 | 1 | 2.2 | 24 | 13.8 | 7 | 7.6 | 9 | 16.7 | 9 | 12.3 |
| H21年度 | 423 | 69 | 16.3 | 49 | 17.1 | 9 | 11.5 | 11 | 19.0 | 11 | 8.8 | 58 | 19.5 | 30 | 13.2 | 22 | 24.2 | 17 | 16.3 |
| H22年度 | 708 | 74 | 10.5 | 47 | 10.2 | 4 | 4.4 | 23 | 14.6 | 28 | 10.9 | 46 | 10.2 | 39 | 9.9 | 23 | 16.3 | 12 | 6.9 |
| H23年度 | 780 | 70 | 9.0 | 36 | 7.3 | 7 | 7.3 | 27 | 14.4 | 25 | 8.4 | 45 | 9.3 | 45 | 10.1 | 18 | 11.4 | 7 | 4.0 |
| H24年度 | 808 | 50 | 6.2 | 29 | 5.7 | 1 | 1.1 | 20 | 9.8 | 27 | 8.4 | 23 | 4.7 | 35 | 7.6 | 10 | 5.5 | 5 | 3.0 |
| H25年度 | 845 | 46 | 5.4 | 21 | 4.0 | 1 | 0.8 | 24 | 11.8 | 27 | 7.8 | 19 | 3.8 | 27 | 5.3 | 14 | 10.2 | 5 | 2.5 |
| H26年度 | 919 | 35 | 3.8 | 19 | 3.4 | 1 | 0.7 | 15 | 6.8 | 16 | 4.2 | 19 | 3.5 | 26 | 4.8 | 5 | 3.6 | 4 | 1.7 |
| H27年度 | 987 | 34 | 3.4 | 17 | 2.9 | 4 | 2.2 | 13 | 5.6 | 13 | 3.0 | 21 | 3.8 | 25 | 4.3 | 7 | 5.4 | 2 | 0.7 |
| H28年度 | 990 | 25 | 2.5 | 12 | 2.1 | 1 | 0.6 | 12 | 4.8 | 13 | 2.9 | 12 | 2.2 | 19 | 3.2 | 5 | 3.9 | 1 | 0.4 |
| H29年度 | 980 | 16 | 1.6 | 6 | 1.1 | 1 | 0.6 | 9 | 3.5 | 10 | 2.2 | 6 | 1.1 | 8 | 1.4 | 7 | 6.0 | 1 | 0.4 |
| H30年度 | 945 | 4 | 0.4 | 3 | 0.6 | 0 | 0.0 | 1 | 0.4 | 4 | 0.9 | 0 | 0.0 | 1 | 0.2 | 3 | 3.0 | 0 | 0.0 |
| R1年度 | 1,046 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 |
| 計 | 9,650 | 448 | 4.6 | 259 | 4.5 | 32 | 2.0 | 157 | 6.7 | 175 | 4.4 | 273 | 4.8 | 262 | 4.6 | 123 | 8.3 | 63 | 2.5 |

図B-6 入学後年数別 離脱者数の推移 (全地域枠)



表B-5(3) 離脱者の離脱理由

| | 全地域枠 | 国立 | 公立 | 私立 | 中大都市 | 小都市 | A1 | A2 | B1 |
|-------------|--------|-----|----|-----|------|-----|-----|-----|----|
| 1 専門研修 | (人) 24 | 10 | 6 | 8 | 6 | 18 | 16 | 8 | 0 |
| 2 大学院入学 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 |
| 3 健康上の理由 | 20 | 13 | 3 | 4 | 6 | 14 | 17 | 3 | 0 |
| 4 県外への居住地変更 | 84 | 62 | 0 | 22 | 17 | 67 | 31 | 23 | 30 |
| 5 その他個人的理由 | 311 | 150 | 21 | 140 | 148 | 163 | 195 | 92 | 24 |
| 6 不明 | 156 | 83 | 8 | 65 | 84 | 72 | 83 | 60 | 13 |
| 7 所在不明・その他 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 計 | 596 | 319 | 38 | 239 | 261 | 335 | 343 | 186 | 67 |

表B-5(4) 入学年度別県内外別 離脱者数と離脱率の推移

| 全地域枠 | 入学生 | 出身地 | | | | 離脱 | | | | | |
|-------|--------|--------|------|-------|------|-----|------|-----|------|-----|------|
| | | 県内 | | 県外 | | 全体 | | 県内 | | 県外 | |
| | | (人) | (%) | (人) | (%) | (人) | (%) | (人) | (%) | (人) | (%) |
| H20年度 | 219 | 170 | 77.6 | 49 | 22.4 | 26 | 11.9 | 22 | 12.9 | 4 | 8.2 |
| H21年度 | 423 | 313 | 74.0 | 110 | 26.0 | 80 | 18.9 | 48 | 15.3 | 32 | 29.1 |
| H22年度 | 708 | 511 | 72.2 | 197 | 27.8 | 87 | 12.3 | 47 | 9.2 | 40 | 20.3 |
| H23年度 | 780 | 562 | 72.1 | 218 | 27.9 | 96 | 12.3 | 56 | 10.0 | 40 | 18.3 |
| H24年度 | 808 | 579 | 71.7 | 229 | 28.3 | 61 | 7.5 | 31 | 5.4 | 30 | 13.1 |
| H25年度 | 845 | 586 | 69.3 | 259 | 30.7 | 73 | 8.6 | 34 | 5.8 | 39 | 15.1 |
| H26年度 | 919 | 658 | 71.6 | 261 | 28.4 | 53 | 5.8 | 30 | 4.6 | 23 | 8.8 |
| H27年度 | 987 | 720 | 72.9 | 267 | 27.1 | 47 | 4.8 | 25 | 3.5 | 22 | 8.2 |
| H28年度 | 990 | 744 | 75.2 | 246 | 24.8 | 38 | 3.8 | 21 | 2.8 | 17 | 6.9 |
| H29年度 | 980 | 725 | 74.0 | 255 | 26.0 | 30 | 3.1 | 12 | 1.7 | 18 | 7.1 |
| H30年度 | 945 | 729 | 77.1 | 216 | 22.9 | 15 | 1.6 | 4 | 0.5 | 11 | 5.1 |
| R1年度 | 1,046 | 809 | 77.3 | 237 | 22.7 | 11 | 1.1 | 6 | 0.7 | 5 | 2.1 |
| R2年度 | 1,142 | 888 | 77.8 | 254 | 22.2 | 0 | | 0 | | 0 | |
| R3年度 | 1,157 | 878 | 75.9 | 279 | 24.1 | 0 | | 0 | | 0 | |
| R4年度 | 1,203 | 888 | 73.8 | 315 | 26.2 | 0 | | 0 | | 0 | |
| R5年度 | 1,270 | 958 | 75.4 | 312 | 24.6 | 0 | | 0 | | 0 | |
| R6年度 | 1,299 | 922 | 71.0 | 377 | 29.0 | 1 | 0.1 | 0 | | 1 | 0.3 |
| 全期間 | 15,721 | 11,640 | 74.0 | 4,081 | 26.0 | 618 | 3.9 | 336 | 2.9 | 282 | 6.9 |

| 中大都市 | 入学生 | 出身地 | | | | 離脱 | | | | | |
|-------|-------|-------|------|-------|------|-----|--------|-----|------|-----|------|
| | | 県内 | | 県外 | | 人数 | 割合 (%) | 県内 | | 県外 | |
| | | (人) | (%) | (人) | (%) | | | (人) | (%) | | |
| H20年度 | 45 | 21 | 46.7 | 24 | 53.3 | 2 | 4.4 | 1 | 4.8 | 1 | 4.2 |
| H21年度 | 125 | 74 | 59.2 | 51 | 40.8 | 17 | 13.6 | 6 | 8.1 | 11 | 21.6 |
| H22年度 | 256 | 145 | 56.6 | 111 | 43.4 | 34 | 13.3 | 13 | 9.0 | 21 | 18.9 |
| H23年度 | 297 | 190 | 64.0 | 107 | 36.0 | 38 | 12.8 | 22 | 11.6 | 16 | 15.0 |
| H24年度 | 321 | 213 | 66.4 | 108 | 33.6 | 34 | 10.6 | 19 | 8.9 | 15 | 13.9 |
| H25年度 | 345 | 217 | 62.9 | 128 | 37.1 | 47 | 13.6 | 28 | 12.9 | 19 | 14.8 |
| H26年度 | 383 | 249 | 65.0 | 134 | 35.0 | 27 | 7.0 | 18 | 7.2 | 9 | 6.7 |
| H27年度 | 436 | 292 | 67.0 | 144 | 33.0 | 19 | 4.4 | 10 | 3.4 | 9 | 6.3 |
| H28年度 | 446 | 309 | 69.3 | 137 | 30.7 | 19 | 4.3 | 9 | 2.9 | 10 | 7.3 |
| H29年度 | 445 | 302 | 67.9 | 143 | 32.1 | 19 | 4.3 | 6 | 2.0 | 13 | 9.1 |
| H30年度 | 423 | 308 | 72.8 | 115 | 27.2 | 10 | 2.4 | 2 | 0.6 | 8 | 7.0 |
| R1年度 | 479 | 347 | 72.4 | 132 | 27.6 | 10 | 2.1 | 5 | 1.4 | 5 | 3.8 |
| R2年度 | 520 | 382 | 73.5 | 138 | 26.5 | 0 | | 0 | | 0 | |
| R3年度 | 541 | 385 | 71.2 | 156 | 28.8 | 0 | | 0 | | 0 | |
| R4年度 | 570 | 393 | 68.9 | 177 | 31.1 | 0 | | 0 | | 0 | |
| R5年度 | 606 | 421 | 69.5 | 185 | 30.5 | 0 | | 0 | | 0 | |
| R6年度 | 618 | 371 | 60.0 | 247 | 40.0 | 0 | | 0 | | 0 | |
| 全期間 | 6,856 | 4,619 | 67.4 | 2,237 | 32.6 | 276 | 4.0 | 139 | 3.0 | 137 | 6.1 |

| 小都市 | 入学生 | 出身地 | | | | 離脱 | | | | | |
|-------|-------|-------|------|-------|------|-----|--------|-----|------|-----|------|
| | | 県内 | | 県外 | | 人数 | 割合 (%) | 県内 | | 県外 | |
| | | (人) | (%) | (人) | (%) | | | (人) | (%) | | |
| H20年度 | 174 | 149 | 85.6 | 25 | 14.4 | 24 | 13.8 | 21 | 14.1 | 3 | 12.0 |
| H21年度 | 298 | 239 | 80.2 | 59 | 19.8 | 63 | 21.1 | 42 | 17.6 | 21 | 35.6 |
| H22年度 | 452 | 366 | 81.0 | 86 | 19.0 | 53 | 11.7 | 34 | 9.3 | 19 | 22.1 |
| H23年度 | 483 | 372 | 77.0 | 111 | 23.0 | 58 | 12.0 | 34 | 9.1 | 24 | 21.6 |
| H24年度 | 487 | 366 | 75.2 | 121 | 24.8 | 27 | 5.5 | 12 | 3.3 | 15 | 12.4 |
| H25年度 | 500 | 369 | 73.8 | 131 | 26.2 | 26 | 5.2 | 6 | 1.6 | 20 | 15.3 |
| H26年度 | 536 | 409 | 76.3 | 127 | 23.7 | 26 | 4.9 | 12 | 2.9 | 14 | 11.0 |
| H27年度 | 551 | 428 | 77.7 | 123 | 22.3 | 28 | 5.1 | 15 | 3.5 | 13 | 10.6 |
| H28年度 | 544 | 435 | 80.0 | 109 | 20.0 | 19 | 3.5 | 12 | 2.8 | 7 | 6.4 |
| H29年度 | 535 | 423 | 79.1 | 112 | 20.9 | 11 | 2.1 | 6 | 1.4 | 5 | 4.5 |
| H30年度 | 522 | 421 | 80.7 | 101 | 19.3 | 5 | 1.0 | 2 | 0.5 | 3 | 3.0 |
| R1年度 | 567 | 462 | 81.5 | 105 | 18.5 | 1 | 0.2 | 1 | 0.2 | 0 | |
| R2年度 | 622 | 506 | 81.4 | 116 | 18.6 | 0 | | 0 | | 0 | |
| R3年度 | 616 | 493 | 80.0 | 123 | 20.0 | 0 | | 0 | | 0 | |
| R4年度 | 633 | 495 | 78.2 | 138 | 21.8 | 0 | | 0 | | 0 | |
| R5年度 | 664 | 537 | 80.9 | 127 | 19.1 | 0 | | 0 | | 0 | |
| R6年度 | 681 | 551 | 80.9 | 130 | 19.1 | 1 | 0.1 | 0 | | 1 | 0.8 |
| 全期間 | 8,865 | 7,021 | 79.2 | 1,844 | 20.8 | 342 | 3.9 | 197 | 2.8 | 145 | 7.9 |

表B-6 専攻診療科

| 主専攻 | 全地域枠 | | | 中大都市 | | | 小都市 | | | 専門医取得に関する専門研修の可否 | | |
|---------------|-------|------|-------|------|-------|------|-------|------|-----|------------------|---------|----|
| | 回答数 | (%) | (%) | 回答数 | (%) | (%) | 回答数 | (%) | (%) | 可能 (%) | 不可能 (%) | 不明 |
| 1 内科 | 1705 | 20.4 | 572 | 17.3 | 1133 | 22.5 | 1053 | 61.8 | 28 | 1.6 | 564 | |
| 2 小児科 | 402 | 4.8 | 168 | 5.1 | 234 | 4.6 | 253 | 62.9 | 7 | 1.7 | 123 | |
| 3 皮膚科 | 164 | 2.0 | 46 | 1.4 | 118 | 2.3 | 117 | 71.3 | 1 | 0.6 | 40 | |
| 4 精神科 | 220 | 2.6 | 53 | 1.6 | 167 | 3.3 | 134 | 60.9 | 3 | 1.4 | 76 | |
| 5 外科 | 513 | 6.1 | 158 | 4.8 | 355 | 7.0 | 330 | 64.3 | 9 | 1.8 | 155 | |
| 6 整形外科 | 319 | 3.8 | 110 | 3.3 | 209 | 4.1 | 191 | 59.9 | 3 | 0.9 | 116 | |
| 7 産婦人科 | 373 | 4.5 | 185 | 5.6 | 188 | 3.7 | 259 | 69.4 | 5 | 1.3 | 101 | |
| 8 眼科 | 145 | 1.7 | 38 | 1.2 | 107 | 2.1 | 106 | 73.1 | 0 | | 35 | |
| 9 耳鼻咽喉科 | 117 | 1.4 | 27 | 0.8 | 90 | 1.8 | 92 | 78.6 | 2 | 1.7 | 19 | |
| 10 泌尿器科 | 177 | 2.1 | 45 | 1.4 | 132 | 2.6 | 123 | 69.5 | 1 | 0.6 | 49 | |
| 11 脳神経外科 | 134 | 1.6 | 34 | 1.0 | 100 | 2.0 | 96 | 71.6 | 3 | 2.2 | 31 | |
| 12 放射線科 | 132 | 1.6 | 28 | 0.8 | 104 | 2.1 | 93 | 70.5 | 2 | 1.5 | 25 | |
| 13 麻酔科 | 265 | 3.2 | 76 | 2.3 | 189 | 3.7 | 186 | 70.2 | 2 | 0.8 | 71 | |
| 14 病理 | 35 | 0.4 | 7 | 0.2 | 28 | 0.6 | 28 | 80.0 | 0 | | 5 | |
| 15 臨床検査 | 3 | 0.0 | 1 | 0.0 | 2 | 0.0 | 2 | 66.7 | 0 | | 1 | |
| 16 救急科 | 250 | 3.0 | 119 | 3.6 | 131 | 2.6 | 162 | 64.8 | 4 | 1.6 | 71 | |
| 17 形成外科 | 83 | 1.0 | 28 | 0.8 | 55 | 1.1 | 60 | 72.3 | 1 | 1.2 | 21 | |
| 18 リハビリテーション科 | 48 | 0.6 | 25 | 0.8 | 23 | 0.5 | 25 | 52.1 | 2 | 4.2 | 19 | |
| 19 総合診療科 | 192 | 2.3 | 87 | 2.6 | 105 | 2.1 | 107 | 55.7 | 6 | 3.1 | 74 | |
| 20 未定 | 3,066 | 36.7 | 1493 | 45.2 | 1573 | 31.2 | 414 | 13.5 | 12 | 0.4 | 750 | |
| 計 | 8,343 | | 3,300 | | 5,043 | | 3,831 | 61.1 | 91 | 1.5 | 2,346 | |

| サブ専攻 | 全地域枠 | | | 中大都市 | | | 小都市 | | |
|------------------------|-------|------|-------|------|-------|------|-----|-----|--|
| 回答数 | (%) | (%) | 回答数 | (%) | (%) | 回答数 | (%) | (%) | |
| 1 消化器病 | 326 | 3.9 | 97 | 2.9 | 229 | 4.5 | | | |
| 2 循環器 | 243 | 2.9 | 59 | 1.8 | 184 | 3.6 | | | |
| 3 呼吸器 | 162 | 1.9 | 62 | 1.9 | 100 | 2.0 | | | |
| 4 血液 | 79 | 0.9 | 25 | 0.8 | 54 | 1.1 | | | |
| 5 内分泌代謝科 (内・小児・産婦人) | 108 | 1.3 | 22 | 0.7 | 86 | 1.7 | | | |
| 6 糖尿病 | 80 | 1.0 | 27 | 0.8 | 53 | 1.1 | | | |
| 7 腎臓 | 110 | 1.3 | 46 | 1.4 | 64 | 1.3 | | | |
| 8 肝臓 | 20 | 0.2 | 3 | 0.1 | 17 | 0.3 | | | |
| 9 アレルギー | 8 | 0.1 | 6 | 0.2 | 2 | 0.0 | | | |
| 10 感染症 | 7 | 0.1 | 1 | 0.0 | 6 | 0.1 | | | |
| 11 老年病 | 3 | 0.0 | 0 | 0.0 | 3 | 0.1 | | | |
| 12 神経内科 | 129 | 1.5 | 42 | 1.3 | 87 | 1.7 | | | |
| 13 消化器外科 | 116 | 1.4 | 26 | 0.8 | 90 | 1.8 | | | |
| 14 呼吸器外科 | 30 | 0.4 | 9 | 0.3 | 21 | 0.4 | | | |
| 15 心臓血管外科 | 38 | 0.5 | 8 | 0.2 | 30 | 0.6 | | | |
| 16 小児外科 | 14 | 0.2 | 7 | 0.2 | 7 | 0.1 | | | |
| 17 リウマチ | 36 | 0.4 | 11 | 0.3 | 25 | 0.5 | | | |
| 18 小児循環器 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | | | |
| 19 小児神経科 | 1 | 0.0 | 0 | 0.0 | 1 | 0.0 | | | |
| 20 小児血液・がん | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | | | |
| 21 周産期 | 5 | 0.1 | 4 | 0.1 | 1 | 0.0 | | | |
| 22 婦人科腫瘍 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | | | |
| 23 生殖医療 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | | | |
| 24 頭頸部がん | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | | | |
| 25 放射線治療 | 8 | 0.1 | 3 | 0.1 | 5 | 0.1 | | | |
| 26 放射線診断 | 22 | 0.3 | 8 | 0.2 | 14 | 0.3 | | | |
| 27 手外科 | 2 | 0.0 | 1 | 0.0 | 1 | 0.0 | | | |
| 28 脊椎脊髄外科 | 3 | 0.0 | 1 | 0.0 | 2 | 0.0 | | | |
| 29 集中治療 | 13 | 0.2 | 12 | 0.4 | 1 | 0.0 | | | |
| 30 乳腺外科 | 40 | 0.5 | 15 | 0.5 | 25 | 0.5 | | | |
| 31 内分泌外科 | 1 | 0.0 | 1 | 0.0 | 0 | 0.0 | | | |
| 32 なし | 499 | 6.0 | 113 | 3.4 | 386 | 7.7 | | | |
| 33 その他 | 83 | 1.0 | 52 | 1.6 | 31 | 0.6 | | | |
| 34 未定 | 6,157 | 73.8 | 2,639 | 80.0 | 3,518 | 69.8 | | | |

第3章 地域枠入学者への支援体制（基本調査）

地域枠入学制度と地域医療支援センターの実情に関する設問形式のアンケート調査を実施した。調査対象は、新設2校を含む79校中、制度を有する70校（集計データ集「地域枠入学制度と地域医療支援センターの実情に関する調査」参照）。

1. 都道府県との協議

今年度は、各制度と都道府県との協議を主とする分類に変更して調査した（設問Q2-1、Q2-2）。

- A制度 別枠で入学選抜し、都道府県と協議し、一定の義務履行を課す制度（奨学金あり）
- B制度 別枠で入学選抜し、都道府県と協議し、一定の義務履行を課す制度（奨学金なし）
- C制度 A制度、B制度に該当しないが、都道府県と協議する制度（奨学金あり）
- D制度 A制度、B制度に該当しないが、都道府県と協議する制度（奨学金なし）
- E制度 A制度、B制度に該当せず、都道府県とも協議していない制度（奨学金あり）
- F制度 A制度、B制度に該当せず、都道府県とも協議していない制度（奨学金なし）

70校中67校で「別枠で入学選抜し、都道府県と協議し、一定の義務履行を課す制度（奨学金あり）」を有していた。また、70校中18校で「都道府県と協議をせず義務履行のない制度（奨学金なし）」があった。ほとんどの制度について継続を希望していた（集計データ集p(2)～(7)参照）。

2. 義務の不履行とその対策

義務不履行への対策について、奨学金を支給する地域枠（A,C,E制度）と支給しない地域枠（B,D,F制度）（いずれも編入学地域枠含む）に分けて調査した。

A,C,E制度の設問Q3-2では「地域勤務を返済免除要件とした奨学金を返済し、既定の義務履行を行わなかった地域枠出身者はいますか」に対し、回答のあった68校のうち「いる」58校（85.3%）、「いない」10校（14.7%）であった。一方B,D,F制度の設問Q3-1では、「入学時の要件、確約書、誓約書に記載している研修施設もしくは勤務施設以外（他都道府県等）で研修を行い、既定の義務履行を行わなかった地域枠出身者はいますか」に対し、回答のあった25校のうち「いる」10校（40.0%）、「いない」15校（60.0%）であった（集計データ集 p(8)～(10)参照）。

3. 大学医局への入局者と大学院進学への推移

大学の医局に所属した上で、関連病院などをローテーションしながら専門医を取得することや大学院に進学し学位を取得することはキャリア形成の一般的な選択肢となっていることを踏まえ、離脱などにつながる大きな要因であるキャリア形成に関係する「入局」と「大学院進学」について調査した。

3.1. 大学医局への入局について

入局の可否についての設問Q3-3では、「入局できない」（A,C,E制度：4校5.8%、B,D,F制度：0）で、全制度で「入局しないよう推奨している」とする回答はなく、「入局については問わない」（A,C,E制度：39校56.5%、B,D,F制度：10校38.5%）と「入局を推奨している」（A,C,E制度：23校33.3%、B,D,F制度：11校42.3%）が多数を占めた。また、A,C,E制度で4校（5.8%）、B,D,F制度で4校（15.4%）が「入局を義務としている」と回答していた（集計データ集p(11)参照）。

設問Q3-4「今年度新規で入局した者はいますか」の設問に対し、回答があった70校のうち「いる」58校

(82.9%)、「いない」12校(17.1%)であった。令和7年度の1校あたりの入局者数は、奨学金支給があるA制度(48校)で平均10.0人、C制度(8校)で平均6.4人、E制度(2校)で平均6.0人、奨学金支給がないB制度(3校)で平均32.3人、F制度(9校)で平均14.9人であった(集計データ集p(12)参照)。

3.2. 大学院進学について

設問Q3-5「大学院進学者」については回答数68校のうち「いる」35校(51.5%)で、令和7年度の1校あたりの入学者数は、奨学金支給があるA制度(28校)で平均4.7人、C制度(3校)で平均5.0人、E制度(1校)で2人、奨学金支給がないB制度(3校)で平均14.3人、F制度(7校)で平均4.0人であった(集計データ集p(13)参照)。

4. 地域枠入学者への支援体制

本年度も、昨年度調査に引き続き、卒前・卒後の支援体制とその担当に関する調査と専門医および学位取得支援に関して調査した。

4.1. 卒前支援体制

設問Q4「地域枠学生に対する卒前支援体制がありますか」の設問に対し、「ある」と回答した大学は70校中66校(94.3%)、「ない」と回答した大学は4校(5.7%)であった。「ある」の内訳をみると、国立:36校(97.3%)、公立:7校(87.5%)、私立:23校(92.0%)、中大都市群:35校(94.6%)、小都市群:31校(93.9%)で、昨年同様であった(集計データ集p(14)参照)。

設問Q4-1支援内容を回答数の多い順に並べると、交流会の開催:55校(83.3%)、相談窓口の設置:54校(81.8%)、セミナーの開催:50校(75.8%)、キャリアパスの提示:49校(74.2%)、特別教育プログラムの提供:37校(56.1%)、メンター制度:25校(37.9%)の順であり、その他は23校(34.8%)であった(集計データ集p(14)参照)。

設問Q4-2の「キャリア支援担当者」についても回答数の多い順に並べると、自治体担当者:46校(69.7%)、地域医療に係る講座教員:46校(69.7%)、地域医療支援センターの教職員:40校(60.6%)、その他の講座の指導教員:32校(48.5%)の順で、その他は17校(25.8%)であった(集計データ集p(15)参照)。

4.2. 卒後支援体制

設問Q5「地域枠学生への卒後支援体制がありますか」の設問に対し、「ある」と回答した大学は70校中56校(80.0%)、「ない」と回答した大学は14校(20.0%)であった。「ある」の内訳をみると、国立:35(94.6%)、公立:7(87.5%)、私立:14(56.0%)、中大都市群:27(73.0%)、小都市群:29(87.9%)であった(集計データ集p(16)参照)。

設問Q5-1「支援の内容」を回答数の多い順に並べると、相談窓口の設置:48校(85.7%)、キャリアパスの提示:45校(80.4%)、交流会:23校(41.1%)、セミナーの開催:22校(39.3%)、メンター制度:17校(30.4%)、特別プログラムの提供:7校(12.5%)の順であり、その他は22校(39.3%)であった(集計データ集p(16)参照)。

設問Q5-2「キャリア支援担当者」についても回答数の多い順に並べると、地域医療支援センター:47校(83.9%)、自治体:45校(80.4%)、所属する講座:44校(78.6%)、学内のキャリア形成支援センター:33校(58.9%)、地域医療に係る講座:25校(44.6%)、大学・医師会・自治体などで構成する協議会:23校(41.1%)の順で、その他は7校(12.5%)であった(集計データ集p(17)参照)。

(1) 専門医の取得支援

設問Q5-3「専門医の取得支援制度」に関し、回答を得た56校の内、支援制度が「ある」と回答した大学は50校(89.3%)で、「ない」と回答した大学は6校(10.7%)であった。「ある」の回答を支援内容の多い順から並べると、義務履行猶予期間の設定:40校(80.0%)、専門医取得プログラムの設定:28校(56.0%)、

第3章

専門研修が可能な施設へ優先配置:20校(40.0%)、申請により自治体が決定:8校(16.0%)の順で、その他:10校(20.0%)であった(集計データ集p(18)参照)。

設問Q5-3-1「地域枠制度により専門医取得が困難となっていると思いますか」では、回答を得た56校の内「はい」19校(33.9%)、「いいえ」37校(66.1%)であった(集計データ集p(19)参照)。

設問Q5-3-2「今後、専門医取得に関する卒後キャリア支援体制を構築もしくは改善する必要があると思いますか」に対して、56校中26校(46.4%)が「はい」と回答した(集計データ集p(20)参照)。

(2) 学位の取得支援

設問Q5-4「学位の取得支援制度」に対し、回答を得た56校のうち、「ある」と回答した大学は37校(66.1%)、「ない」と回答した大学は19校(33.9%)であった。支援内容は多い方から順に、大学院履修期間を義務猶予期間としている:23校(62.2%)、大学院履修期間の一部を義務猶予期間としている:6校(16.2%)、大学院履修期間の一部を義務履行に含めている:4校(10.8%)、大学院履修期間を義務履行に含めている:3校(8.1%)であり、その他は12校(32.4%)であった(集計データ集p(21)参照)。

設問Q5-4-1「地域枠制度により学位取得が困難となっていると思いますか」に対し、回答を得た56校の内、「はい」15校(26.8%)、「いいえ」41校(73.2%)であった(集計データ集p(22)参照)。

設問Q5-4-2「今後、学位取得に関する卒後キャリア支援体制を構築もしくは改善する必要があると思いますか」に対しては、回答を得た56校のうち、「はい」19校(33.9%)、「いいえ」37校(66.1%)の結果で、昨年度に比べ「はい」が増加した(集計データ集p(23)参照)。

(3) 臨床研修医の当該地域での履修状況

今年度新たに設置した設問Q5-5「平成20年度以降に入学した地域枠等の出身者のうち、臨床研修を当該地域で受けている割合」では、令和7年度の1校あたりの履修割合は、奨学金支給があるA制度(55校)で平均97.1%、C制度(9校)で平均90.0%、E制度(3校)で平均89.3%、奨学金支給がないB制度(3校)で平均93.3%、F制度(12校)で平均184.3%であった(集計データ集p(24)参照)。

5. その他の取り組み

5.1. 義務履行に関する配置調整について

設問Q6「義務履行に関する配置調整の担当」は、回答70校中、自治体:48校(68.8%)、所属する講座:47校(67.1%)、地域医療支援センター:44校(62.9%)、大学・医師会・地域医療支援C・自治体などで構成する協議会:36校(51.4%)、学内のキャリア形成支援センター(卒後臨床研修センターなどを含む):20校(28.6%)、地域医療に関係する講座:20校(28.6%)、その他:6校(8.6%)の順であった(集計データ集p(25)参照)。

設問Q7「配置調整について問題点はありますか」に対しては、70校中「ある」36校(51.4%)、「ない」34校(48.6%)であり、昨年に比べ「はい」が微増した。その理由については、A～F制度ごとにまとめた(集計データ集p(26),(27)参照)。

5.2. 設問Q8専門研修および大学院進学以外で義務年限履行のために実施・検討している特色ある取り組みや工夫について

A～F制度ごとに集計データ集にとりまとめた(集計データ集p(28),(29)参照)。

5.3. 都道府県によるキャリア形成卒前支援プランの運用状況

設問Q9「都道府県によるキャリア形成卒前支援プランの運用状況」に対しては、回答校数70校の内「運用している」61校(87.1%)、「都道府県と調整中」4校(5.7%)、「検討していない」4校(5.7%)、「学内で検討中」1校(1.4%)であった(集計データ集p(30)参照)。

6. 地域枠等を恒久定員内に設定することの必要性について

各種委員会やガイドライン等において、地域枠等を恒久定員内に設定することの必要性が論じられている。恒久定員内に地域枠を設定することについての協議状況を調査した。

設問Q10-1「地域枠等を恒久定員内に設定していますか」に対しては、回答を得た70校の内、「設定している」34校（48.6%）、「設定していない」24校（34.3%）、「制度によって異なる」12校（17.1%）であった（集計データ集p(30)参照）。「設定している」と回答した大学への質問Q10-1-1「定員数と従事要件」の記述回答は、集計データ集にとりまとめた（集計データ集p(30)～(32)参照）。

また、「設定していない」と回答した大学への質問Q10-1-2「今後の医学部定員の方針について協議・検討を行っていますか」に対しては、回答を得た23校の内、「行っている」12校（52.2%）、「行っていない」11校（47.8%）であった。「行っている」と回答した大学への質問Q10-1-3「想定される定員数と従事要件」と質問Q10-1-4「恒久定員内地域枠等の導入を検討していない理由」の記述回答は、集計データ集にとりまとめた（集計データ集p(33)参照）。

質問Q10-2「協議・検討のレベル」への回答は多い順に、医学部長：58校（84.1%）、都道府県の担当者：43校（62.3%）、学内の地域医療担当教員：28校（40.6%）、地域医療支援センター：24校（34.8%）、病院長：22校（31.9%）であり、その他は24校（34.8%）であった（集計データ集p(34)参照）。

7. キャリア形成プログラムについて

「キャリア形成プログラム運用指針」（令和3年12月1日改正）において、地域医療に従事することを希望する者が、学生・臨床研修の期間を通じてその意志を継続することができるよう、都道府県は、「キャリア形成卒前支援プラン」を策定し、学生の地域医療マインド涵養のために、地域に関する実習や講義の支援等を行うこととしており、令和5年度以降適用するとしている。そして都道府県は、大学や医療機関等と連携し、キャリア形成卒前支援プランにおいて、学生の地域医療等に対する意識の涵養を図るためのプロジェクト「卒前支援プロジェクト」を必ず一つは設定することが求められている。

また、都道府県は、医師偏在対策と地域枠医師等のキャリア形成の両立を円滑に推進するため、派遣先について対象医師と大学等の専門医の研修プログラム責任者等との調整を行うとともに、対象学生の支援を行う人材（キャリアコーディネーター）を配置することとなっていることをふまえ、キャリア形成卒前支援プランの適用状況とキャリアコーディネーターの配置状況について調査した。

7.1. キャリア形成卒前支援プラン

設問Q11-1「キャリア形成卒前支援プランにおける卒前支援プロジェクトの設定状況」に対しては、回答を得た75校の内、「設定されている」62校（82.7%）、「設定されていない」11校（14.7%）の結果であった。「設定されている」と回答した大学への設問Q11-2「卒前支援プロジェクトの種類」への回答は多い順に、「地域医療実習」53校（85.5%）、「地域医療に関するセミナー等の開催」と「地域医療に関する講義」がともに49校（79.0%）、「個人面談の実施」48校（77.4%）、「地域医療機関等の見学会の開催」45校（72.6%）、「都道府県との意見交換会の開催」41校（66.1%）であり、その他は12校（19.4%）であった（集計データ集p(36)参照）。また今回「卒前プロジェクトの種類」ごとに現状や課題、具体的な取り組みの内容を聞き、その内容は集計データ集にとりまとめた（集計データ集p(35)～(43)参照）。

7.2. キャリアコーディネーターの配置状況

設問Q12-1「都道府県のキャリアコーディネーターの配置状況」に対しては、回答を得た77校のうち「配置されている」50校（64.9%）、「配置されていない」24校（31.2%）、「よくわからない」3校（3.9%）の結果であった（集計データ集p(44)参照）。また、「配置されている」と回答した大学の具体的なキャリアコーディネーターの活動内容Q12-2は、集計データ集にとりまとめた（集計データ集p(44)～(46)参照）。

設問Q12-3「都道府県に配置されているキャリアコーディネーターとの連携状況」への回答は、76校のうち「連携している」49校(64.5%)、「連携していない」16校(21.1%)、「よくわからない」11校(14.5%)の結果であった(集計データ集p(46)参照)。また、「連携している」と回答した大学の具体的なキャリアコーディネーターとの連携状況Q12-4は、集計データ集にとりまとめた(集計データ集p(47),(48)参照)。

8. 義務履行期間の終了した地域枠医師の医療従事について

設問Q13-1「平成20年度以降に入学した地域枠等出身者で、義務履行期間が終了した地域枠医師の従事割合」では、以下①～⑨の項目で集計した(集計データ集p(49)参照)。

- ①卒業大学の医局に所属し、医局人事で(医局派遣)関連病院等で医療に従事している。(人事で県外にいる場合も含む)
- ②卒業大学以外の医局に所属し、当該医局人事で関連病院等で医療に従事している。(人事で県外にいる場合も含む)
- ③医局人事外で、引き続き当該医療機関で医療に従事している。
- ④地元自治体の担当部局が就職先等を斡旋している。(人事で県外にいる場合も含む)
- ⑤地域枠医師自身が終了後の進路を決めており、県内で医療に従事している。
- ⑥上記に当てはまらない形式で、県内で医療に従事している。
- ⑦上記に当てはまらない形式で、県外で医療に従事している。
- ⑧不明
- ⑨その他(医療に従事していない場合を含む)

設問Q13-2「義務履行期間終了後も当該地域で勤務していただくために講じている施策や課題」を集計データ集にとりまとめた(集計データ集p(50),(51)参照)。

第4章 地域枠学生の現状及び意識調査

地域枠で入学した学生（以下、地域枠学生）を対象に、その実情や地域枠制度に対する考えを把握するための調査を実施した。

本調査は、地域枠制度のさらなる改善と、地域枠学生に対する適切な支援の在り方を検討するため、将来地域医療を担う学生の率直な意見を収集し、今後のキャリアパス支援やより良い制度設計に役立てることを目的としている。あわせて、将来の地域医療の充実や、それを担う医師の育成に係る施策に生かすことができるよう、当会議から行政へフィードバックを行うことも目的とした。

本調査の実施にあたり、協力いただいた学生および各大学の関係者に対して、厚く御礼申し上げる。

1. 調査の概要

調査期間：2025年12月～2026年1月
 調査対象：全国の大学に在籍する地域枠学生
 調査方法：Webアンケート方式（オンライン）
 回答者数：2,473名

2. 調査結果の概要

【回答者の属性と地域枠の種別】

回答者の学年は1年生から6年生まで全学年にわたっており（Q3）、男女比は男性47.9%、女性51.2%であった（Q1）。所属大学の内訳は国立大学58.6%、私立大学33.1%、公立大学8.3%となっている（Q2）。また、地域枠の種別については、「地域枠」として入学した学生が81.8%と大半を占めるが、「地元出身者枠（10.6%）」や「大学独自枠（4.3%）」等の形態もみられた（Q6）。

【制度の選択と奨学金の受給状況】

98.4%の学生が入学前に地域枠制度を選択しており（Q4）、全体の84.0%が地域枠学生を対象とした奨学金を受給している（Q5）。受給者のうち76.4%は、6年間の全期間にわたって受給する見込みとなっている（Q5-1）。奨学金の受給元は「都道府県」が92.3%と突出しており（Q5-2）、受給額については、受給者の64.9%が入学金・授業料の「約10割（全額）」をカバーしている状況にある（Q5-3）。

【従事要件と義務履行期間に関する理解】

入学前に大学から従事要件について「十分な説明を受けた」とする者は36.1%であったが、入学後には57.8%に向上した（Q8, Q9）。卒後の義務履行期間については「9年間」との回答が77.1%で最多となり（Q7）、制度全体の理解度については、92.7%の学生が「良く理解している」または「まあまあ理解している」と回答している（Q11）。

【大学および都道府県のサポート体制】

大学の対応（サポート体制等）に対し、計80.0%の学生が「とても満足」または「ある程度満足」と回答した（Q14）。都道府県の対応についても、計79.5%が同様に満足している傾向がみられた（Q16）。

【今後のキャリアと制度への意識】

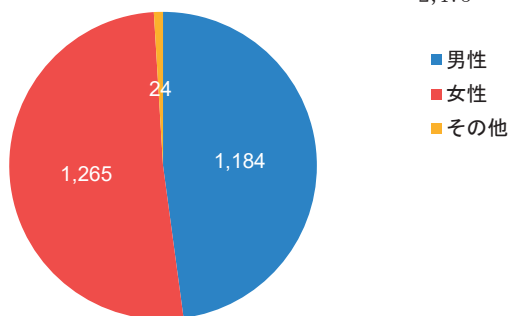
義務履行期間終了後も「地域医療に従事したい（「とても」または「ある程度）」と考える学生は81.0%にのぼった（Q19）。また、地域枠制度そのものについても、90.5%の学生が「今後も必要な制度である」と肯定的に捉えている（Q20）。

3. まとめ

本調査の結果、多くの学生が地域医療への貢献に前向きであり、現行のサポート体制にも概ね満足していることが確認された。一方で、計69.8%の学生が将来の履行にあたって何らかの不安を感じており（Q18）、診療科選択の制限（ある程度の制限はやむを得ないとする者が49.6%）についても多様な意見が寄せられている（Q12）。当会議では、これらの結果を真摯に受け止め、学生が安心して学業とキャリア形成に専念できる環境づくりを推進していく。

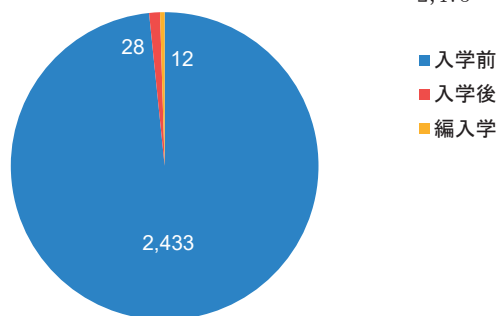
【Q1】性別を教えてください

| | (人) | (%) |
|-----------------------------|-------|-------|
| 男性 | 1,184 | 47.9% |
| 女性 | 1,265 | 51.2% |
| その他 (どちらもいえない・わからない・答えたくない) | 24 | 1.0% |
| | 2,473 | |



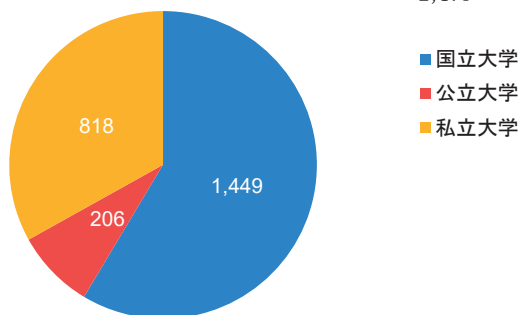
【Q4】あなたが選択した地域枠制度の選抜時期はいつですか？

| | (人) | (%) |
|-----|-------|-------|
| 入学前 | 2,433 | 98.4% |
| 入学後 | 28 | 1.1% |
| 編入学 | 12 | 0.5% |
| | 2,473 | |



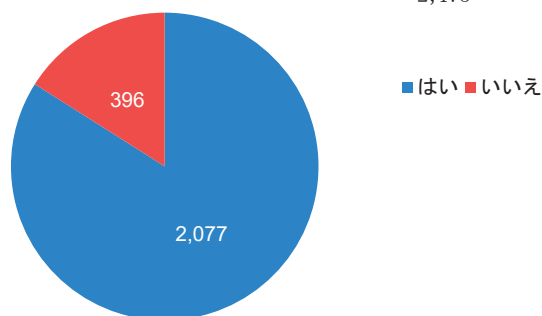
【Q2】所属大学の種類は下記のうちどれに該当しますか？

| | (人) | (%) |
|------|-------|-------|
| 国立大学 | 1,449 | 58.6% |
| 公立大学 | 206 | 8.3% |
| 私立大学 | 818 | 33.1% |
| | 2,473 | |



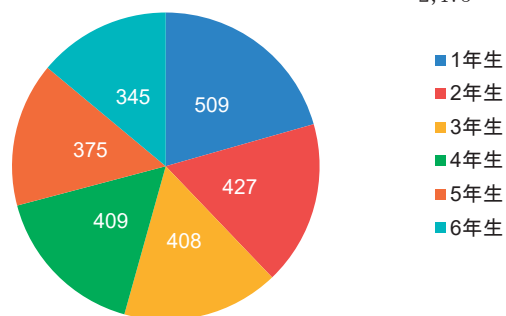
【Q5】地域枠学生を対象とした奨学金を受給していますか？

| | (人) | (%) |
|-----|-------|-------|
| はい | 2,077 | 84.0% |
| いいえ | 396 | 16.0% |
| | 2,473 | |



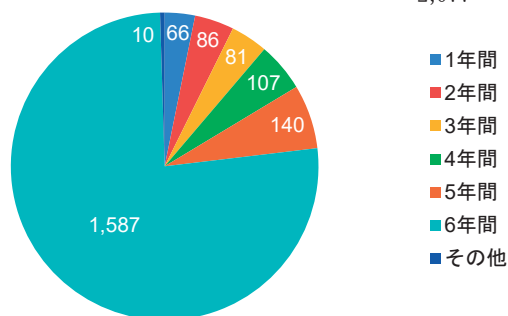
【Q3】回答時点において何年生ですか？

| | (人) | (%) |
|-----|-------|-------|
| 1年生 | 509 | 20.6% |
| 2年生 | 427 | 17.3% |
| 3年生 | 408 | 16.5% |
| 4年生 | 409 | 16.5% |
| 5年生 | 375 | 15.2% |
| 6年生 | 345 | 14.0% |
| | 2,473 | |



【Q5-1】奨学金を受給している場合、奨学金の受給年数を教えてください。

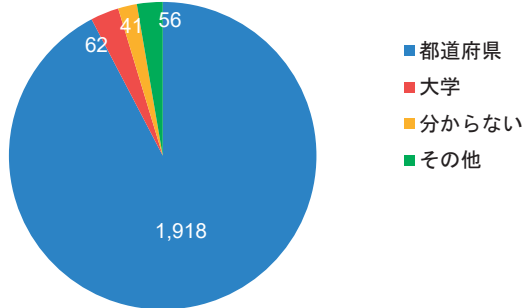
| | (人) | (%) |
|-----|-------|-------|
| 1年間 | 66 | 3.2% |
| 2年間 | 86 | 4.1% |
| 3年間 | 81 | 3.9% |
| 4年間 | 107 | 5.2% |
| 5年間 | 140 | 6.7% |
| 6年間 | 1,587 | 76.4% |
| その他 | 10 | 0.5% |
| | 2,077 | |



【その他】
 在学期間(4)、1年未満(2)、7年(3)、10年間

【Q5-2】奨学金を受給している場合、
奨学金の受給元を教えてください。

| | | |
|-------|-------|-------|
| 都道府県 | 1,918 | 92.3% |
| 大学 | 62 | 3.0% |
| 分からない | 41 | 2.0% |
| その他 | 56 | 2.7% |
| 2,077 | | |

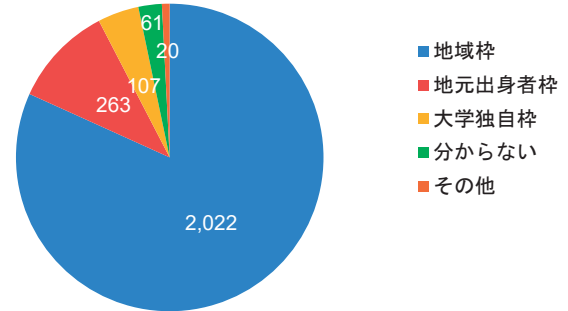


【その他】

- 都道府県と大学 (35)
- 都道府県と市町村 (9)
- 医療局 (3)
- 都道府県と厚生連 (2)
- JASSO
- 岩手県国民健康保険連合
- 厚生連
- 国
- 市町村
- 大学と出身市
- 両方

【Q6】あなたが選択した地域枠制度は
下記のうちのどの種別に該当しますか？

| | | |
|--------|-------|-------|
| 地域枠 | 2,022 | 81.8% |
| 地元出身者枠 | 263 | 10.6% |
| 大学独自枠 | 107 | 4.3% |
| 分からない | 61 | 2.5% |
| その他 | 20 | 0.8% |
| 2,473 | | |



【その他】

- 緊急医師確保対策枠 (10)
- 大学独自枠＋地域枠 (2)
- AO
- 県民医療枠
- 指定校枠
- 全国
- 地域枠ですが、兵庫出身者のみ応募資格がある枠
- 特別枠
- 兵庫県推薦枠
- 北海道東北枠

【Q5-3】奨学金を受給している場合、授業料・入学金の
約何割に相当する額が地域枠学生を対象とした
奨学制度により支給(免除)されているか教えて
ください。

| | | |
|-------|-------|-------|
| 約1割 | 50 | 2.4% |
| 約2割 | 67 | 3.2% |
| 約3割 | 77 | 3.7% |
| 約4割 | 87 | 4.2% |
| 約5割 | 117 | 5.6% |
| 約6割 | 108 | 5.2% |
| 約7割 | 70 | 3.4% |
| 約8割 | 60 | 2.9% |
| 約9割 | 94 | 4.5% |
| 約10割 | 1,347 | 64.9% |
| 2,077 | | |

【Q7】卒後の義務履行期間は何年間ですか？

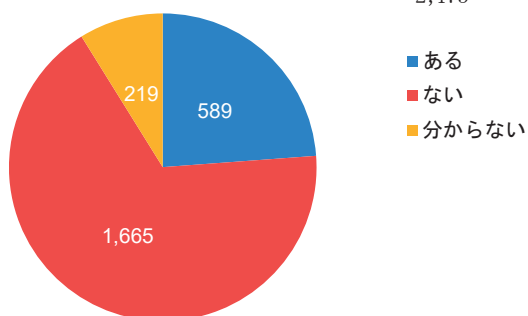
| | | |
|--------|-------|-------|
| 義務履行なし | 44 | 1.8% |
| 1年間 | 3 | 0.1% |
| 2年間 | 52 | 2.1% |
| 3年間 | 69 | 2.8% |
| 4年間 | 6 | 0.2% |
| 5年間 | 43 | 1.7% |
| 6年間 | 77 | 3.1% |
| 7年間 | 50 | 2.0% |
| 8年間 | 21 | 0.8% |
| 9年間 | 1,906 | 77.1% |
| 10年間 | 149 | 6.0% |
| 11年間 | 31 | 1.3% |
| 12年間 | 11 | 0.4% |
| 13年間 | 0 | 0.0% |
| 14年間 | 1 | 0.0% |
| その他 | 10 | 0.4% |
| 2,473 | | |

【その他】

- 15年間 (2)
- 在学期間の1.5倍 (2)
- 在学年数の1.5倍 (3)
- 貸与金受け取り期間の1.5倍
- 初期臨床研修を除いた卒後7年間
- 専攻による 最低9年

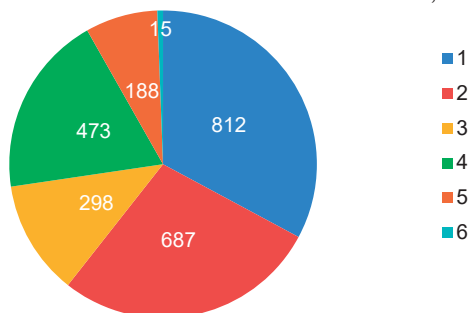
【Q8】 卒後に専攻医選択の制限(診療科指定)はありますか？

| | | |
|-------|-------|-------|
| ある | 589 | 23.8% |
| ない | 1,665 | 67.3% |
| 分からない | 219 | 8.9% |
| | 2,473 | |



【Q9】 初めて地域枠制度を知ったきっかけは何でしたか？

| | | |
|----------------------------|-------|-------|
| 1 中学や高校の先生 | 812 | 32.8% |
| 2 大学の入試説明会、オープンキャンパス、大学HP等 | 687 | 27.8% |
| 3 塾や予備校の先生 | 298 | 12.1% |
| 4 家族・親戚、友人 | 473 | 19.1% |
| 5 インターネット(大学HP以外) | 188 | 7.6% |
| 6 その他 | 15 | 0.6% |
| | 2,473 | |

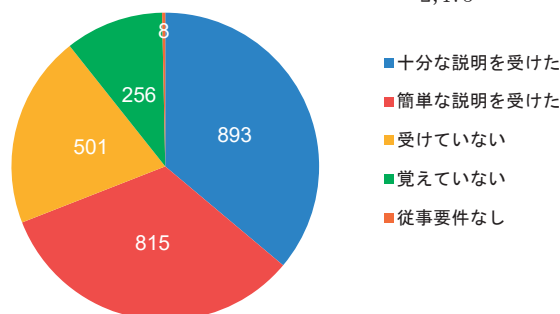


【その他】

- 高校の先輩(3)
- 先輩
- 先輩の合格体験記
- 高校の先生や大学の冊子
- 県が主催するセミナー
- 県の主催する医学部受験生向けセミナーにて
- 都道府県主催の説明会
- 合格発表
- 受験時
- 出願後の大学からのハガキ
- 大学から配布された資料
- 入試要項のパンフレット
- 予備校内の貼り紙

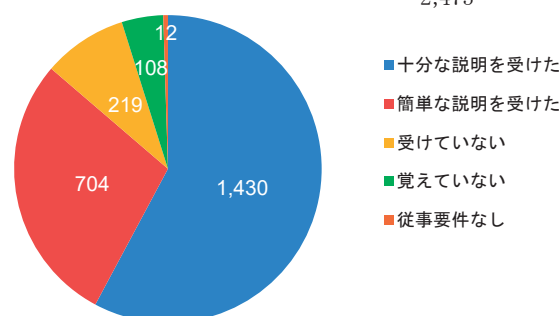
【Q10】あなたが選択した地域枠制度の従事要件について、入学前に大学から具体的な説明を受けましたか？

| | | |
|-----------|-------|-------|
| 十分な説明を受けた | 893 | 36.1% |
| 簡単な説明を受けた | 815 | 33.0% |
| 受けていない | 501 | 20.3% |
| 覚えていない | 256 | 10.4% |
| 従事要件なし | 8 | 0.3% |
| | 2,473 | |



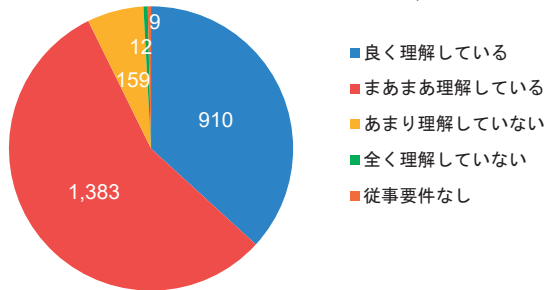
【Q11】あなたが選択した地域枠制度の従事要件について、入学後に大学から具体的な説明を受けましたか？

| | | |
|-----------|-------|-------|
| 十分な説明を受けた | 1,430 | 57.8% |
| 簡単な説明を受けた | 704 | 28.5% |
| 受けていない | 219 | 8.9% |
| 覚えていない | 108 | 4.4% |
| 従事要件なし | 12 | 0.5% |
| | 2,473 | |



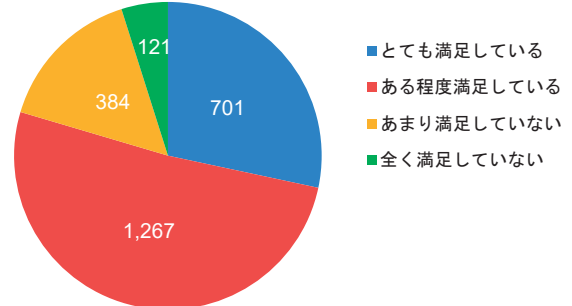
【Q12】あなたが選択した地域枠制度の従事要件について理解していますか？

| | | |
|------------|-------|-------|
| 良く理解している | 910 | 36.8% |
| まあまあ理解している | 1,383 | 55.9% |
| あまり理解していない | 159 | 6.4% |
| 全く理解していない | 12 | 0.5% |
| 従事要件なし | 9 | 0.4% |



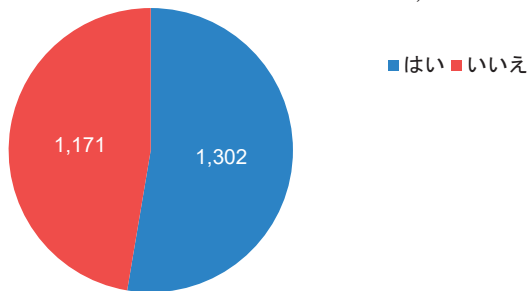
【Q16】地域枠学生に対する都道府県の対応(サポート体制等)について満足していますか？

| | | |
|------------|-------|-------|
| とても満足している | 701 | 28.3% |
| ある程度満足している | 1,267 | 51.2% |
| あまり満足していない | 384 | 15.5% |
| 全く満足していない | 121 | 4.9% |



【Q13】入学後に大学との個別面談を受けたことがありますか？

| | | |
|-----|-------|-------|
| はい | 1,302 | 52.6% |
| いいえ | 1,171 | 47.4% |

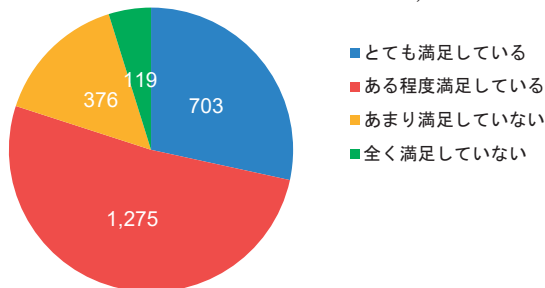


【Q17】Q16の回答について、どのようなサポートに対してそう思いましたか？

※学生調査データ集参照

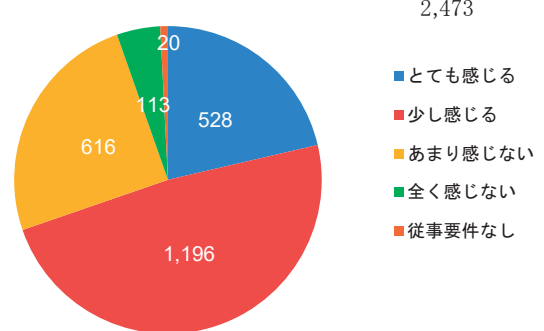
【Q14】地域枠学生に対する大学の対応(サポート体制等)について満足していますか？

| | | |
|------------|-------|-------|
| とても満足している | 703 | 28.4% |
| ある程度満足している | 1,275 | 51.6% |
| あまり満足していない | 376 | 15.2% |
| 全く満足していない | 119 | 4.8% |



【Q18】地域枠学生として卒後の従事要件の履行に当たって不安を感じますか？

| | | |
|---------|-------|-------|
| とても感じる | 528 | 21.4% |
| 少し感じる | 1,196 | 48.4% |
| あまり感じない | 616 | 24.9% |
| 全く感じない | 113 | 4.6% |
| 従事要件なし | 20 | 0.8% |

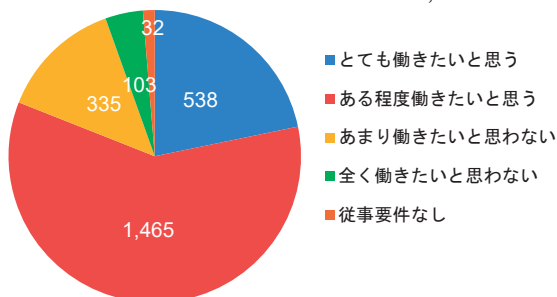


【Q15】Q14の回答について、どのようなサポートに対してそう思いましたか？

※学生調査データ集参照

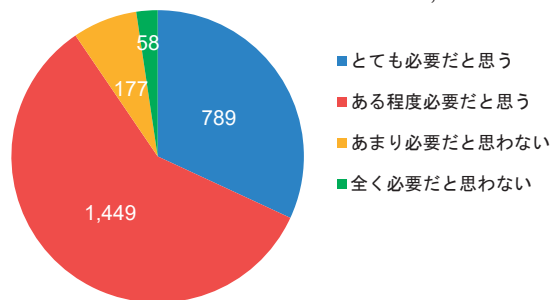
【Q19】義務履行期間終了後も地域医療に従事したいと思えますか？（時期は問いません）

| | | |
|--------------|-------|-------|
| とても働きたいと思う | 538 | 21.8% |
| ある程度働きたいと思う | 1,465 | 59.2% |
| あまり働きたいと思わない | 335 | 13.5% |
| 全く働きたいと思わない | 103 | 4.2% |
| 従事要件なし | 32 | 1.3% |
| 2,473 | | |



【Q22】地域枠制度は今後も必要な制度だと思いますか？

| | | |
|-------------|-------|-------|
| とても必要だと思う | 789 | 31.9% |
| ある程度必要だと思う | 1,449 | 58.6% |
| あまり必要だと思わない | 177 | 7.2% |
| 全く必要だと思わない | 58 | 2.3% |
| 2,473 | | |

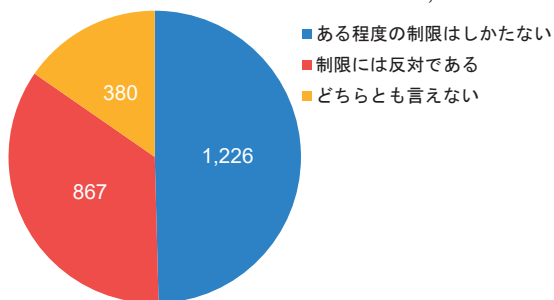


【Q20】Q19の回答の理由を教えてください。

※学生調査データ集参照

【Q21】卒後の診療科選択に制限があること（診療科指定）、あるいは特定の診療科を選ぶことにインセンティブがあることについてどう思いますか？

| | | |
|---------------|-------|-------|
| ある程度の制限はしかたない | 1,226 | 49.6% |
| 制限には反対である | 867 | 35.1% |
| どちらとも言えない | 380 | 15.4% |
| 2,473 | | |



学生調査データ集

【Q15】 Q14（地域枠学生に対する大学の対応（サポート体制等）について満足していますか？）の回答について、どのようなサポートに対してそう思いましたか？

■ ポジティブな意見

【面談・相談体制】

- 定期的な面談が実施され、学業の進捗や日々の生活について相談できる（同様7件）
- 最低でも年に一回面談を行なってくれるところ（同様3件）
- 個別面談で相談できるから（同様2件）
- 面接において、学校生活の悩みを聞いてもらえる
- 面談を通して、学生の現状を把握しようと努めてくれている
- キャリア形成や将来の不安について、個別面談で相談できる
- マッチング前の面談を実施してくれる
- 年に1回面談があること
- 面談が定期的にあること
- 手軽に相談できる場所が設置されている

【先輩医師や学生間の交流】

- 同じ奨学金を受けていて、すでに医師として働いている人の話を聞く機会を設けるサポート（同様14件）
- 地域枠の学生の交流会が年に2回ほど設けられている
- 意見交換会や交流会
- 懇親会や、卒後の先輩方のお話を聞く会
- 地域枠の懇親会など

【学習機会・情報提供】

- 病院実習や地域医療セミナーなどの学習機会が提供されている（同様10件）
- 制度や卒後の進路について、説明会を通じて十分な情報提供がある（同様8件）
- 毎年、その枠の学生に対して説明会が実施される
- 説明会の定期的な開催
- 説明会やイベントがこれまでに複数回開催されているから
- 地域医療に関するセミナーの開催
- 県内病院に関する情報を提供してくれる
- 県に対する資料の提出をサポートしてくれている

【大学・事務の対応】

- 担当教員が学生の顔と名前を覚え、親身に対応してくれる
- 学生課の方で都道府県からの対応を仲介してくれている点
- 離島実習などの調整等行ってくれる
- 卒業後の進路について丁寧に教えてくれた点
- 地域枠学生の現状と悩みに対して、把握しようと努めていらっしゃる上、真摯に取り組んでくださっているから
- 県と協力して様々なイベントを開催して下さる点

■ ネガティブな意見

【サポートの欠如】

- 特別なサポートは実感していない。放置されている（同様25件）
- 大学によるサポートを受けたことはない（同様5件）
- どんなサポートをしているのかわからない（同様3件）
- 相談する相手や窓口がわからない

【情報不足・運用の不備】

- 制度を十分に把握しておらず、説明が不十分、または人によって解釈が異なる（同様8件）
- 入学後の説明が不足しており、将来のキャリアパスが不透明（同様6件）
- 義務年限や離脱時の対応が不明確（同様4件）
- 制限診療科以外に進んだ人を、地域枠全員にメールで晒すような不適切な対応があった
- 複数の種類の地域枠が設けられているなかで、自身の地域枠には一切の奨学金がない
- 診療科選択について、学年が上がるにつれ見えない壁のような障壁を感じている

■ 中立的な意見

- 必要最低限の連絡は来ているが、特に手厚いとも感じない
- 事務的な手続きの案内のみで、特筆すべきサポートはない
- 現状、困っていることがないのでサポートの有無を意識したことがない

■ 要望等

- 授業料以外での金銭面のサポート（教材費や生活費、駐車場代、診断書代など）に補助金を出してほしい
- 病院見学に向けての申請がしづらい。もっとスムーズに現場に行けるように改善してほしい
- 綺麗事ではない地域医療の現状を教えてください。現場のリアルな苦勞や現実を知っておきたい
- 地域枠に対して卒業後長大な義務や制限を課するのであれば、一部の補助ではなく、全額に近い費用を負担してほしい

【Q17】 Q16（地域枠学生に対する都道府県の対応（サポート体制等）について満足していますか？）の回答について、どのようなサポートに対してそう思いましたか？

■ ポジティブな意見

【経済的支援】

- 奨学金の給付による経済的支援が非常に大きい（同様22件）
- 学費の免除や給付金などの資金面での援助。これがなければ医学部進学は難しかった（同様5件）
- 毎月の生活費に充てられる額が支給されており、アルバイトをせずに学業に専念できる
- 入学金や諸経費までカバーされており、家庭への負担を最小限に抑えられた

【情報提供・面談サポート】

- 都道府県担当者による定期的な面談があり、従事要件について丁寧に説明してくれる（同様20件）
- 説明会やセミナーが頻繁に開催され、行政側の顔が見える情報提供が行われている（同様15件）
- 将来的な医師像のモデル提示やキャリアの可視化。卒後のイメージが湧きやすい（同様3件）
- 公式LINEなどを活用し、必要な書類の提出期限やイベント情報を迅速に発信してくれる
- 県の担当者が非常に親身で、個人的な進路の悩みにもメールで即座に回答をくれる
- キャリア形成支援センターによる、専門医取得を見据えた個別カウンセリングの実施

【交流・実習支援】

- 出身市町村の医療関係者との交流会を設けていただき、在学中から地元の先生方と繋がりができた
- 離島実習に行きやすい環境づくり。県が交通費や宿泊費を全面的にバックアップしてくれる
- 卒業から進路先まで、県がワンストップでサポートしてくれる安心感がある
- 地元のイベントに招待されるなど、温かく迎えてもらえて地域の一員である実感が持てる
- 県外の実習に参加する際の手続きや費用を一部補助してくれた

■ ネガティブな意見

【サポートの欠如】

- 都道府県からはなにも実施されない。直接的なサポートに触れたことがない（同様15件）
- 年に一度、定型文のメールが来るだけで、実質的な関わりがない
- 行政側が現場の学生の苦勞に関心がなさそうに感じる
- 相談しても「大学に聞いてください」とたらい回しにされる感覚がある

【制度・対応への不満】

- 変更点の連絡が毎回直前で、その度にこちらのキャリア計画が大きく乱される
- 説明内容も責任を回避するような発言が目立ち、到底納得できるものではなかった
- 医師を「専門職」ではなく「調整可能な労働力」として扱う制度設計への強い不信感
- 結婚、出産・育児、配偶者の転勤、家族の介護など、人生上の不可避な事情が一切考慮されない運用の硬直さ
- 県の担当者が数年で交代するため、これまでの相談の経緯が共有されていない
- 義務履行の条件が後から厳しくなり、不公平感を感じる
- 改悪を重ねる制度への不信感

■ 中立的な意見

- 書類の手続きさえ滞らなければ特に問題はない
- 制度上決まっていることの事務的な通知のみ受けている
- 自治体によって差があるとは聞かすが、自分の県が標準的だと思っている
- サポートというよりは、単なる監視や管理のように感じることもある

■ 要望等

- 離脱時の返還金利息（年10%等）の減免、またはやむを得ない事情による支払猶予の柔軟な対応
- 義務履行期間中の異動について、個人の家庭事情（育児・介護等）をもっと考慮してほしい
- 専門医取得のタイミングと、地域勤務のタイミングが両立できる具体的なロードマップの提示
- 他県の地域枠学生との交流の場を、国や県が主導して作ってほしい

【Q20】 Q19（義務履行期間終了後も地域医療に従事したいと思いますか？（時期は問いません））の回答の理由を教えてください。

■ ポジティブな意見

【実家・家族・地元とのつながり】

- 地元だから。自分の出身地なので恩返しも含めて貢献したい（同様55件）
- 実家が地元の病院を経営しており、将来的に継承することを前提としているため
- 実家の病院がある。親も医師として地域に貢献しており、その背中を追いたい
- 両親が高齢になっていくことを考え、実家の近くで働いて親孝行をしたい
- 結婚して家庭を持つなら、親戚や知人の多い住み慣れた地元が一番だと考えている
- 長男（長女）であり、将来的に地元の家を守る必要があるため
- 既に地元生活基盤があり、移動することのデメリットの方が大きい

【地域への愛着・自己実現】

- 生まれ育った地域への愛着がある。風景や文化が好きで、ここ以外での生活は考えられない（同様10件）
- もともと地域医療に携わることが夢で医学部を志した。目標が明確である（同様5件）
- 地域の患者さんとの距離が近い医療に魅力を感じている
- 奨学金をいただいたおかげで医師になれたという感謝があり、その恩を返したい
- マイナー科であっても、地域に必要とされるならその分野を極めて貢献したい

【義務・安定性】

- 入った以上、地域枠としての義務を全うすべき。それが母校や県への誠実な対応だと思う
- キャリア形成の期間を地域で過ごすことで、生活基盤を安定させ、腰を据えて医療に向き合える
- 働く場所には特にこだわりがなく、必要とされる場所で働けるならそれで良い
- 県のキャリア支援が手厚く、地域にいても成長できる確信が持てたため

■ ネガティブな意見

【キャリア・技術習得への懸念】

- キャリアアップや最先端の医療技術、症例を学ぶために、若いうちは都心や海外へ出たい（同様15件）
- 生涯地域医療に従事し続けるとなると、自分が望むサブスペシャリティの専門性が維持できない
- 大学病院や都市部の大病院にいる同期と、技能面で大きな差がつくことへの焦り
- 指導医の確保や、専門医更新のための症例数が地域で確保できるのか非常に不安
- 自身の専門にしたい科が、地域では需要が低く、十分な修練が積めそうにない

【制度の重圧・生活環境】

- 入学前には想像できなかった「県に縛られる」という十字架の重さを、学年が上がるにつれ痛感している
- 若手の使命感に頼りきりの体制。医師不足のツケを自分たちに回されている感覚がある
- 地方での生活は不便。特に子供の教育環境などを考えると、都市部の方が有利だと感じる
- 制度上の制限がなければ、もっと自由に自分の可能性を試したかった
- 義務年限が終わったら、一度はしがらみのない環境でリセットしたい

■ 中立的な意見

- 義務履行が終わった時点での自身の能力や、その時の日本の医療情勢を見て冷静に判断したい（同様4件）
- 勤務地にこだわりはないが、その時のパートナーの仕事の都合なども考慮せざるを得ない
- 特定の県に固執せず、日本のどこであっても医療資源が不足している場所なら協力したい
- 制度の是非はともかく、まずは与えられた環境でベストを尽くしてから考えたい

■ 要望等

- 義務履行後も地域に残る医師に対して、診療報酬上の優遇や研究費の助成など、具体的なメリットを提示してほしい
- 地域勤務中でも、定期的に大学病院やセンター病院で研修が受けられる「ローテーション制度」を確立してほしい
- 義務履行中の住宅手当や子供の教育費補助など、生活面でのインセンティブを強化してほしい

第5章 地域枠制度についての意見交換会

1. 意見交換会の趣旨

本委員会の調査研究のみでは掘り取ることができない地域枠制度運営現場の問題意識や好事例を共有することで、各大学・都道府県がより良い地域枠運営を行うことができるよう、「地域枠制度についての意見交換会」を開催することとした。

[参加者]

地域枠の在学学生や卒業生の管理・指導等に直接携わっている実務者（各都道府県の地域枠担当者、地域医療支援センター担当者、大学の地域医療関連講座など）、文部科学省および厚生労働省の担当者

[これまでの開催方法]

- 2017年度：全国を6つのブロックに分けて、各々異なる日程で開催。各々のブロックで3つのグループに分け、希望の2つのテーマで討論。
- 2018年度：西・東日本のブロックに分け、更に各々8つのグループに分けた。希望のテーマについて討論。
- 2019年度：Aブロック（医師少数県以外）、Bブロック（医師少数県）に分け、別日程で開催。それぞれ6つ、8つのグループに分けて希望のテーマで討論。
- 2020年度：オンラインにて開催。「離脱防止策」「診療科選択」「一般学生の地域医療教育」「大学医局への入局、専門医研修」「その他」について、参加者全員での討論を行った。
- 2021年度：オンラインにて開催。「大学と行政との連携によるキャリア形成プログラムの構築」、「恒久定員に地域枠定員を含めることになった場合の留意点」、「地域枠制度を学生・卒業医師・住民・行政が納得できる制度にするための工夫」の3つのテーマで討論。
- 2022年度：オンラインにて開催。「子育て世代にある地域枠医師のキャリア形成」、「入学定員と地域枠定員のバランス」、「地域枠の診療科選定について」の3つのテーマで討論。
- 2023年度：対面参加に戻して開催。「不同意離脱の判断基準とその意思決定プロセスについて」、「離脱防止のために取り組んでいること」、「離脱の理由について」の3つのテーマで討論。
- 2024年度：対面形式にて開催。「今後の地域枠定員（地元出身枠含む）をどのように設定するか?」、「義務だけではなくインセンティブも付与して地域枠医師を誘導したい診療科は?」、「地域枠からの離脱をこうやって防いだ」の3つのテーマで討論。

2. 意見交換会の概要

- **開催日時**：2026年3月5日（木）13:00～17:30
- **開催場所**：TKPガーデンシティPREMIUM秋葉原（東京都千代田区外神田1-7-5）
- **参加者**
 - **大学**：旭川医科大学、弘前大学、秋田大学、福島県立医科大学、獨協医科大学、群馬大学、埼玉医科大学、千葉大学、東京科学大学、日本大学、日本医科大学、東邦大学、東京医科大学、東京慈恵会医科大学、昭和医科大学、昭和医科大学、帝京大学、東海大学、新潟大学、金沢大学、福井大学、山梨大学、岐阜大学、浜松医科大学、名古屋大学、名古屋市立大学、愛知医科大学、滋賀医科大学、京都府立医科大学、大阪公立大学、

大阪医科薬科大学、関西医科大学、近畿大学、神戸大学、兵庫医科大学、奈良県立医科大学、和歌山県立医科大学、島根大学、三重大学、岡山大学、川崎医科大学、山口大学、徳島大学、香川大学、愛媛大学、高知大学、久留米大学、佐賀大学、長崎大学、熊本大学、大分大学、宮崎大学、鹿児島大学、琉球大学

- 自治体 : 北海道、青森県、岩手県、秋田県、福島県、茨城県、群馬県、東京都、神奈川県、新潟県、富山県、石川県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県、滋賀県、京都府、島根県、岡山県、広島県、徳島県、香川県、福岡県、大分県、鹿児島県
- 地域医療支援センター :
福島県、新潟県、山梨県、和歌山県、鳥取県、島根県、愛媛県、高知県、長崎県、鹿児島県、沖縄県
- 省 庁 : 厚生労働省医政局医事課医師養成等企画調整室長 和泉 誠人 様
厚生労働省医政局医事課 主査 濱田 幹浩 様
厚生労働省医政局総務課 保健医療技術調整官 九十九 悠太 様
文部科学省高等教育局医学教育課長 日比 謙一郎 様
文部科学省高等教育局医学教育課 企画官 松本 晴樹 様
文部科学省高等教育局 医学教育課 課長補佐 宮沢 由香合 様
文部科学省高等教育局医学教育課 企画係・医師養成係 長澤 メリア 様
- 全国医学部長病院長会議 地域の医療及び医師養成の在り方に関する委員会 :
大脇 哲洋 委員長 (琉球大学)、石橋 恭之 委員 (弘前大学)、長谷川 仁志 委員 (秋田大学)、井口 清太郎 委員 (新潟大学)、佐野 千晶 (島根大学)、松本 正俊 委員 (広島大学)、前田 隆浩 委員 (長崎大学)、大屋 祐輔 オブザーバー (琉球大学)、小谷 和彦 オブザーバー (自治医科大学)
- 全国医学部長病院長会議 事務局 :
横山 直樹 (事務局長)、河井 麻美、白井 知美、石川 潤

● プログラム

- 開会挨拶
 - ・ 松本委員 (総合司会)
- 委員長挨拶
 - ・ 大脇委員長
- 令和6年度調査の概要
 - ・ 前田委員 (資料1)
- 文部科学省講演
 - ・ 文部科学省高等教育局医学教育課 企画官 松本 晴樹 様 (資料2)
- 厚生労働省講演
 - ・ 厚生労働省医政局医事課医師養成等企画調整室長 和泉 誠人 様 (資料3)
- 新潟県地域枠について -改めて地域枠制度の意義を考える-
 - ・ 新潟県福祉保健部福祉保健総務課 参与 神田 健史 様 (資料4)
- 地域枠を「確保策」から「キャリア形成の仕組み」へ
 - ・ 千葉大学医学部附属病院 次世代医療構想センター長 吉村 健佑 様 (資料5)
- グループワーク (資料6～8)
- 総合討論

3. 意見交換会の内容

● 令和7年度調査の概要

前田委員より、令和6年度の「地域枠入学制度と地域医療支援センターの実情に関する調査報告」の概要が説明された。本調査は、2015年度より始まった、文部科学省委託事業「大学における医療人養成の在り方に関する調査研究事業、地域医療に従事する医師の確保・養成のための調査・研究」を全国医学部長病院長会議が受託して実施したものである。全国の医育大学や地域医療支援センターに対し、令和6年5月末日時点での①「地域枠入学制度と地域医療支援センターの実情に関する調査」、②「地域枠入学生の在学中及び卒業後転帰調査に係る予備調査」、③「地域枠入学生の在学中及び卒業後転帰調査」を実施した。集計は産業医科大学、防衛医科大学校、自治医科大学と一部で新設の医科大学・医学部を除いた77大学について行った。以下の結果が報告された。

- ・77大学中、69大学（89.6%）で地域枠が導入されていた。このうち67大学（97.1%）の地域枠で奨学金が支給されていた。
- ・全国の地域枠制度数は193制度で、入学定員は1,706人（A1区分：1,172人、B1区分：377人、A2区分：81人、B2区分：70人）であり、入学後に手上げ方式で選抜し奨学金を貸与するA2区分が急速に減少していた。
- ・義務履行年数はA区分では9年間が圧倒的に多い。配置対象医療機関はA区分では大学病院を含む知事指定医療機関が大多数、また約60%で医療過疎地域での勤務が義務付けられていた。B区分は大学病院およびその関連病院とするものが多かった。
- ・全地域枠（全国）の充足率（入学者数/定員数）は、一時期90%以下に落ち込んだ時期もあったが、近年は持ち直し95%以上で安定していた。なお、令和6年度は若干低下がみられた。
- ・既に地域枠入学制度を導入している大学の83%で地域枠制度存続の意向があり、枠の拡大を希望する大学も少数あった。
- ・地域枠と一般枠のストレート卒業率は、当初は地域枠のほうが明らかに高かったが、近年は徐々に85%程度で近似してきている。
- ・地域枠と一般枠の医師国家試験現役合格率についても、制度開始当初は地域枠のほうが一般枠よりも明らかに高かったが、徐々に両者の差が縮まっており、ほとんど差が無くなっていた時期もあったが、令和3年度以降は地域枠のほうが高い状態が続いている。
- ・11年間（平成20年度～平成30年度入学者）の義務履行率、つまり医師国家試験合格者に対する義務履行者・義務終了者の割合（義務離脱者および義務中断者を除く）は85%であった。
- ・初期研修後の勤務先は、大学以外の県内中核病院（49%）、県内大学（39%）が多かった。
- ・勤務先の地理的区分では、医師不足でない地域での勤務が67%で、医師不足地域での勤務が33%であった。
- ・令和5年度までの医師国家試験合格者のうち7%が義務中断中であった。中断理由は「不明」「専門研修」「その他」が多かった。
- ・平成20年度～令和5年度までの地域枠入学者のうち4.1%が離脱していた。大学の設立区分では私立5.7%、国立3.6%、公立2.7%であった。調査区分でみるとA2区分（入学後手上げ方式）が9.8%で最も高かった。
- ・離脱時期としては、6年次から卒業後3年目までが圧倒的に多かった。
- ・離脱理由としては、「その他の個人的な理由」が最も多く、「不明」、「県外への居住地変更」が続いた。
- ・地域枠入学生のうち25%が県外出身者であった。離脱率は県内出身者が2.9%であったのに対し、県外出身者は7.6%と高率であった。

● 文部科学省の講演

文部科学省高等教育局医学教育課の松本企画官より、地域枠に関連した文部科学省の取り組みの現状と今後の方向性について次のような講演があった。

- ・臨床研修シーリング、専門研修シーリングに加えて、地域枠は即効性も有効性も高い施策と認識している。
- ・私見であるが、地域枠を増やすと入局者が減る、研究もできなくなる、という認識を持った学部長や大学病院長が少なくないという印象を持っている。しかし実際は違う。地域枠のほとんどが入局する大学は多数存在している。実際は地域枠によって入局が増えるということを正しく認識してもらいたい。
- ・医学部定員については、今後抑制していく方針であるので、臨時定員地域枠を恒久定員に移行させていくことが重要になる。
- ・診療科選定地域枠については、近年直美の問題などもあり、立法府の中では診療科を縛るべきという意見もかなり強く存在している。指定されている診療科としては救急、総合診療、内科、産婦人科、外科あたりが多くなっている。
- ・臨時定員地域枠、つまり奨学金付きの地域枠については出身地に関係なく義務を果たしてくれる一方で、恒久定員内の地域枠については奨学金が無いあるいは少ないといった状況があるので、例えば地元出身者に限った方がよいのではないかという議論もある。
- ・地域枠以外については、地元出身者以外の県内定着率は非常に低いことが分かっている。ここはなかなか変わらないということを、よく認識してもらいたい。県内出身者の割合が低くて、県外流出率が高い大学については恒久定員内の地元出身者枠を設ける余地があるのではないかと思っている。
- ・地域枠の国家試験合格率が高いこと、35歳未満の若手医師が医師不足県において増えているという効果が出ていることも踏まえて、今後の地域枠定員の設定を皆で考えていく必要がある。
- ・その他、研究医枠や大学病院の経営のお話などもあった。

● 厚生労働省の講演

厚生労働省医政局医事課医師養成等企画調整室の和泉室長より、地域枠制度等に関する期待と取り組みについて次のような講演があった。

- ・文科省は医師養成課程を通じた医師偏在対策に取り組んでいるが、その中でも地域枠の効果は非常に高いと認識している。
- ・昭和38年以降、医学部定員は増加を続けており、平成21年以降地域枠定員も増加しているが、令和6年以降は減少している。地域枠定員の割合は増加している。
- ・35歳未満の若手医師については医師少数都道府県で大幅に増加しており、医師多数県では増加が少ない。これは地域枠も含めた様々な施策や努力の結果と考えている。全年齢の医師で見ると医師多数区域での増加が著しい。
- ・地域枠からの離脱、それに伴う訴訟等トラブルについては、まず都道府県および大学が入学者に対して卒後の義務内容について丁寧な説明を行うことが重要である。
- ・また離脱防止について、離脱をしにくい制度の構築も同様に重要と認識している。具体的には不同意離脱者を採用した臨床研修病院に対して、ヒアリングを行ったうえで、研修費補助金の減額を行っている。また日本専門医機構と共同し、不同意離脱者は専門医の認定を行わない仕組みになっている。
- ・臨床研修医に対するアンケート結果によると、地域枠ではない医師の地域定着度は都道府県によるばらつきが結構ある。これを踏まえて医師確保計画策定ガイドラインにおいて医師養成過程を介し

た偏在対策について各都道府県に網羅的に取り組んでもらえるよう記載している。医師の流入や流出に関するデータも厚労省から出していただいで都道府県で分析できるようにする予定である。

- ・診療科選定地域枠については難しいという都道府県も結構あるが、入学後に奨学金を割り増しにするなど、いろんな工夫がありうる。
- ・人口減少を踏まえて医学部定員は削減の方針であるので、今いる医師をどう有効活用するのかを考えることが重要である。

●新潟県の講演

新潟県福祉保健部福祉保健総務課 神田参与より、新潟県における地域枠の取り組みについて次のような講演があった。

- ・新潟県地域枠は新潟大学に臨時定員で40名、東京の私立大学などにも枠を設けて合計79名となっている。貸与金額は高めに設定している。
- ・県庁内の地域医療支援センターに医師4名、その他に新潟大学内にもセンターを置いている。地域枠の面倒をみている。新潟大学に寄附講座も置いていて、地域枠以外も含めた全学生への地域医療教育を担っている。
- ・学生から卒業生まで全員を毎年少なくとも一回、センターの医師が面談している。期待と感謝を伝えるようにしている。学年ごとに面談で聞く内容も決めている。地域医療実習も主催しているが、これも学年ごとに内容を分けている。地域参画型になるよう留意している。
- ・県の立場を生かして教育委員会と共同し、受験生確保にも力を入れている。受験生説明会や高校生向けの出張講座などを行っている。
- ・卒後は医師不足圏域に配置をされつつ、専門研修プログラムに入れるようにしている。大多数は入局している。学生と卒業生を合わせた離脱率は1%程度。
- ・地域枠を恒久定員に入れてもらうよう各大学と交渉しており、複数の大学から前向きな反応を得ている。

●千葉大学の講演

千葉大学医学部附属病院次世代医療構想センター 吉村センター長より、千葉大学、千葉県、全国区の法人の取り組みについて講演があった。

- ・千葉県にて775名の地域枠等制度利用者の個別サポートをしているが、それを超えて全国の都道府県・大学医学部のキャリアコーディネータと連携し情報交換できるよう、一般社団法人「キャリアデザイン機構」を立ち上げている。厚労省と連携して調査、研究会、手引きの作成などを行っている。現在活動が3年目に入った。
- ・キャリアコーディネータは全国に208名配置されている。約9割は医師。コーディネータや県職員が地域枠制度利用学生や医師との対応に自信をもってあたって欲しいという趣旨で活動している。
- ・結婚子育て等のライフイベントへの対応など、各都道府県の状況を調査し、情報提供するなど、制度の変更や更新にあたって参考となるような支援をしている。
- ・調査した手ごたえとしては、地域枠制度利用者の約の8割は大学医局に入局しており、千葉県では85%であった。多くの制度利用者が大学の専門研修プログラムに入っていた。都道府県と大学医局の両者のすり合わせをコーディネータが一役担うことも重要。
- ・制度利用者が増加する中、今後も本事業は続いていく見通しであり、大学関係者にも向けて情報提供を継続していく。

● グループワーク

基本的に下記A～Cのテーマを第一希望として選択した参加者が、11グループ（各グループ10名程度）に分かれて討論を行い、終了後に各グループのファシリテータがテーマごとに集まり情報を集約し、最後に全体に発表した。

【テーマA】 義務年限終了後の進路

◆ グループA-1、A-2、A-3

発表者：佐野 千晶 委員（島根大学）

ファシリテータ：A-1 佐野 千晶 委員（島根大学）、A-2 松井 邦彦（熊本大学）、A-3 佐藤 勝（岡山大学）

- ・義務年限中、義務年限終了後の進路の把握に係る大学と都道府県との情報連携についてはさらに強化する必要がある。現状、義務終了後は必ずしも全例把握できているわけではない。
- ・地域枠、地元出身者枠、大学独自枠、その他での進路の違いについては事例が少なく比較が難しい。
- ・義務年限終了後の地元定着や、義務年限終了後の卒業生の把握等を進めるための大学の取組については、高校生などに義務後を見据えた長い目で見た地域の魅力の発信が重要、地域への指導医の配置が義務終了後の定着にも重要、「義務として縛る」よりも「残ったほうが得である」ことを伝えていく、いろんな選択肢を提示していく、などの意見が出た。
- ・地域枠だとキャリアが遅れるという不安には、いろいろな人と関わって逆に成長につながる、医師人生40年の中で数年の経験だけではなくて、長い目で見ればいろいろな経験を積んだほうがいい医者が多い感触、無駄な1年はないなどと伝える。
- ・まとめると、自治体は進路に関する個別事情踏み込めないところがある。大学については入局させるという点に尽きる。そこでサポートしてもらい、進路も把握する。キャリアコーディネータの役割や姿勢にばらつきがある。名簿の公開を考慮すべき。

【テーマB】 診療科選択

◆ グループB-1、B-2、B-3

発表者：井口 清太郎 委員（新潟大学）

ファシリテータ：B-1 井口 清太郎（新潟大学）、B-2 前田 隆浩（長崎大学）、B-3 小谷 和彦（自治医科大学）、B-4 鈴木 富雄（大阪医科薬科大学）、B-5 嶽崎 俊郎（鹿児島大学）

- ・診療科指定の現状として医師多数県では診療科制限がある、医師少数県では診療科制限は少ない、診療科指定のある県は多くない（緩い推奨はある）、しかし実際の配置ではいわゆるマイナー科は困難があるといった現状。
- ・診療科選定地域枠の学生・卒業生に対するサポートについては、地域医療にマッチする診療科を学部段階から対話していく、地域の現場で繰り返しかつ早期から地域医療にマッチする科を考えてもらう。長期に地域医療実習を促すといった案が挙がった。
- ・特定の診療科への誘導については、特定診療科（小児、産科、救急、総合等）に対する卒前学費上乘せや卒後給付金の対応を行う案が出た。いわゆるマイナー科等の義務年限の働き方を柔軟にし、例えば、義務の9年を地域勤務を生涯かけてあるいは12年で9年果たすとか、時短勤務で積算9年にするとか、個別支援で対応することでどの科に進んでも無理なく義務が果たせる可能性がある。

- ・地域枠としての医師少数区域への配置と、専門医取得のためのキャリアパスは時に両立しがたい。結果として制限は少ないものの、実質的に特定の科に誘導することを意図する県があった。診療科を制限して内科などを選択しても9年間でサブスペまで取ろうとすると難しいため医師少数区域へ行きたくない場合がある。
- ・診療科に関わらず、医局への入局は地域枠運用の上でアドバンテージとなるのではという意見があった。

【テーマC】地域枠定員

◆ グループC-1、C-2、C-3

発表者：長谷川 仁志 委員（秋田大学）

ファシリテータ：C-1 長谷川 仁志（秋田大学）、C-2 石橋 恭之（弘前大学）、C-3 永田 康浩（長崎大学）

- ・恒久定員内地域枠、地元出身者枠、大学独自枠の拡大にあたっての障壁について検討した。障壁を超えるためには、地域枠は医局に入局するので医局への働きかけをする、大学、病院、地域との協定などにより連携を密にする必要がある、といった意見が出た。
- ・恒久定員内への地域枠設置にあたっての障壁については、県議会での審議が必要かもしれない、恒久定員にするには、大学人事（医局）に参入する必要性を迫られ、医師派遣に関する、県のニーズと大学のニーズのギャップが浮き彫りになる可能性があるといった意見が出た。
- ・大学と都道府県との連携協定の具体的内容（大学、都道府県双方の立場での必要な協定事項や地域枠定員に関する事項等）については、定員のみならず、その後の指導が重要であり、面談の実施を行っている県がある。大学院進学者も少なくないので大学院在学中は中断として義務履行を後ろにずらす、学生のデータベースを作成し、卒前からフォローアップする、地域医療支援センターが大学のみにある県のみにあるというのはやや問題、高校生から卒前そして卒後の教育の充実が重要といった意見が出た。

● 総合討論

講演およびグループワークを踏まえて、以下の話題について議論を行った。

- ・グループワークにおいて、診療科に関わらず卒後3年目と7年目に総合内科として地域に配置するという事例紹介があったが、個人の権利などが重視される昨今において、学生への説明時期と承諾のタイミングに関する質問があった。これに対し、当該自治体のご担当者より「入試前に説明を行っている」との回答があった。また別の大学からは、医局人事とは別に県が配置を行う制度へ変更した際の説明方法や、当時の混乱への対応について共有がなされた。
- ・将来の人口減少を踏まえ、地域枠定員の決定プロセスに関する質問に対し、医師不足が深刻な地域の大学からは「現状では、地域枠は多ければ多いほど望ましい状況であり、上限を議論する段階ではない」との見解が示された。厚労省からは、医師養成に関する検討会において医学部定員の適正化と地域の実情に基づく定員配分について議論が行われ、それに基づいた決定しているとの説明があった。
- ・特定の都市部において地域枠定員が削減され、現在各大学数名程度となっている事例が報告された。少人数では一般学生の中に埋もれてしまい、誰が地域枠か分からないような状況となっており、地域枠制度を機能させるためには一定以上の定員確保が必要であるとの意見が出された。
- ・特定の都道府県において、近年地域枠や大学独自枠の離脱増加が問題となっている事例が報告された。これに対し、同じ都道府県内の複数大学と自治体が協定を結び、地域全体で一致して対処する体制が

構築された。この件について文科省からは、離脱の多くは地域枠ではなく大学独自枠であり、臨時定員内の奨学金付き地域枠において離脱が拡大している事実はないとの補足があった。また、大学間での人材争奪や県外への流出を防ぐための連携の重要性が指摘された。

- ・臨時定員数の通知が毎年ギリギリの時期に行われている点について、国に対し余裕をもった通知を求める意見が出された。厚労省からは、医学部定員全体については、毎年各都道府県の意向をうかがいながら慎重に議論しており、丁寧に調整する上ではある程度の時間がかかるのはやむを得ない事情の説明があった。
- ・地域枠において総合診療医は急務であるが、実際には実効性の確保が困難であるという課題が提示された。文科省からは、いくつかの事業を立ち上げて総合診療医育成を後押ししていること、大学病院の総合診療科の在り方について今後検討が必要と考えている旨の説明があった。一方で大学側からは、専門医志向という国民側のニーズや、大学病院が臓器別診療科に特化している現状など、構造的な課題も指摘された。

● 総括

大屋オブザーバー（前委員長）より総括として下記の発言があった。

- ・地域ごとに課題も実情も違う。地域枠の定着度、入局程度なども違う。
- ・医局に入局をすることが地域枠を守ることに繋がる。
- ・各大学、各都道府県本当に一生懸命地域枠運営を頑張っている。
大脇委員長からも総括として下記の発言があり、本会議は終了した。
- ・地域枠がある程度上手くいっていること、地域医療を守っているのは事実である。
- ・診療科の問題は各地域様々に事情は異なる。関係者が密に協力していく必要がある。
- ・本意見交換会は来年度以降も続けていく予定なので、引き続き皆さまのご協力をお願いしたい。

4. 令和7年度意見交換会のまとめ

本年度の意見交換会も活発な情報交換と議論が行われ、参加者にとって極めて示唆に富む内容となった。地域枠制度の開始から16年が経過しており、義務履行修了者も一定数出ている状況である。議論が従来の卒前教育と義務内のケアに留まらず、義務終了後のキャリアパスにまで及んでいるのは、制度の進展に伴う自然な流れと言える。

一方で各都道府県や大学が抱える実情・課題は依然として個別性が高く、一律の解を導き出すことは困難である。各地域の事情に合わせた地域枠制度を、それぞれの創意工夫によってブラッシュアップしていく必要性について、概ねのコンセンサスが得られた。本意見交換会では文部科学省および厚生労働省の担当官に講演ならびに質疑応答へご対応いただき、多くの大学、都道府県の担当者にとって、今後の制度運営上の貴重な指針となったものと推察される。

5. その他

意見交換会終了後のアンケートでは、78名から回答を得た。

前半の5つの講演について、「有益」と「どちらかといえば有益」を合わせて98.7%を占め、大半の参加者が有益であったと評価している。一方で、自由記載欄では「講演時間が短く、もっと内容をじっくり聞きたかった」という時間の不足を指摘する声や、それに伴う「質疑応答の時間をもっと確保してほしい」といった進行面での改善を求める意見が寄せられた。

後半のグループワークに関しても、「有益」と「どちらかといえば有益」が97.4%を占めたが、「他グルー

プの議論や拍手が響き聞き取りにくかった」といった会場環境への指摘や、「議論の時間をより多く確保してほしい」といった時間不足の改善を求める声もあり、今後の検討課題としたい。

今後も意見交換会を継続すべきかという質問に対しては、「思う」と「どちらかというと思う」が93.6%を占め、本会の必要性の高さが示された。

全体を通して、「他大学や他県の具体的な事例を知ることができ、非常に有益だった」という肯定的な意見が多く寄せられた一方で、開催時期の再考を求める声も上がっている。今後も全国レベルで様々な課題や問題点を共有し、地域性の異なる都道府県および大学・地域医療支援センターが、その枠を超えて互いの認識を深められる会になるよう、運営の改善に努めていく。

一般社団法人 全国医学部長病院長会議
地域の医療及び医師養成の在り方に関する委員会
地域枠制度についての意見交換会

資料1
令和6年度
地域枠入学制度と地域医療支援センターの
実情に関する調査報告

令和6年度
地域枠入学制度と地域医療支援センターの実情に関する調査報告

令和8年3月5日(木)
地域の医療及び医師養成の在り方に関する委員会
委員 前田隆浩

令和6年度
地域枠入学制度と地域医療支援センターの実情に関する調査報告
(令和7年3月)
一般社団法人 全国医学部長病院長会議

- 平成27年度より始まった文部科学省委託事業「大学における医療人養成の在り方に関する調査研究事業(地域医療に従事する医師の確保・養成のための調査・研究)」を全国医学部長病院長会議が受託して実施した。
- 「地域枠制度」とは、地域医療に従事する医師の養成とそれによる医師不足の軽減を目的とし、大学による入学定員枠の設定や主に自治体による奨学金貸与等の優遇策を導入した制度である。
- 調査内容: ① 地域枠入学制度と地域医療支援センターの実情に関する調査(基本調査)
② 地域枠入学生の在学中及び卒業後転帰調査(予備調査)
③ 地域枠入学生の在学中及び卒業後転帰調査(転帰調査)を実施した。
- 調査基準日: 令和6年5月末日時点での回答を依頼した。
- 調査対象大学: ① 基本調査…82大学 ② 制度調査…70大学 ③ 転帰調査…70大学
- 集計対象大学: ① 基本調査…77大学^(注1) ② 制度調査…69大学^(注2) ③ 転帰調査…65大学^(注3)
- 調査対象者: 平成20年以降に入学した学生(編入学については平成25年度以降の卒業者)を対象とした。大学が選抜や指導に関与せず、組織として把握していない制度については除いた。

本調査における分類について

- 国立・公立・私立に分けて、大学設立別に集計した。
- 地域枠制度を奨学金の有無と義務勤務の条件から、制度区分(A1, A2, B1, B2)に分類した。
- 政令指定都市の有無を基準に、中大都市圏域と小都市圏域(都市区分)に分類した。

制度区分

本調査では、①奨学金の有無、②選抜時期、③義務履行年数設定の有無により制度区分を設けた。

A: 奨学金を支給する制度
A1: 別枠で入学選抜を実施し、卒業後一定の年数の義務履行を課すもの
A2: 入学後選抜し、卒業後一定の年数の義務履行を課すもの
B: 奨学金を支給しない制度
B1: 別枠で入学選抜し、卒業後、一定の年数の義務履行を課すもの
B2: 別枠で入学選抜せず、卒業後義務履行年数が明示されていないもの

都市分類(都道府県分類)

- 都道府県の分類で、中大都市群と小都市群を、50万人以上の人口を有する政令指定都市の有無で区分した。
- 全国医学部長病院長会議で実施している他の調査との整合性を図るため、現状とは異なる都市分類で区分している。

中大都市圏域
(政令指定都市のある都道府県)
(北海道は札幌市のみ)

小都市圏域
(上記以外の県)

中大都市: 16都道府県(44校)
小都市: 31県(33校)

私立 3校
公立 3校
国立 15校
公立 5校
私立 24校

小都市 33校
中大都市 44校

「令和6年度 地域枠入学制度と地域医療支援センターの実情に関する調査報告(令和7年3月)一般社団法人全国医学部長病院長会議」より作成

Q1. 地域枠制度はありますか?

導入大学数と制度の種類

| 回答校(校) | 全国 | 国立 | 公立 | 私立 | 中大都市 | 小都市 |
|-------------------|----|----|----|----|------|-----|
| 1 制度あり | 69 | 37 | 8 | 24 | 36 | 33 |
| 2 奨学金を支給する地域枠 | 67 | 36 | 8 | 23 | 35 | 32 |
| 3 奨学金を支給しない地域枠 | 21 | 10 | 0 | 5 | 6 | 15 |
| 4 奨学金を支給する編入学地域枠 | 2 | 2 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| 5 奨学金を支給しない編入学地域枠 | 4 | 4 | 0 | 0 | 0 | 4 |
| 6 制度なし | 8 | 5 | 0 | 3 | 8 | 0 |

● 奨学金あり(地域) ● 奨学金なし(地域) ● 奨学金あり(編入) ● 奨学金なし(編入)

- 産業医科大学、防衛医科大学、自治医科大学、新設大学を除いた77大学中、69大学(89.6%)で地域枠が導入されていた。
- 制度を有する69大学のうち、奨学金を支給する地域枠を設定している大学は67大学(97.1%)であった。
- 奨学金を支給する制度(A区分)、支給しない制度(B区分)ともに、小都市群の大学の割合が高かった。

「令和6年度 地域枠入学制度と地域医療支援センターの実情に関する調査報告(令和7年3月)一般社団法人全国医学部長病院長会議」より作成

制度区分別の制度数と定員

| 制度区分 | 制度数 | 定員数 | 国立 | 公立 | 私立 | 中大都市 | 小都市 |
|------|-----|-------|------|-----|-----|------|-----|
| A1区分 | 152 | 1,172 | 71 | 729 | 143 | 12 | 115 |
| A2区分 | 7 | 81 | 116 | 4 | 60 | 15 | 0 |
| B1区分 | 28 | 377 | 13.5 | 15 | 157 | 16.5 | 6 |
| B2区分 | 6 | 76 | 12.7 | 3 | 31 | 19.3 | 2 |
| 計 | 193 | 1,706 | 8.8 | 93 | 977 | 18.3 | 20 |

● A1区分 ● A2区分 ● B1区分 ● B2区分 ● 制度なし

令和6年度の全国の地域枠制度数は193制度で、定員は1,706人
A区分: 1,253人
B区分: 453人であった。
区分別の定員は、A1区分が最も多く、次にB1、A2、B2の順であった。

新たに整理された地域枠等による制度数と定員

| 制度区分 | 制度数 | 定員数 | 国立 | 公立 | 私立 | 中大都市 | 小都市 |
|------|-----|-------|------|----|-----|------|-----|
| A1区分 | 154 | 1,253 | 8.1 | 19 | 201 | 10.6 | 116 |
| A2区分 | 7 | 81 | 116 | 4 | 60 | 15 | 0 |
| B1区分 | 11 | 106 | 9.6 | 10 | 96 | 5.6 | 1 |
| B2区分 | 28 | 347 | 12.4 | 27 | 334 | 12.4 | 1 |
| 計 | 193 | 1,706 | 8.8 | 58 | 631 | 11.3 | 118 |

● A1区分 ● A2区分 ● B1区分 ● B2区分 ● 制度なし

「令和6年度 地域枠入学制度と地域医療支援センターの実情に関する調査報告(令和7年3月)一般社団法人全国医学部長病院長会議」より作成

制度の区分と概要(1)

奨学金支給制度

A1: 入学前 159 (1,253人)
A2: 入学後 7 (81人)

義務履行年数

3年以内 1 (1)
4~6年以内 12 (12)
7~9年以内 188 (138)
10~14年以内 11 (11)

出身地指定

指定なし 72 (55編入生)
指定あり 1 (1)

奨学金種類

一括支給 29
3~10年未満 2
11~15年未満 2
16~20年未満 5
21~25年未満 6
26~30年未満 1

義務履行先病院

指定された大学病院およびその関連病院
大学を含む事(都道府県等)が指定した公的病院
大学を除く事(都道府県等)が指定した公的病院
指定地域の病院でどれにいても可
義務年数のうち、特定地域もしくは医師不足地域の病院・診療所での勤務義務
その他

制度の区分と概要(2)

B: 支給なし 34 (453人)
A1: 入学前 34 (453人)
A2: 入学後 7 (81人)

義務履行年数

3年以内 6 (6)
4~6年以内 12 (12)
7~9年以内 8 (8)
10~14年以内 0 (0)

出身地指定

指定なし 6 (6)
指定あり 22 (264人)

奨学金種類

一括支給 15
3~10年未満 2
11~15年未満 2
16~20年未満 5
21~25年未満 6
26~30年未満 1

義務履行先病院

指定された大学病院およびその関連病院
大学を含む事(都道府県等)が指定した公的病院
大学を除く事(都道府県等)が指定した公的病院
指定地域の病院でどれにいても可
義務年数のうち、特定地域もしくは医師不足地域の病院・診療所での勤務義務
その他

義務履行年数(A区分、奨学金支給あり)

| | 全地域枠 | 国立 | 公立 | 私立 | 中大都市 | 小都市 | A1 | A2 |
|---------|------|----|----|----|------|-----|-----|----|
| 制度数 | 159 | 75 | 12 | 72 | 94 | 75 | 152 | 7 |
| 2年 (制度) | 1 | 1 | | | | | | 1 |
| 3年 | | | | | | | | |
| 4年 | | | | | | | | |
| 5年 | 1 | | | 1 | | 1 | 1 | |
| 6年 | 3 | 2 | | 1 | 1 | 2 | 2 | 1 |
| 7年 | | | | | | | | |
| 8年 | | | | | | | | |
| 9年 | 143 | 65 | 12 | 66 | 8 | 63 | 138 | 5 |
| 10年 | 5 | 2 | | 3 | 3 | 2 | 5 | |
| 11年 | 5 | 4 | | 1 | | 5 | 5 | |
| 12年 | 1 | 1 | | | | 1 | 1 | |

義務履行年数(B1区分、奨学金支給なし)

| | 全地域枠 | 国立 | 公立 | 私立 | 中大都市 | 小都市 | B1 |
|---------|------|----|----|----|------|-----|----|
| 制度数 | 26 | 13 | 6 | 7 | 10 | 16 | 26 |
| 2年 (制度) | 1 | 1 | | | | | 1 |
| 3年 | 5 | 4 | 1 | | | | 5 |
| 4年 | | | | | | | |
| 5年 | 4 | 2 | | 2 | 1 | 3 | 4 |
| 6年 | 8 | 3 | | 5 | 5 | 3 | 8 |
| 7年 | 2 | | 2 | | 2 | | 2 |
| 8年 | | | | | | | |
| 9年 | 6 | 3 | 3 | | 2 | 4 | 6 |

・A区分(奨学金あり)の義務履行年数の多くが9年であった。
 ・B1区分(奨学金なし)の義務履行年数は、2~9年ではらつきがあった。

※同一大学の制度区分B1の制度で、義務履行年数が定められていない制度を除外して集計した。

「令和6年度 地域枠入学制度と地域医療支援センターの実情に関する調査報告書(令和7年3月)一般社団法人全国医学部長会議員会」より作成

義務履行先病院

■ A区分、奨学金支給あり (複数回答あり)

| | 全地域枠 | 国立 | 公立 | 私立 | 中大都市 | 小都市 | A1 | A2 |
|--------|------|----|----|----|------|-----|-----|----|
| 制度数 | 159 | 75 | 12 | 72 | 94 | 75 | 152 | 7 |
| 1 (制度) | 19 | 2 | 7 | 9 | 10 | 14 | 5 | |
| 2 | 123 | 63 | 10 | 50 | 60 | 63 | 121 | 2 |
| 3 | 16 | 4 | 1 | 11 | 12 | 4 | 16 | |
| 4 | 4 | | 1 | 3 | 4 | 4 | 4 | |
| 5 | 5 | 5 | 10 | 7 | 9 | 6 | 16 | |
| 6 | 12 | 5 | 7 | 7 | 8 | 4 | 11 | 1 |

■ B1区分、奨学金支給なし (複数回答あり)

| | 全地域枠 | 国立 | 公立 | 私立 | 中大都市 | 小都市 | B1 |
|--------|------|----|----|----|------|-----|----|
| 制度数 | 26 | 13 | 6 | 7 | 10 | 16 | 26 |
| 1 (制度) | 21 | 9 | 5 | 7 | 10 | 11 | 21 |
| 2 | 3 | 3 | | | | 3 | 3 |
| 3 | | | | | | | |
| 4 | 3 | 3 | | | 2 | 3 | 3 |
| 5 | 2 | | 2 | | 2 | 2 | 2 |
| 6 | 1 | 1 | | | 1 | 1 | 1 |

義務履行先病院

- 指定された大学病院およびその関連病院
- 大学を含む知事(都道府県等)が指定した公的病院
- 大学を除く知事(都道府県等)が指定した公的病院
- 指定地域の病院であればどこでも可
- 義務年数のうち、特定地域もしくは医師不足地域の病院・診療所の就労義務を7年超

・A区分では、制度の多くが都道府県が指定する公的病院(特に2. 大学を含む知事(都道府県等)が指定した公的病院)となっていた。
 ・A区分では、約80%で医師不足地域(5. 義務年数のうち、特定地域もしくは医師不足地域の病院・診療所の就労義務)が設定されていた。
 ・B1区分では、「1. 指定された大学病院およびその関連病院」が多く、大学病院での初期・後期研修を義務付ける制度が多かった。

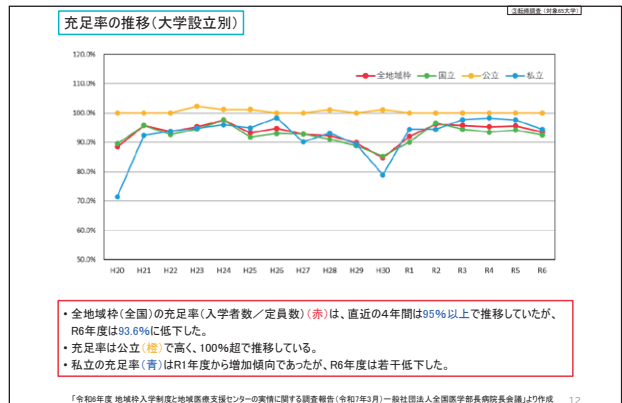
「令和6年度 地域枠入学制度と地域医療支援センターの実情に関する調査報告書(令和7年3月)一般社団法人全国医学部長会議員会」より作成

定員数・入学数・充足率の推移(設立別)

| 年度 | 全地域枠 | | | 国立 | | | 公立 | | | 私立 | | |
|-------------|--------|--------|-------|--------|--------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|
| | 定員数 | 入学数 | 充足率 | 定員数 | 入学数 | 充足率 | 定員数 | 入学数 | 充足率 | 定員数 | 入学数 | 充足率 |
| H20年度(2008) | 278 | 246 | 88.5% | 210 | 188 | 89.5% | 33 | 33 | 100.0% | 35 | 25 | 71.4% |
| H21年度(2009) | 515 | 493 | 95.7% | 399 | 382 | 95.7% | 50 | 50 | 100.0% | 66 | 61 | 92.4% |
| H22年度(2010) | 878 | 822 | 93.6% | 618 | 573 | 92.7% | 82 | 82 | 100.0% | 178 | 167 | 93.8% |
| H23年度(2011) | 959 | 914 | 95.3% | 659 | 623 | 94.5% | 87 | 89 | 102.3% | 213 | 202 | 94.8% |
| H24年度(2012) | 991 | 967 | 97.6% | 679 | 663 | 97.6% | 87 | 88 | 101.1% | 225 | 216 | 96.0% |
| H25年度(2013) | 1,056 | 885 | 83.3% | 731 | 674 | 91.8% | 87 | 88 | 101.1% | 235 | 223 | 94.9% |
| H26年度(2014) | 1,072 | 1,018 | 94.8% | 748 | 696 | 93.0% | 87 | 87 | 100.0% | 237 | 233 | 98.3% |
| H27年度(2015) | 1,149 | 1,066 | 92.8% | 784 | 728 | 92.9% | 90 | 90 | 100.0% | 275 | 248 | 90.2% |
| H28年度(2016) | 1,157 | 1,068 | 92.3% | 787 | 716 | 91.0% | 90 | 91 | 101.1% | 280 | 261 | 93.2% |
| H29年度(2017) | 1,191 | 1,070 | 89.8% | 790 | 702 | 88.9% | 90 | 90 | 100.0% | 311 | 278 | 89.4% |
| H30年度(2018) | 1,205 | 1,021 | 84.7% | 788 | 672 | 85.3% | 90 | 91 | 101.1% | 327 | 258 | 78.9% |
| R 1年度(2019) | 1,207 | 1,111 | 92.0% | 778 | 701 | 90.1% | 90 | 90 | 100.0% | 339 | 320 | 94.4% |
| R 2年度(2020) | 1,253 | 1,206 | 96.2% | 823 | 795 | 96.6% | 90 | 90 | 100.0% | 340 | 321 | 94.4% |
| R 3年度(2021) | 1,266 | 1,214 | 95.7% | 829 | 782 | 94.4% | 90 | 90 | 100.0% | 350 | 342 | 97.7% |
| R 4年度(2022) | 1,342 | 1,279 | 95.3% | 863 | 807 | 93.5% | 90 | 90 | 100.0% | 389 | 382 | 98.2% |
| R 5年度(2023) | 1,406 | 1,344 | 95.6% | 898 | 846 | 94.2% | 90 | 90 | 100.0% | 418 | 408 | 97.6% |
| R 6年度(2024) | 1,444 | 1,351 | 93.6% | 925 | 856 | 92.5% | 90 | 90 | 100.0% | 429 | 405 | 94.4% |
| 合 計 | 18,371 | 17,173 | 93.5% | 13,311 | 11,804 | 88.7% | 1,413 | 1,419 | 100.6% | 1,647 | 1,350 | 82.0% |

・充足率はR6年度までの合計で93.5%と高く、高い方から公立(100.4%)、私立(93.6%)、国立(92.6%)の順となっている。

「令和6年度 地域枠入学制度と地域医療支援センターの実情に関する調査報告書(令和7年3月)一般社団法人全国医学部長会議員会」より作成



定員数・入学数・充足率の推移(都市別)

| 年度 | 中大都市 | | | 小都市 | | |
|-------------|-------|-------|-------|--------|--------|-------|
| | 定員数 | 入学数 | 充足率 | 定員数 | 入学数 | 充足率 |
| H20年度(2008) | 28 | 21 | 75.0% | 250 | 225 | 90.0% |
| H21年度(2009) | 99 | 85 | 85.9% | 416 | 408 | 98.1% |
| H22年度(2010) | 250 | 227 | 90.8% | 628 | 595 | 94.7% |
| H23年度(2011) | 295 | 267 | 90.5% | 664 | 647 | 97.4% |
| H24年度(2012) | 315 | 301 | 95.6% | 676 | 666 | 98.5% |
| H25年度(2013) | 338 | 294 | 87.0% | 718 | 691 | 96.2% |
| H26年度(2014) | 336 | 302 | 89.9% | 736 | 714 | 97.0% |
| H27年度(2015) | 378 | 333 | 88.1% | 771 | 733 | 95.1% |
| H28年度(2016) | 383 | 342 | 89.3% | 774 | 726 | 93.8% |
| H29年度(2017) | 414 | 343 | 82.9% | 777 | 727 | 93.6% |
| H30年度(2018) | 429 | 316 | 73.7% | 776 | 705 | 90.9% |
| R 1年度(2019) | 434 | 375 | 86.4% | 773 | 736 | 95.2% |
| R 2年度(2020) | 427 | 406 | 95.1% | 826 | 800 | 96.9% |
| R 3年度(2021) | 439 | 424 | 96.6% | 829 | 790 | 95.3% |
| R 4年度(2022) | 483 | 469 | 97.1% | 859 | 810 | 94.3% |
| R 5年度(2023) | 525 | 508 | 96.8% | 881 | 836 | 94.9% |
| R 6年度(2024) | 531 | 498 | 93.8% | 913 | 853 | 93.4% |
| 合 計 | 6,104 | 5,611 | 90.3% | 12,267 | 11,662 | 95.1% |

・合計では中大都市の大学の充足率(90.3%)に比べて、小都市の大学で充足率(95.1%)が高い傾向にあるが、近年はむしろ中大都市で高い傾向にある。

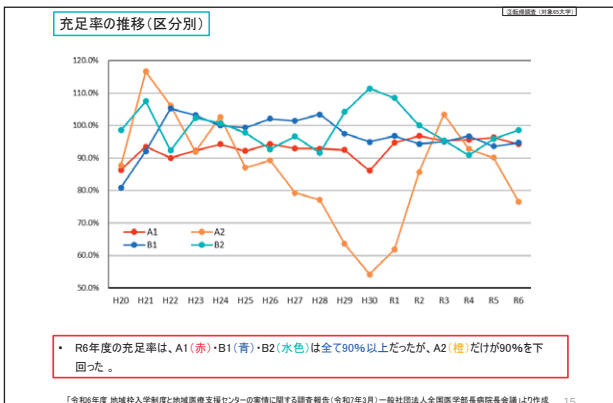
「令和6年度 地域枠入学制度と地域医療支援センターの実情に関する調査報告書(令和7年3月)一般社団法人全国医学部長会議員会」より作成

定員数・入学数・充足率の推移(区分別)

| 年度 | A1区分 | | | A2区分 | | | B1区分 | | | B2区分 | | |
|-------------|--------|--------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|--------|-------|-------|--------|
| | 定員数 | 入学数 | 充足率 | 定員数 | 入学数 | 充足率 | 定員数 | 入学数 | 充足率 | 定員数 | 入学数 | 充足率 |
| H20年度(2008) | 88 | 76 | 86.4% | 57 | 50 | 87.7% | 63 | 51 | 81.0% | 70 | 69 | 98.6% |
| H21年度(2009) | 246 | 232 | 94.3% | 78 | 70 | 89.7% | 76 | 70 | 92.1% | 82 | 100 | 121.5% |
| H22年度(2010) | 462 | 416 | 90.0% | 130 | 138 | 106.2% | 151 | 159 | 105.3% | 118 | 109 | 92.4% |
| H23年度(2011) | 505 | 466 | 92.3% | 174 | 160 | 92.0% | 154 | 159 | 103.2% | 126 | 129 | 102.4% |
| H24年度(2012) | 521 | 491 | 94.2% | 185 | 190 | 102.7% | 154 | 154 | 100.0% | 131 | 132 | 100.8% |
| H25年度(2013) | 578 | 533 | 92.2% | 170 | 148 | 87.1% | 174 | 172 | 99.4% | 134 | 131 | 97.8% |
| H26年度(2014) | 600 | 566 | 94.3% | 159 | 142 | 89.3% | 180 | 193 | 107.2% | 124 | 115 | 92.7% |
| H27年度(2015) | 654 | 608 | 93.0% | 174 | 138 | 79.3% | 202 | 205 | 101.5% | 119 | 115 | 96.6% |
| H28年度(2016) | 665 | 618 | 92.9% | 171 | 132 | 77.2% | 202 | 209 | 103.5% | 119 | 109 | 91.6% |
| H29年度(2017) | 678 | 627 | 92.5% | 192 | 122 | 63.5% | 202 | 197 | 97.5% | 119 | 124 | 104.2% |
| H30年度(2018) | 698 | 601 | 86.1% | 190 | 103 | 54.2% | 221 | 210 | 95.0% | 96 | 107 | 111.5% |
| R 1年度(2019) | 721 | 683 | 94.7% | 157 | 97 | 61.8% | 223 | 216 | 96.9% | 106 | 115 | 108.5% |
| R 2年度(2020) | 895 | 865 | 96.9% | 42 | 36 | 85.7% | 230 | 217 | 94.3% | 88 | 88 | 100.0% |
| R 3年度(2021) | 919 | 877 | 95.4% | 57 | 59 | 103.5% | 204 | 194 | 95.1% | 88 | 84 | 95.5% |
| R 4年度(2022) | 984 | 941 | 95.6% | 84 | 78 | 92.9% | 186 | 180 | 96.8% | 88 | 80 | 90.9% |
| R 5年度(2023) | 1,063 | 1,024 | 96.3% | 81 | 73 | 90.1% | 189 | 177 | 93.7% | 73 | 70 | 95.9% |
| R 6年度(2024) | 1,097 | 1,034 | 94.3% | 81 | 62 | 76.5% | 190 | 180 | 94.7% | 76 | 75 | 98.7% |
| 合 計 | 11,371 | 10,658 | 93.7% | 2,182 | 1,819 | 83.4% | 3,010 | 2,944 | 97.8% | 1,768 | 1,732 | 98.1% |

・近年、全ての区分で充足率が90%以上で推移していたが、R6年度はA2区分の充足率が減少した。

「令和6年度 地域枠入学制度と地域医療支援センターの実情に関する調査報告書(令和7年3月)一般社団法人全国医学部長会議員会」より作成



地域枠制度の新規導入、継続に関する大学の意向調査

■ 地域枠制度の有無

| | 全国 | 国立 | 公立 | 私立 | 中大都市 | 小都市 |
|-----------|----|----|----|----|------|-----|
| 回答数(件) | 77 | 42 | 8 | 27 | 44 | 33 |
| 1. あり (件) | 49 | 27 | 8 | 24 | 36 | 33 |
| 2. ない | 8 | 5 | 0 | 3 | 8 | 0 |

■ 「ない」大学における今後の制度導入について

| | 全国 | 国立 | 公立 | 私立 | 中大都市 | 小都市 |
|----------------|----|----|----|----|------|-----|
| 回答数(件) | 8 | 5 | 0 | 3 | 8 | 0 |
| 1. 今後導入しない (件) | 5 | 4 | 0 | 1 | 5 | 0 |
| 2. 今後導入予定 | 1 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 |
| 3. 今後導入検討 | 2 | 1 | 0 | 1 | 2 | 0 |

■ 「ある」大学における今後の制度継続について

| | 奨学金支給枠 | 奨学金なし枠 | 奨学金なし枠(編入) | 奨学金なし枠(編入) | | |
|----------------|--------|--------|------------|------------|---|-------|
| 回答数(件) | 66 | 24 | 3 | 4 | | |
| 1. 枠内拡大が必要 (件) | 2 | 3.0% | 1 | 4.2% | 0 | 0.0% |
| 2. このまま継続したい | 55 | 83.3% | 21 | 87.5% | 1 | 33.3% |
| 3. 枠外拡大が必要 | 2 | 3.0% | 1 | 4.2% | 0 | 0.0% |
| 4. 廃止したい | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| 5. どちらにも同意しない | 7 | 10.6% | 1 | 4.2% | 2 | 66.7% |

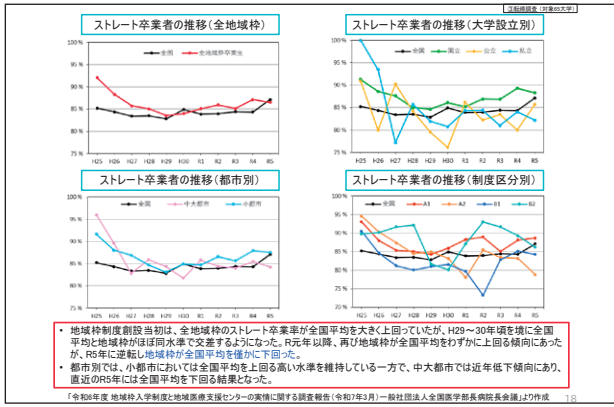
・回答した77大学のうち、地域枠制度を導入していない大学は8大学(10.4%)であった。
 ・地域枠を導入していない8大学のうち、5大学が「今後導入しない」との回答であった。
 ・既に導入している大学は、奨学金支給の有無にかかわらず、多くの大学(83.3%)が「このまま継続させたい」という回答であった。

「令和6年度 地域枠入学制度と地域医療支援センターの実情に関する調査報告書(令和7年3月)一般社団法人全国医学部長会議員会」より作成

ストレート卒業者の推移

(※1)ストレート卒業生(卒業生-留学者-休学者)/入学者数(編入学含む)
(※2)全地域域の割合は、全卒業生が国試を受験したと仮定して算出した。

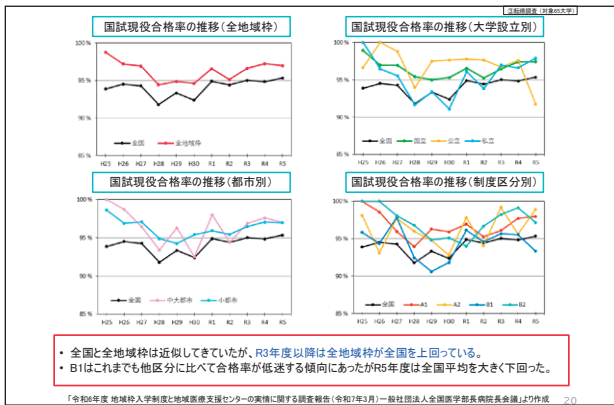
| 年度 | 全国 | 地域別 | | | | | | | | | |
|----------------|-------|------|------|------|-------|------|------|------|------|------|------|
| | | 全地域域 | 国立 | 公立 | 私立 | 中大都市 | 小都市 | A1 | A2 | B1 | B2 |
| H25年度入学者数 | 7,740 | 263 | 296 | 33 | 26 | 25 | 240 | 87 | 56 | 53 | 69 |
| H25年度ストレート卒業生数 | 6,298 | 244 | 186 | 30 | 26 | 24 | 220 | 81 | 52 | 48 | 62 |
| ストレート卒業率(%) | 81.5 | 92.1 | 91.3 | 90.9 | 100.0 | 96.0 | 91.7 | 93.1 | 94.6 | 90.6 | 89.8 |
| H24年度入学者数 | 8,437 | 447 | 390 | 30 | 64 | 97 | 439 | 233 | 91 | 78 | 102 |
| H24年度ストレート卒業生数 | 7,119 | 347 | 280 | 40 | 27 | 78 | 365 | 205 | 81 | 66 | 92 |
| ストレート卒業率(%) | 84.4 | 88.2 | 88.6 | 80.0 | 93.4 | 89.7 | 88.1 | 89.0 | 90.3 | 84.6 | 89.2 |



現役合格者の推移

(※1)現役合格者数(合格者/卒業者数(編入学))
(※2)全地域域の割合は、全卒業生が国試を受験したと仮定して算出した。

| 年度 | 全国 | 地域別 | | | | | | | | | |
|----------------|-------|------|------|-------|-------|------|------|------|------|------|-------|
| | | 全地域域 | 国立 | 公立 | 私立 | 中大都市 | 小都市 | A1 | A2 | B1 | B2 |
| H25年度現役合格者数 | 2,749 | 241 | 188 | 30 | 26 | 24 | 220 | 81 | 53 | 48 | 62 |
| H25年度現役合格者率(%) | 35.3 | 91.8 | 89.8 | 89.7 | 100.0 | 96.0 | 91.7 | 93.1 | 94.6 | 90.6 | 89.8 |
| H24年度現役合格者数 | 3,250 | 466 | 366 | 43 | 57 | 79 | 387 | 211 | 87 | 71 | 97 |
| H24年度現役合格者率(%) | 38.5 | 97.2 | 97.0 | 100.0 | 96.5 | 98.7 | 96.8 | 98.6 | 93.1 | 94.4 | 100.0 |



医師国家試験合格以降の状況

| | 全地域域 | 国立 | 公立 | 私立 | 中大都市 | 小都市 | A1 | A2 | B1 |
|---------------|-------|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 国試合格者数(人) | 7,950 | 5,479 | 613 | 1,858 | 2,567 | 5,383 | 4,955 | 1,315 | 1,680 |
| 義務履行者数 | 6,081 | 4,288 | 472 | 1,324 | 1,888 | 4,193 | 4,061 | 849 | 1,171 |
| 5ヵ所研修者数 | 4,319 | 3,012 | 301 | 926 | 1,313 | 2,976 | 2,830 | 671 | 918 |
| 5ヵ所院外研修者数 | 11 | 8 | 2 | 1 | 4 | 7 | 9 | 2 | 0 |
| 5ヵ所初期研修者数 | 1,690 | 1,204 | 89 | 397 | 541 | 1,149 | 1,161 | 176 | 353 |
| 中断者数 | 588 | 412 | 22 | 154 | 177 | 411 | 345 | 123 | 120 |
| 義務履行終了者数 | 659 | 456 | 40 | 163 | 259 | 400 | 249 | 183 | 227 |
| 義務履行期間外初期研修者数 | 130 | 12 | 0 | 88 | 136 | 47 | 49 | 42 | 42 |
| 離職者数 | 399 | 252 | 21 | 126 | 126 | 273 | 243 | 107 | 149 |
| 調査打ち切り者数 | 90 | 62 | 25 | 3 | 31 | 59 | 11 | 11 | 71 |
| 義務履行率(%) | 84.8 | 86.5 | 83.5 | 80.0 | 83.6 | 85.3 | 87.0 | 78.5 | 83.2 |

R6年度調査時点(令和6年5月末)では、編入学卒業生や留年生等を除く、H20年度～H30年度(11年間)の学生が卒業した段階である。

11年間の義務履行者数(義務履行中の者と義務終了者の合計)の累計では、卒前離脱者を除く医師国家試験合格者7,950人のうち、義務履行中の者(義務と見なされる初期研修中の者を含む)は6,081人であった。

R6年度調査時点(令和6年5月末)における11年間の義務履行率(医師国家試験合格者に対する義務履行者・義務終了者の割合)は84.8%であった。

私立大学(80.0%)とA2区分(78.5%)で低い傾向にあった。

義務履行先病院(初期研修後)

| | 全地域域 | 国立 | 公立 | 私立 | | | | |
|----------------|-------|------|-------|------|-----|------|-----|------|
| 1. 県内大学 | 1,663 | 38.5 | 754 | 30.6 | 121 | 37.6 | 349 | 47.7 |
| 2. 県内大学以外の中核病院 | 2,084 | 48.1 | 1,321 | 53.6 | 164 | 50.9 | 321 | 43.9 |
| 3. 県内中小医療機関 | 448 | 10.4 | 317 | 12.9 | 34 | 10.6 | 44 | 6.0 |
| 4. 県外医療機関 | 106 | 2.5 | 61 | 2.5 | 3 | 0.9 | 14 | 1.9 |
| 5. その他 | 17 | 0.4 | 13 | 0.5 | 0 | 0.0 | 4 | 0.5 |
| 合計 | 4,318 | | 2,466 | | 322 | | 732 | |

地域域出身医師が、初期研修後に令和6年6月時点で勤務している病院について調査した。

勤務先としては、多い方から大学以外の県内中核病院(48.3%)、県内大学(38.5%)、県内中小医療機関(10.4%)、県外医療機関(2.4%)の順で、昨年年度に比べ上位2位の差が縮小した。

国立・公立大学では大学以外の県内中核病院が多く、私立大学では県内大学が多かった。

A1区分では大学以外の県内中核病院(56.0%)が多く、B1区分では県内大学(50.4%)が多かった。

医師国家試験合格以降の状況(義務履行先の地理区分)

| | 全地域域 | 国立 | 公立 | 私立 | | | | |
|---------------|-------|------|-------|------|-----|------|-----|------|
| 回答数 | 4,319 | (%) | 3,012 | (%) | 381 | (%) | 926 | (%) |
| 1. 過疎地等医師不足地域 | 1,444 | 33.4 | 1,015 | 33.7 | 76 | 19.9 | 353 | 38.1 |
| 2. 医師不足でない地域 | 2,875 | 66.6 | 1,997 | 66.3 | 305 | 80.1 | 573 | 61.9 |

| | 中大都市 | 小都市 | A1 | A2 | B1 | | | | | |
|---------------|-------|------|-------|------|-------|------|-----|------|-----|------|
| 回答数 | 1,343 | (%) | 2,976 | (%) | 2,830 | (%) | 671 | (%) | 818 | (%) |
| 1. 過疎地等医師不足地域 | 604 | 45.0 | 840 | 28.2 | 1,093 | 38.6 | 227 | 33.8 | 124 | 15.2 |
| 2. 医師不足でない地域 | 739 | 55.0 | 2,136 | 71.8 | 1,737 | 61.4 | 444 | 66.2 | 694 | 84.8 |

医師不足でない地域での勤務が66.6%を占め、医師不足地域での勤務が33.4%と少なかったが、R5年度調査と比較すると医師不足地域での勤務が若干増加していた(31.4%→33.4%)。

医師不足地域での勤務割合は、大学設立別ではA1(38.6%)、A2(33.9%)、B1(15.2%)の順であり、R5年度調査と比較すると上位2区分が逆転した。

義務履行中断者の推移

| 年度 | 国試合格者数 | 中断者数 | 割合(%) | 国立 | 公立 | 私立 | 中大都市 | 小都市 | A1 | A2 | B1 |
|-------|--------|------|-------|-----|----|-----|------|-----|-----|-----|-----|
| H25年度 | 177 | 11 | 6.2 | 8 | 1 | 2 | 1 | 10 | 4 | 5 | 2 |
| H26年度 | 349 | 33 | 9.5 | 29 | 2 | 3 | 2 | 31 | 20 | 4 | 9 |
| H27年度 | 617 | 63 | 10.2 | 48 | 2 | 13 | 13 | 50 | 34 | 15 | 14 |
| H28年度 | 704 | 91 | 12.9 | 64 | 5 | 22 | 24 | 67 | 55 | 18 | 18 |
| H29年度 | 798 | 83 | 10.4 | 60 | 2 | 21 | 34 | 69 | 69 | 21 | 13 |
| H30年度 | 819 | 89 | 10.9 | 62 | 2 | 25 | 32 | 67 | 43 | 28 | 18 |
| R1年度 | 892 | 82 | 9.2 | 56 | 3 | 23 | 23 | 69 | 69 | 32 | 18 |
| R2年度 | 886 | 64 | 7.2 | 46 | 2 | 16 | 23 | 41 | 44 | 9 | 11 |
| R3年度 | 920 | 61 | 6.6 | 42 | 3 | 16 | 23 | 38 | 40 | 10 | 11 |
| R4年度 | 931 | 9 | 0.9 | 6 | 0 | 2 | 6 | 2 | 1 | 0 | 1 |
| R5年度 | 882 | 3 | 0.3 | 2 | 0 | 1 | 0 | 2 | 2 | 0 | 1 |
| 計 | 4,950 | 588 | 11.9 | 410 | 22 | 184 | 177 | 411 | 345 | 123 | 120 |

義務履行中断者の理由

| | 全地域域 | 国立 | 公立 | 私立 | 中大都市 | 小都市 | A1 | A2 | B1 |
|--------------|------|-----|----|-----|------|-----|-----|-----|-----|
| 1. 専門研修 | 228 | 157 | 11 | 60 | 66 | 160 | 136 | 71 | 1 |
| 2. 大学院入学 | 23 | 21 | 1 | 12 | 17 | 16 | 23 | 2 | 8 |
| 3. 健康上の理由 | 14 | 13 | 1 | 1 | 6 | 8 | 11 | 3 | |
| 4. 県外への居住地変更 | 36 | 34 | 2 | 5 | 31 | 8 | 9 | 1 | 27 |
| 5. その他個人的理由 | 118 | 82 | 4 | 32 | 31 | 87 | 83 | 21 | 14 |
| 6. その他 | 159 | 105 | 6 | 48 | 50 | 109 | 64 | 25 | 78 |
| 計 | 688 | 412 | 22 | 184 | 177 | 411 | 345 | 123 | 120 |

R5年度までの医師国家試験合格者総数7,950人のうち、義務履行中断者数は588人(7.4%)であった。

義務履行中断者数は、初期研修後に増加する傾向にあった。

中断理由としては、専門研修228人(38.8%)、不明159人(27.0%)、その他個人的理由118人(20.0%)、県外への居住地変更36人(6.1%)、大学院入学33人(5.6%)の順であった。

離脱者数と離脱率の推移(大学設立別)

※ 辞退率＝辞退者／入学者

| 入学年度 | 全地域枠 | | 国立 | | 公立 | | 私立 | |
|-------|--------|---------|-------|---------|-----|---------|-------|---------|
| | 入学者 | 離脱者 (%) | 入学者 | 離脱者 (%) | 入学者 | 離脱率 (%) | 入学者 | 離脱率 (%) |
| H20年度 | 196 | 26 | 138 | 20 | 53 | 9 | 25 | 9 |
| H21年度 | 404 | 81 | 311 | 61 | 35 | 14 | 58 | 15 |
| H22年度 | 719 | 93 | 499 | 62 | 62 | 3 | 158 | 28 |
| H23年度 | 790 | 97 | 538 | 55 | 64 | 8 | 188 | 34 |
| H24年度 | 823 | 61 | 555 | 41 | 63 | 1 | 205 | 19 |
| H25年度 | 852 | 71 | 585 | 34 | 63 | 4 | 204 | 23 |
| H26年度 | 902 | 48 | 619 | 24 | 62 | 0 | 221 | 10 |
| H27年度 | 944 | 41 | 647 | 24 | 65 | 1 | 232 | 16 |
| H28年度 | 954 | 29 | 636 | 10 | 66 | 0 | 252 | 19 |
| H29年度 | 938 | 16 | 615 | 5 | 65 | 0 | 258 | 11 |
| H30年度 | 916 | 12 | 602 | 2 | 66 | 0 | 248 | 10 |
| R1年度 | 1,011 | 4 | 646 | 2 | 55 | 0 | 310 | 2 |
| R2年度 | 1,125 | 0 | 759 | 0 | 55 | 0 | 311 | 0 |
| R3年度 | 1,126 | 0 | 739 | 0 | 55 | 0 | 332 | 0 |
| R4年度 | 1,199 | 0 | 772 | 0 | 55 | 0 | 372 | 0 |
| R5年度 | 1,274 | 0 | 821 | 0 | 55 | 0 | 398 | 0 |
| 計 | 14,173 | 579 | 9,482 | 340 | 919 | 25 | 3,772 | 214 |

・離脱判定については、A区分では「奨学金を返還した時」とし、B1区分では「指定の病院等に勤務しないか県外転出などで、所定の義務を履行しないことが明らかになった時」とした。
 ・離脱率は、年度別入学者数に対する離脱者の割合とした。
 ・R5年度までの入学者14,173人のうち、579人(4.1%)が離脱していた。
 ・離脱率は、高い方から私立214人(5.7%)、国立340人(3.8%)、公立25名(2.7%)の順であった。

『令和6年度 地域枠入学制度と地域医療支援センターの実情に関する調査報告書(令和7年3月)』一般社団法人全国医学部長病院長会議より作成

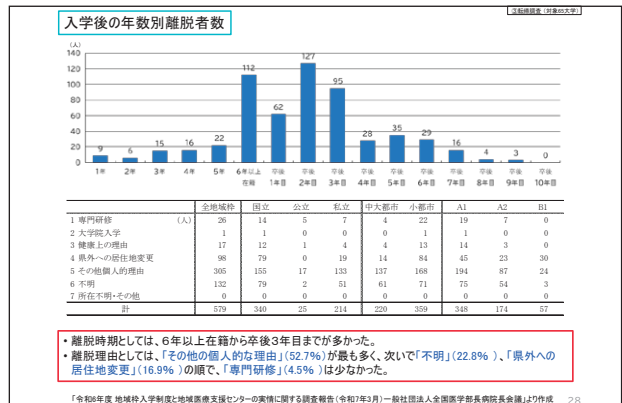
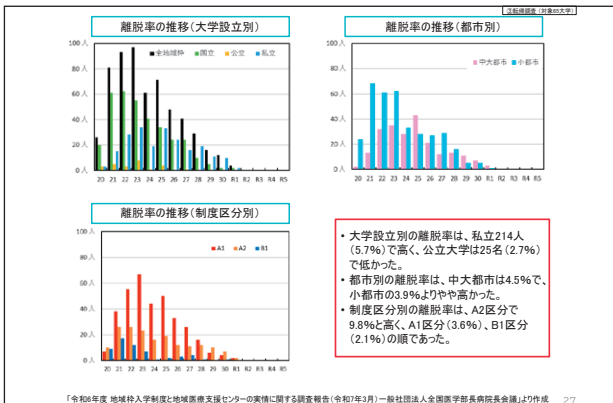
離脱者数と離脱率の推移(制度区分別)

※ 辞退率＝辞退者／入学者

| 入学年度 | 全地域枠 | | A1 | | A2 | | B1 | |
|-------|--------|---------|-------|---------|-------|---------|-------|---------|
| | 入学者 | 離脱者 (%) | 入学者 | 離脱率 (%) | 入学者 | 離脱率 (%) | 入学者 | 離脱率 (%) |
| H20年度 | 196 | 26 | 97 | 7 | 56 | 10 | 53 | 9 |
| H21年度 | 404 | 81 | 233 | 35 | 93 | 26 | 78 | 17 |
| H22年度 | 719 | 93 | 416 | 55 | 143 | 26 | 160 | 12 |
| H23年度 | 790 | 97 | 468 | 67 | 161 | 23 | 161 | 7 |
| H24年度 | 823 | 61 | 484 | 4 | 186 | 16 | 153 | 1 |
| H25年度 | 852 | 71 | 535 | 50 | 143 | 19 | 174 | 2 |
| H26年度 | 902 | 48 | 564 | 33 | 146 | 12 | 192 | 3 |
| H27年度 | 944 | 41 | 607 | 26 | 131 | 11 | 206 | 4 |
| H28年度 | 954 | 29 | 617 | 16 | 132 | 12 | 204 | 1 |
| H29年度 | 938 | 16 | 624 | 6 | 119 | 10 | 195 | 0 |
| H30年度 | 916 | 12 | 602 | 4 | 104 | 7 | 210 | 1 |
| R1年度 | 1,011 | 4 | 680 | 2 | 116 | 2 | 215 | 0 |
| R2年度 | 1,125 | 0 | 870 | 0 | 36 | 0 | 219 | 0 |
| R3年度 | 1,126 | 0 | 877 | 0 | 59 | 0 | 190 | 0 |
| R4年度 | 1,199 | 0 | 941 | 0 | 78 | 0 | 190 | 0 |
| R5年度 | 1,274 | 0 | 1,024 | 0 | 73 | 0 | 177 | 0 |
| 計 | 14,173 | 579 | 9,629 | 345 | 1,777 | 174 | 2,767 | 57 |

・制度区分別の離脱率は、高い方からA2(174人、9.8%)、A1(348人、3.6%)、B1(57人、2.1%)の順であった。

『令和6年度 地域枠入学制度と地域医療支援センターの実情に関する調査報告書(令和7年3月)』一般社団法人全国医学部長病院長会議より作成



地域枠入学者の出身地(県内・外)と離脱率

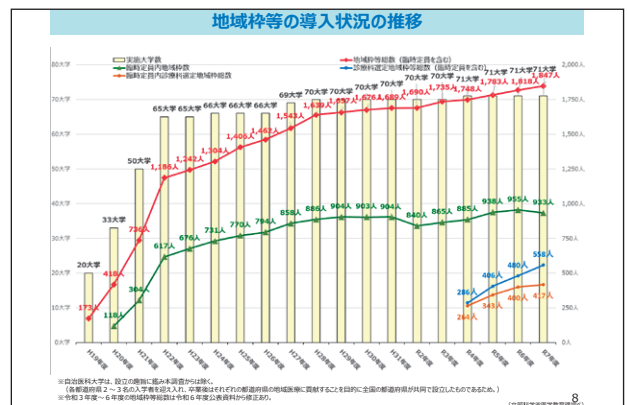
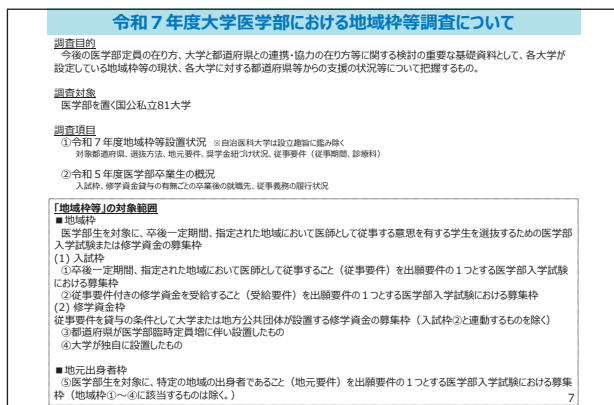
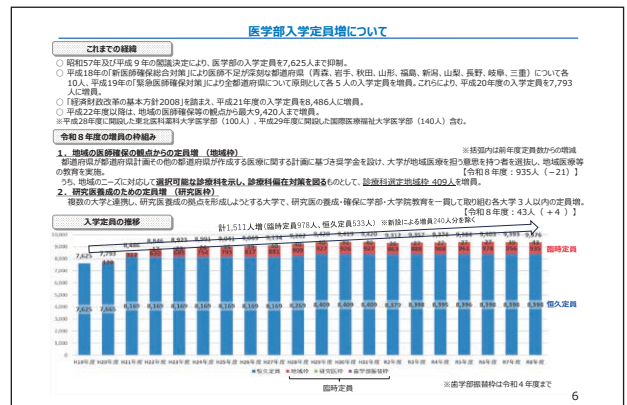
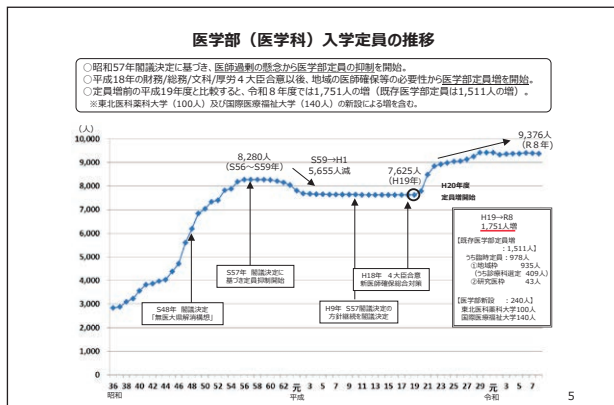
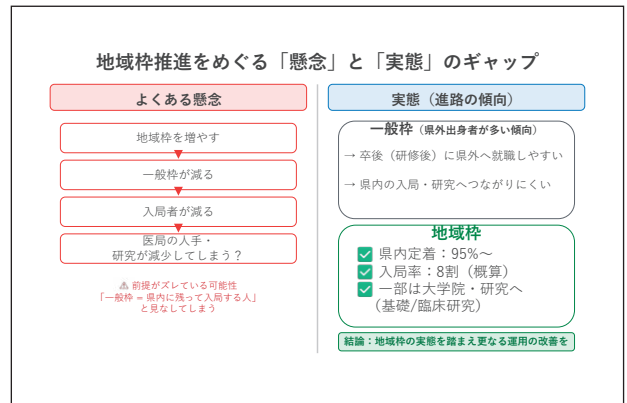
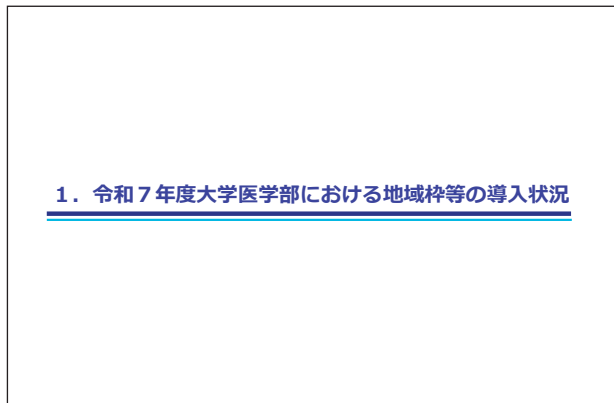
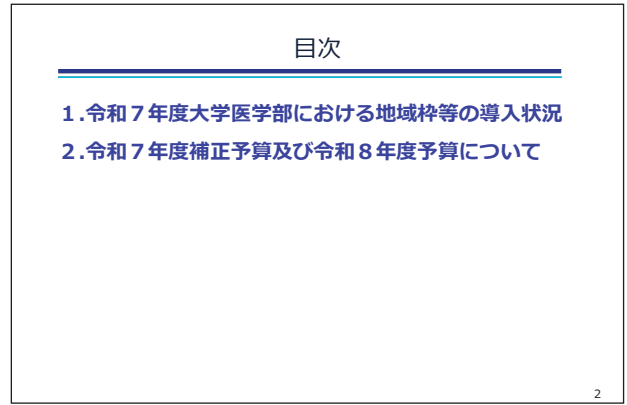
| 全地域枠 | 入学者 | 出身地 | | | | 離脱 | | | | |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|------|
| | | 県内 (人) | 県外 (人) | 県内 (%) | 県外 (%) | 全体 (人) | 県内 (人) | 県外 (人) | 全体 (%) | |
| H20年度 | 196 | 159 | 37 | 81.1 | 37 | 18.9 | 26 | 13.3 | 4 | 10.8 |
| H21年度 | 404 | 303 | 101 | 75.0 | 101 | 25.0 | 81 | 20.0 | 48 | 15.6 |
| H22年度 | 719 | 518 | 201 | 72.0 | 201 | 28.0 | 93 | 12.9 | 48 | 9.3 |
| H23年度 | 790 | 569 | 221 | 72.0 | 221 | 28.0 | 97 | 12.3 | 53 | 9.3 |
| H24年度 | 823 | 588 | 235 | 71.4 | 235 | 28.6 | 61 | 7.4 | 29 | 4.9 |
| H25年度 | 852 | 607 | 245 | 71.2 | 245 | 28.8 | 71 | 8.3 | 31 | 5.1 |
| H26年度 | 902 | 655 | 247 | 72.6 | 247 | 27.4 | 48 | 5.3 | 25 | 3.8 |
| H27年度 | 944 | 698 | 246 | 73.9 | 246 | 26.0 | 41 | 4.3 | 20 | 2.9 |
| H28年度 | 954 | 708 | 246 | 74.2 | 246 | 25.8 | 29 | 3.0 | 15 | 2.1 |
| H29年度 | 938 | 683 | 255 | 72.8 | 255 | 27.2 | 16 | 1.7 | 6 | 0.9 |
| H30年度 | 916 | 711 | 205 | 77.6 | 205 | 22.4 | 12 | 1.3 | 4 | 0.6 |
| R1年度 | 1,011 | 784 | 227 | 77.5 | 227 | 22.5 | 4 | 0.4 | 4 | 0.5 |
| R2年度 | 1,125 | 885 | 240 | 78.7 | 240 | 21.3 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| R3年度 | 1,126 | 856 | 270 | 76.0 | 270 | 24.0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| R4年度 | 1,199 | 899 | 300 | 75.0 | 300 | 25.0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| R5年度 | 1,274 | 969 | 305 | 75.3 | 305 | 24.0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 全期間 | 14,173 | 10,578 | 3,595 | 74.7 | 3,595 | 25.3 | 579 | 4.1 | 305 | 2.9 |

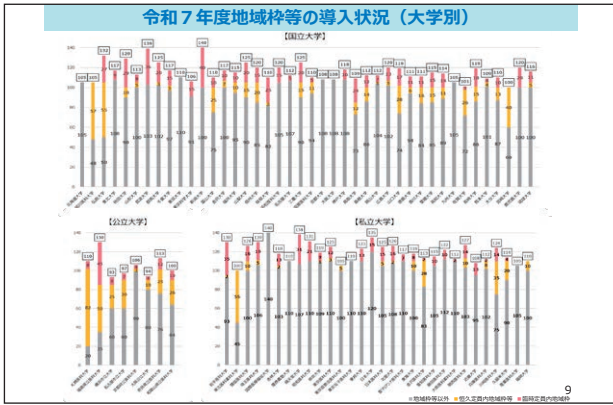
・地域枠入学者の出身地別割合は、県内が74.6%で県外が25.4%であった。
 ・地域枠入学者の離脱は、県内出身者が2.9%であったのに対し、県外出身者は7.6%が高かった。

『令和6年度 地域枠入学制度と地域医療支援センターの実情に関する調査報告書(令和7年3月)』一般社団法人全国医学部長病院長会議より作成

まとめ

- 基準日を令和6年5月末時点として全国の地域枠制度の実態調査を行った。
- 産業医科大学、防衛医科大学、自治医科大学、新設2大学を除いた77大学中、69大学(89.6%)で地域枠が導入されていた。
- 令和6年度の全国の地域枠制度数は193制度で、入学定員は1,706人(A区分:1,253人、B区分:453人)であった。
- 全地域枠(全国)の充足率(入学者数/定員数)は、直近の4年間は95%以上で推移していたが、R6年度は93.6%に減少した。
- 既に地域枠入学制度を導入している多くの大学(66大学中57大学、86.4%)で地域枠制度の拡大が現状維持の意向であった。
- ストート卒業率は、R元以降、全地域枠が全国平均をわずかに上回る傾向にあったが、R5年に逆転し地域枠が全国平均を僅かに下回った。
- 医師国家試験の現役合格率は、全地域枠が全国平均をやや上回って推移している。
- 11年間(平成20～30年度入学者)の義務履行率(医師国家試験合格者に対する義務履行者・義務終了者の割合)は84.8%であった。
- 初期研修後の勤務先は、大学以外の県内中核病院(48.3%)、県内大学(38.5%)が多かった。
- 勤務先の地理的区分では、医師不足でない地域での勤務が66.9%で、医師不足地域での勤務が33.4%であった。
- 平成20年度～令和4年度までの地域枠入学者14,173人中、579人(4.1%)が離脱していた。
- 離脱時期としては、6年以上在籍から卒業3年目までが多かった。
- 離脱理由としては、「その他の個人的な理由」「不明」「県外への居住地変更」が多かった。
- 地域枠入学者の離脱は、県内出身者が2.9%であったのに対し、県外出身者は7.6%と高率であった。

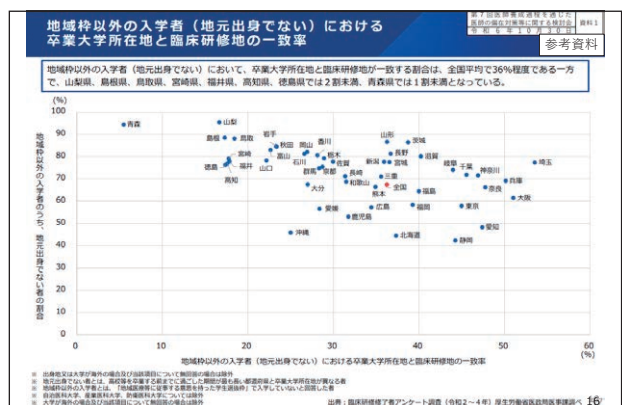
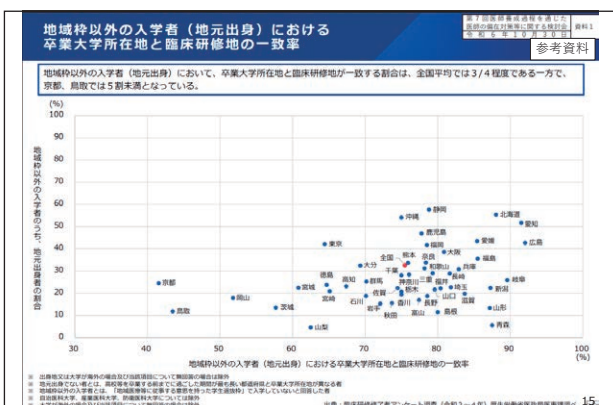
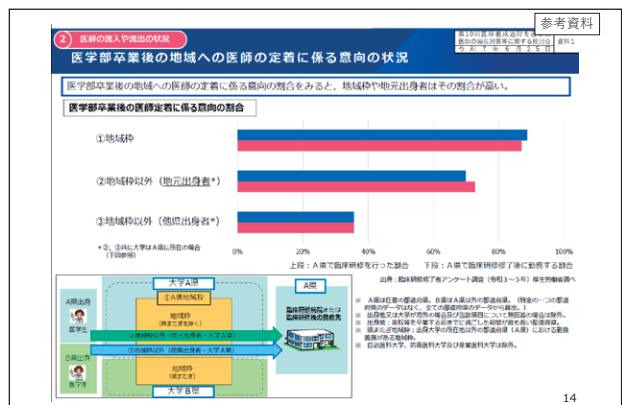
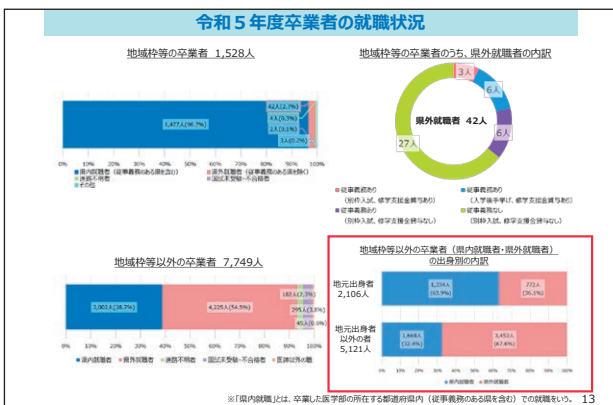
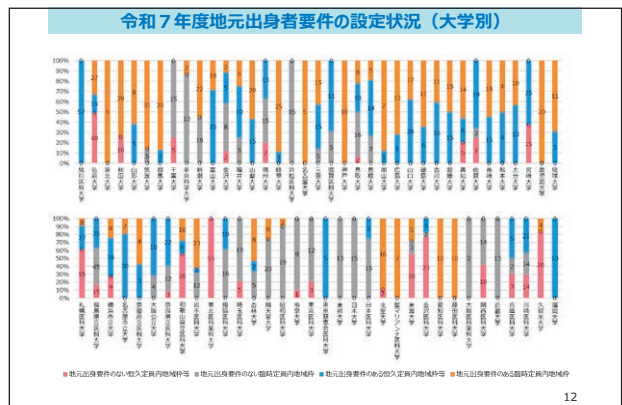
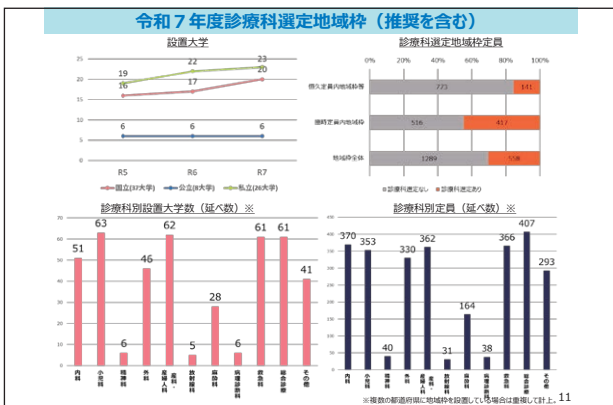


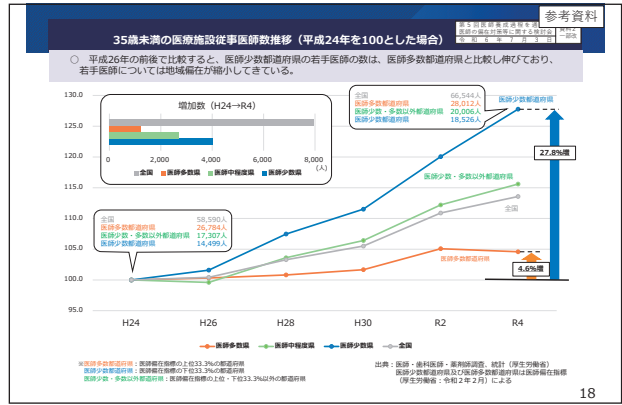


令和7年度地域枠等の入学状況（大学別）

| 大学区分 | 大学名 | 令和7年度地域枠等入学人数 | 令和7年度地域枠等入学人数(前年比) | 令和7年度地域枠等入学人数(前年比) | 令和7年度地域枠等入学人数(前年比) | 大学区分 | 大学名 | 令和7年度地域枠等入学人数 | 令和7年度地域枠等入学人数(前年比) | 令和7年度地域枠等入学人数(前年比) | 令和7年度地域枠等入学人数(前年比) |
|------|--------|---------------|--------------------|--------------------|--------------------|----------|----------|---------------|--------------------|--------------------|--------------------|
| 国立 | 北海道大学 | 205 | 9 | 12 | 15 | 私立 | 私立共立女子大学 | 111 | 17 | 11 | 11 |
| | 東北大学 | 202 | 17 | 12 | 15 | | 私立共立女子大学 | 112 | 16 | 12 | 14 |
| | 東京大学 | 117 | 6 | 12 | 15 | | 私立共立女子大学 | 112 | 16 | 12 | 14 |
| | 筑波大学 | 117 | 9 | 12 | 15 | | 私立共立女子大学 | 112 | 16 | 12 | 14 |
| | 大阪大学 | 112 | 13 | 12 | 15 | | 私立共立女子大学 | 112 | 16 | 12 | 14 |
| | 京都大学 | 112 | 13 | 12 | 15 | | 私立共立女子大学 | 112 | 16 | 12 | 14 |
| | 神戸大学 | 112 | 13 | 12 | 15 | | 私立共立女子大学 | 112 | 16 | 12 | 14 |
| | 名古屋大学 | 112 | 13 | 12 | 15 | | 私立共立女子大学 | 112 | 16 | 12 | 14 |
| | 岡山大学 | 112 | 13 | 12 | 15 | | 私立共立女子大学 | 112 | 16 | 12 | 14 |
| | 広島大学 | 112 | 13 | 12 | 15 | | 私立共立女子大学 | 112 | 16 | 12 | 14 |
| 公立 | 札幌医科大学 | 112 | 13 | 12 | 15 | 私立共立女子大学 | 112 | 16 | 12 | 14 | |
| | 新潟医科大学 | 112 | 13 | 12 | 15 | 私立共立女子大学 | 112 | 16 | 12 | 14 | |
| | 富山医科大学 | 112 | 13 | 12 | 15 | 私立共立女子大学 | 112 | 16 | 12 | 14 | |
| | 岐阜医科大学 | 112 | 13 | 12 | 15 | 私立共立女子大学 | 112 | 16 | 12 | 14 | |
| | 愛知医科大学 | 112 | 13 | 12 | 15 | 私立共立女子大学 | 112 | 16 | 12 | 14 | |
| | 徳島医科大学 | 112 | 13 | 12 | 15 | 私立共立女子大学 | 112 | 16 | 12 | 14 | |
| | 香川医科大学 | 112 | 13 | 12 | 15 | 私立共立女子大学 | 112 | 16 | 12 | 14 | |
| | 高松医科大学 | 112 | 13 | 12 | 15 | 私立共立女子大学 | 112 | 16 | 12 | 14 | |
| | 松山医科大学 | 112 | 13 | 12 | 15 | 私立共立女子大学 | 112 | 16 | 12 | 14 | |
| | 高知医科大学 | 112 | 13 | 12 | 15 | 私立共立女子大学 | 112 | 16 | 12 | 14 | |

10





研究医枠について

・昭和57年及び平成9年の閣議決定に基づき、医師過剰の懸念から医学部定員を抑制。
・平成22年度より、「経済財政改革の基本方針2009」を踏まえ、地域枠、研究医枠、臨床研修医枠により臨時的な定員増を開始。
・研究医枠は、他大学・通称「基礎医学及び社会医学に関する臨床と基礎を有する初、キャリア支援や海外研修の機会を提供しなかな。Physician Scientist を含む基礎医学中核に社会医学の発展を有する優れた研究医を養成する拠点として大学に期待がもたれている。

当院定員入試制度に前住する必要はないが、設置大学は研究医の養成拠点として、複数の大学と連携の上、研究医養成のための充実した教育体制を整備することが求められる。

必要要件

- 研究医養成拠点として十分な実績を有していること
- 複数の大学の連携により研究医養成拠点を形成すること
- 学部・大学院で一貫した特別な教育コースを設けること
- 研究医定員のための奨学金を設けること
- 研究医としてのキャリア支援を行うこと
- 海外研修の機会が提供されること

任務要件（要件として課することが望ましいもの）

- 産出の論文が研究医の育成に寄与していること
- 学生が研究活動の推進のための予備講座を行うこと
- 学会論文発表の機会を確保すること
- 臨床研修により研究活動が中断されないこと
- 研究医としてのキャリア支援を行うこと
- 海外研修の機会が提供されること

研究医枠設置の推移

令和8年度研究医枠設置大学

大学別研究医枠における任務要件の満足状況

19

令和9年度の医学部臨時定員の暫定的な維持について

令和7年12月4日に発出している「令和9年度の医学部臨時定員の暫定的な維持について（通知）」において、令和9年度の医学部臨時定員の設置方針についてお知らせしていますので、改めてご確認のほどよろしくお願い致します。

令和9年度の医学部臨時定員の暫定的な維持について（別紙・抜粋）

(3) 令和9年度の医学部入学生定員の臨時的な増員に当たっては、各都道府県は、**継続的に定員入内への地域枠や地元出身者枠の設置について大学との連携を行った上で、臨時定員の必要性を慎重に検討すること。前年度を上回る地域枠枠を設ける場合は、地元出身者への地域枠や地元出身者枠の設置を行うことを基本とし、各都道府県の臨時定員地域枠数は原則として令和8年度の数を越えないよう維持すること。** 各都道府県は、地域に定着する医師を確保するための取組の状況等を踏まえつつ、都道府県ごとの医師の流出入、地域枠医師以外を含む都道府県内への定着の意向の状況等を考慮した上で、確保すべき医師数（例えば、臨床研修や臨床研修終了後の時点で確保すべき人数）を検討し、真に必要な地域枠数を検討すること。

文部科学省及び厚生労働省は、臨時定員全体の必要性に加えて、**当該都道府県の医師確保計画の進捗状況や地域枠医師の配属・運用状況、医師養成進捗における研修医確保の体制、医学部定員の人員状況等を慎重かつ丁寧に検証し、地域の医師確保・診療機能維持等に資する上で、真に必要な範囲で臨時定員の設置を認めることとする。** したがって、すべての地域枠において、特定の診療科での定員増を認めるものではない。また、研究医養成のための入学生定員についても、**研究医の養成に資する範囲で臨時定員の増員を認めることとする。**

このため、必要に応じて、医学部入学生定員の臨時的な増員を希望する都道府県・大学に対し、臨時定員の必要性等について有識者も含めた検討の場等でヒアリング等を実施することとする。

20

令和5年度以降の地域枠等の定義について

地域枠の選抜方法については、これまでの通知等を踏まえ、各大学において適切に運用いただくようお願いいたします。特に、臨時定員の欠員をその他の定員に振り替えることのないよう、入学選抜の実施等に当たり、必要な対応をお願いいたします。

○ 「令和5年度以降の地域枠等の定義について（抜粋）」（令和4年4月18日）（抄）

「医療従事者の需給に関する検討会（医師部給分科）における議論を踏まえ、令和5年度以降の「地域枠」、「地元出身者枠」、「大学独自枠」の定義を以下のとおり整理することとする。なお、今後の臨時定員（地域枠）の増員にあたっては、以下で示す「地域枠」の定義を満たしていることを認認することとする。

- 地域枠の定義
- 選抜方法：**閉鎖方式**
- 協賛の場：当該都道府県協議会が協議の上、設定すること。
- 設定する上で協議する事項：地域医療対策協議会において、地域枠の設定数、従事要件・キャリア形成プログラムの内容、奨学金の額、地域定着費（前住程度、セミナー開催等）並びに前定を進めるための都道府県から大学の経済的支援（奨励要件を協議すること）
- 前住取得方法：**閉鎖型で、協賛府県と本人と併願者もしくは法定代理人が従事要件・離脱要件に書面同意している。**
- 従事要件：
 - 卒業後より当該都道府県内で9年間以上従事すること
 - 将来のキャリア形成に関する意識の向上に資する都道府県のキャリア形成プログラムに参加すること。

○ 「地域の医師確保等の観点からの令和8年度医学部入学生定員の増加について（通知）」（令和7年8月5日）（抄）

2. 大学、都道府県が講ずる措置

(1) 大学が講ずる措置

- （1）の入学生定員増について、**大学は、地域枠の医師確保に資するという地域枠の設置にかんがみ、増員分についてその他の定員と区別して確保する方式（閉鎖方式）により学生を選抜すること。**（※）**定員増員分に見合う数の地域枠の学生の確保ができていない場合にも、確保できなかった地域枠の定員人員を地域枠以外の定員人員に振り替えることのないよう、必要事項の作成、入学選抜の実施等に当たり、必要な対応を行うこと。**

21

地域枠入学者への説明等に関する留意事項について

以下事務連絡の内容等を踏まえて、**学生・保護者等から従事要件・離脱要件への書面同意を取得する等、引き続き適切にご対応いただきますよう、よろしくお願いいたします。**

事務連絡
令和5年10月30日

各国私立大学医学部（局） 御中
文部科学省高等教育局医学科
厚生労働省医政局医事課

地域枠入学者への説明等に関する留意事項について

地域枠入学者への説明等に関する留意事項について大学医学部入学生における地域枠について、都道府県及び大学は、地域枠入学者に対して丁寧な説明を行い、地域枠入学者が、その趣旨をより理解し、地域医療に貢献する意思と能力を有することが重要である。しかし、地域枠入学者によっては、何らかの理由で地域枠従事要件からの脱落（以下「地域枠離脱」という。）を希望することもあり、その際は、**当該地域枠入学者と都道府県及び大学とで十分に相談すること**が重要である。今回、地域枠入学者への説明等について、下記のとおり留意事項をお示しするので、都道府県及び大学は、必要に応じて相互に連携し、適切に対応されたい。

- 地域枠について、都道府県及び大学は、引き続き**従事要件及び離脱要件を入学者の募集要項、入学手続書等に明示するとともに、本人と保護者にわかりやすく開示し確保すること**（※）。
- 都道府県及び大学は、**入学時に地域枠入学者や保護者に対して従事要件を明示していたかどうか確認し、明示していなかった場合はその旨を明示していただくこと**とする。
- 従事要件を明示していない時期に地域枠入学者から地域枠離脱の希望があった際には、以下の点に留意して対応すること。
 - 入学時に明示している内容を踏まえ、個別の影響を慎重に検討し、当該地域枠入学者については、例えば、成績評価等の公平な従事要件の取組の運用中、地域枠の履修に限り、地域で活躍できる方を検討・相談すること。**
 - その上でなお、従事要件を満たすことが困難であり、**やむを得ず地域枠離脱となる場合には、入学時に従事要件が明示されていなかった事情を重視し、地域枠離脱に対して不問と判断すること**とし、**これは慎重に検討すること**とする。

22

2. 令和7年度補正予算及び令和8年度予算について

令和7年度補正予算について

大学病院機能強化推進事業 (経営環境の改善に資する教育研究基盤の充実)

令和7年度補正予算 349億円

現状課題

- 大学病院は平均年齢が上昇し、専任職員が減少傾向にある。令和6年度においては、国公私立大学病院で過去最大となる専任職員の減少(2%)、専任職員1人あたりの業務負担増が顕著にみられる。
- 大学病院の存在が社会的に弱体化し、大学病院が担うべき地域医療の役割、高度医療・研究基盤の充実が求められる。高度医療・研究基盤の充実が求められる。高度医療・研究基盤の充実が求められる。

事業内容

- 増収減損の削減と経費削減、大学病院改革プランに基づき、病院施設の構造転換(※)を図る大学病院に対し、診療報酬では確保されない教育・研究の質を高めるために必要となる経費の一部を支援し、大学病院の機能強化を行う。
- 高度医療・研究基盤の充実
 - 高度医療・研究基盤の充実(高度医療・研究基盤の充実)
 - 高度医療・研究基盤の充実(高度医療・研究基盤の充実)

【事業イメージ】

図説：高等教育用医学教育 25

大学病院の経営基盤強化

大学病院は物価や人件費等の高騰を受けて、令和6年度大学病院全体では500億円超の赤字となる等、極めて厳しい状況

大学病院の特別な機能

- 高度医療・研究基盤の充実(1.6~1.9)
- 高度医療・研究基盤の充実(高度医療・研究基盤の充実)

大学病院が目指すべき姿

- ～少子高齢化社会の地域医療を支え、人材と技術の両輪となる～
- 1. 安定した経営基盤(赤字)を克服し、教育・研究を推進
- 2. 志と能力のある人材を育成・研究・教育を推進
- 3. 人材と医療技術の核として、地域医療を維持・向上に貢献

＜地域医療の拠点としての大学病院＞

＜課題＞

- 増収減損(経費)削減による先遣派遣、研究基地
- 高度医療・研究基盤の充実(高度医療・研究基盤の充実)
- 高度医療・研究基盤の充実(高度医療・研究基盤の充実)

＜対応の方向性＞

- 高度医療・研究基盤の充実(高度医療・研究基盤の充実)
- 高度医療・研究基盤の充実(高度医療・研究基盤の充実)

図説：高等教育用医学教育 26

厚生労働省と文部科学省との連携による地域医療提供体制の維持・強化

都道府県知事

① 地域の実情に応じた医療機関の役割分担の明確化と、連携・再編・集約化を推進する
② 特に、大学病院が自らの役割(高度医療・人的協力等)を適宜かつ公正に果たす

大学病院 ↔ 公立・公的医療機関等 ↔ 民間医療機関等 ↔ 診療所

協議の場(プラットフォーム)等を活用した文部科学省・厚生労働省による支援、助言等の働きかけにより、都道府県をサポート

文部科学省 厚生労働省

図説：高等教育用医学教育 27

大学病院の役割・機能を踏まえた地域との連携強化(イメージ)

＜地域医療の課題＞

- 2040年頃までの高齢者人口の増加と人口減少により、高齢者の医療ニーズが急増する。
- 高度医療・研究基盤の充実(高度医療・研究基盤の充実)

＜地域における大学病院の役割の強化＞

- 高度医療・研究基盤の充実(高度医療・研究基盤の充実)
- 高度医療・研究基盤の充実(高度医療・研究基盤の充実)

具体的な協議事項(例)

- 高度医療・研究基盤の充実(高度医療・研究基盤の充実)
- 高度医療・研究基盤の充実(高度医療・研究基盤の充実)

図説：高等教育用医学教育 28

大学病院の機能に応じた支援と地方公共団体との連携(イメージ)

大学病院の機能(教育、研究、診療、地域貢献)を前提に、各大学がその組織体制等を踏まえて重点化する機能に応じた国からの支援と、地方公共団体が大学と共同で構築する連携のプラットフォームの方向性は以下の通り。

科学技術振興機構、都道府県、市町村、医師会、A大学病院、B大学病院

高度医療の広域的な提供、地域医療への貢献(人的協力等)

高度医療・研究基盤の充実(高度医療・研究基盤の充実)

図説：高等教育用医学教育 29

令和8年度当初予算について

令和8年度当初予算について

図説：高等教育用医学教育 30

高度医療人材養成拠点形成事業

令和8年度予算(案) 21億円(前年度予算) 21億円

背景・課題

- 高度医療人材の不足が深刻化している。令和8年度当初予算(案)21億円(前年度予算)21億円
- 高度医療人材の不足が深刻化している。令和8年度当初予算(案)21億円(前年度予算)21億円

事業内容

- 支援対象：医学部・大学院(国公私立大学)
- 支援区分：(1)コア型(高度医療・研究基盤)研究基盤人材養成拠点(10F)、(2)コア型(高度医療・研究基盤)研究基盤人材養成拠点(30F)
- 支援内容：大学病院を活用した実践的な教育に資する、T.A. R.A. S.A. 支援費、教育支援費、研究支援費の経費
- 事業期間：令和6年度～令和11年度(6年間)

期待される効果

- 高度医療人材の養成・育成
- 高度医療・研究基盤の充実

図説：高等教育用医学教育 31

ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業

令和8年度予算(案) 6億円(前年度予算) 5億円

背景・課題

- ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業
- ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業

事業内容

- 支援対象：医学部・大学院(国公私立大学)
- 支援区分：(1)コア型(高度医療・研究基盤)研究基盤人材養成拠点(10F)、(2)コア型(高度医療・研究基盤)研究基盤人材養成拠点(30F)
- 支援内容：大学病院を活用した実践的な教育に資する、T.A. R.A. S.A. 支援費、教育支援費、研究支援費の経費
- 事業期間：令和6年度～令和11年度(6年間)

期待される効果

- 高度医療人材の養成・育成
- 高度医療・研究基盤の充実

図説：高等教育用医学教育 32

資料3

資料3
厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

令和8(2026)年3月5日
AJMC「地域枠制度」についての意見交換会

地域枠制度等に関する期待と取組

地域枠に関する現状と、医師確保計画策定ガイドラインの取組について

厚生労働省 医政局医事課
医師養成等企画調整室長 和泉 誠人
Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

医師確保対策に関する取組 (全体像)

医師養成過程における取組

- 【大学(医学部)】
 - 中長期的な観点から、医師の需要・供給推計に基づき、**全医の医師養成数を検討**
 - **地域枠** (特定の地域や診療科で診療を行うことを条件とした学修制)の取組数における活用方針を検討
- 【臨床研修】
 - 全医の研修希望者に対する**募集定員の確保を確保**するとともに、都道府県別に、**臨床研修医の募集定員上乗せ**を設定
 - その他、都市部や複数医学部を有する地域について、上乗せ数を把握するとともに、医師少数地域に配慮した**定員設定**を行う、**地域枠を重点**
- 【専門研修】
 - 日本専任医機構において、研修の必要医師数の推計を踏まえた**都道府県別、診療科別の専攻医の採用上乗せ(シーリング)を設定**することで、**地域、診療科を重点**
 - (産科等の特に確保が必要な診療科や、地域枠医師等についてはシーリング対応)

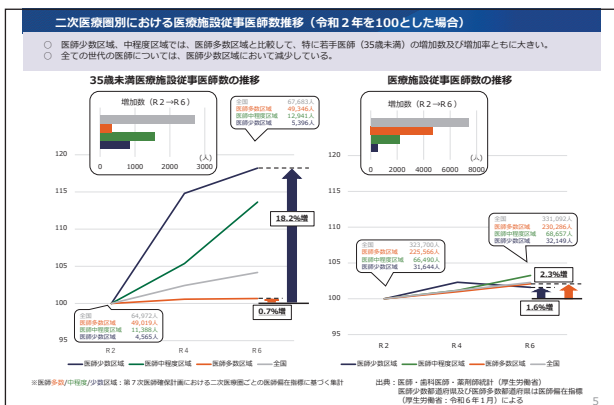
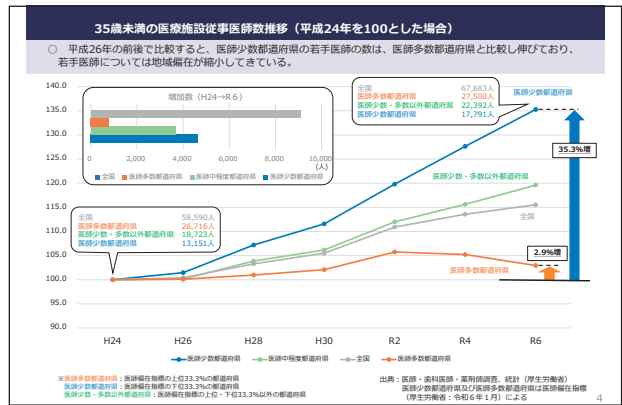
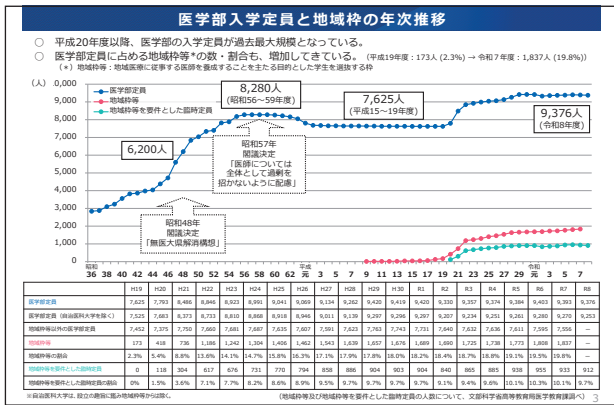
各都道府県の取組

- 【医師確保計画】
 - 医師確保指針により医師確保の状況を把握
 - 計画期間の終了時点で確保すべき目標医師数を設定
 - **具体的な取組**
 - **大学と連携した地域枠の設定**
 - **地域医療連携協議会・地域医療支援センター**
 - 地域医療連携協議会は、**医師確保対策の方針** (医師養成、医師の確保等)について協議
 - 地域医療支援センターは、**地域医療連携協議会の協議に基づき、医師確保対策の取組** (医師派遣、派遣される医師のキャリア支援、負担軽減、勤務環境改善センターの設置等)を実施
 - **キャリア形成プログラム (地域枠医課程)**
 - 医師不足地域の**医師確保**と「**派遣される医師の能力向上**」の両方を目的としたプログラム
 - **認定医師制度の活用**
 - 医師少数地域等に一定期間勤務した医師を厚労大臣が定める制度を活用し、**医師不足地域の医師を確保**

医師の働き方改革

地域の医療を支えている勤務医が、安心して働き続けられる環境を整備することが重要であることから、都道府県ごとに設置された**医師確保環境改善支援センター**等による医療機関への支援を通じて、適切な労務管理や労働時間短縮などの医師の働き方改革を推進。具体的には、

- 医療機関における**医師労働時間短縮計画**の作成や**追加的確保措置**等を通じて、**労働時間短縮及び健康確保**を行う
- **出産・育児・介護などのライフイベント**を経験する医師が、**仕事と両立**を両立できるような勤務環境の改善を推進



キャリア形成プログラムについて

都道府県は、地域医療連携協議会において協議が調った事項に基づき、「**医師不足地域における医師の確保**」と「**医師不足地域に派遣される医師の育成**」向いの機会を確保し、**キャリア形成プログラムを実施**することとしている。

キャリア形成プログラムは、地域医療連携協議会において協議が調った事項に基づき、医師不足地域における医師の確保と、医師不足地域に派遣される医師の育成を目的として実施される。キャリア形成プログラムは、医師不足地域に派遣される医師の育成を目的として実施される。キャリア形成プログラムは、医師不足地域に派遣される医師の育成を目的として実施される。

キャリア形成プログラムの対象者

- 地域枠卒業した医師
- 地域で従事する医師 (出身地を問わず、医師免許取得後、地域で従事している医師)
- 地域で従事する医師 (出身地を問わず、医師免許取得後、地域で従事している医師)
- 地域で従事する医師 (出身地を問わず、医師免許取得後、地域で従事している医師)

キャリア形成プログラムの実施方法

- 地域医療連携協議会において協議が調った事項に基づき、医師不足地域における医師の確保と、医師不足地域に派遣される医師の育成を目的として実施される。
- 地域医療連携協議会において協議が調った事項に基づき、医師不足地域における医師の確保と、医師不足地域に派遣される医師の育成を目的として実施される。
- 地域医療連携協議会において協議が調った事項に基づき、医師不足地域における医師の確保と、医師不足地域に派遣される医師の育成を目的として実施される。

地域枠の離脱等に関する対応

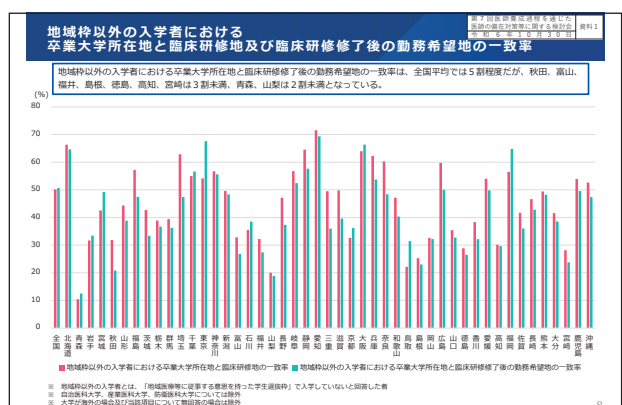
地域枠入学者によっては、何らかの理由で従事要件からの離脱を希望することがあるため、都道府県及び大学における必要の対応に資する観点や、地域枠制度の趣旨を踏まえた適切な運用の確保のため、以下のような取組を実施。

都道府県及び大学における必要の対応

- 都道府県及び大学が、地域枠入学者に対して丁寧な説明を行い、地域枠入学者がやりがいをもち、望まれる地域・業務等に定着することができるよう取組む。地域枠入学者は、その旨をよく理解し、地域・業務に貢献する覚悟と責任感が重要であることから、**地域枠入学者への説明等に関する留意事項**を示した。(令和5年事務連絡)

地域枠制度を適切に運用するための対応

- 地域枠に十分に確認すること、**県や大学が地域枠離脱を望まないと評価しない研修希望者を採用決定した臨床研修病院**に対して、臨床研修部会でヒアリングを行った上で、規定(原則)医師臨床研修費補助金の減額等を実施。(令和元年度より開始した。)
- 補助金の減額等に加え、募集定員の減額 (又は臨床研修病院の指定の取消)についても、今後検討予定。
- 改正医事法 (平成30年法律第79号)に基づき、令和2年度からは各臨床研修病院の募集定員設定は都道府県が行うこととなるが、例えば、国が都道府県の募集定員の上乗せ設定の際に、他の地域枠の研修希望者を採用した臨床研修病院の存在する都道府県の定員上乗せを減らす、などの対応が考えられる。
- 地域枠医師が、各都道府県内の専門研修プログラムに優先的に採用され、**他の都道府県の基幹病院による採用を制限される等の仕組みを構築**すること。(厚生労働大臣が日本専門医機構への意見及び要請 (H30/10/16) により)
- 都道府県の同意を得ずして専門研修を開始した者は、原則、**日本専門医機構の専門医の認定を行わない**こと。認定する場合、都道府県の了承を得ること必要とする。医師専門研修部会で協議。日本専門医機構から地域枠および従事要件のある専攻医の取扱いについて示された。



医師確保計画策定ガイドラインの見直しに向けた医師養成過程の取組に関する検討状況

医師確保計画策定GLの現状・課題

- 都道府県の医師確保対策に係る「医師確保計画策定ガイドライン」では、医師養成過程を通じた取組は、医学部臨時定員を含む医学部への地域枠の設置及び地域枠医師の地域におけるキャリア形成支援が中心となっていた。
- より実効性の高い対策となるよう、医学部地域枠等、臨床研修、専門研修及び必要な診療科の養成・確保の各取組を地域の実情に応じて組み合わせる方向性で、GLの見直しを行うこととしている。

主な見直しの内容

- ① 医学部定員における地域枠等の取組**
 - 医師の流入や流出の状況、人口の高齢化・減少等の人口動態を踏まえた対策を検討
 - 都道府県と大学との連携を強化するために、文部科学省の事業の活用や大学との継続的な協議の実施
 - 地域枠のみならず、一般枠の学生・医師に対しても、定着に向けた取組を実施。また、恒久定員内地域枠設置、地域枠の義務年限終了後のフォローの検討 等
- ② 臨床研修制度**
 - 広域連携型プログラムを通じた人的交流と、その後の定着に向けた地域のアピール・働きかけ
- ③ 専門研修制度**
 - シーリング制度の趣旨を踏まえた、シーリング対象県・非対象県のそれぞれの取組
 - 連携プログラムや特別地域連携プログラム等を通じた人的交流、指導医への支援等
- ④ 必要な診療科の養成・確保**
 - 大学と連携した総合診療医の育成
 - その他の診療科についても、地域の実情に応じた検討の必要性
 - 外科等の確保にも資する働き方改革への支援等

必要な診療科の育成・確保について（都道府県アンケート）

貴都道府県において、特に医師の確保が必要である診療科（診療科偏在対策が必要な診療科）はどの診療科ですか。

また、その中で最も対策が必要である診療科はどの診療科ですか。

| 診療科 | 件数 |
|---------|----|
| 内科 | 22 |
| 小児科 | 41 |
| 外科 | 31 |
| 整形外科 | 12 |
| 産科・産婦人科 | 40 |
| 放射線科 | 13 |
| 泌尿科 | 22 |
| 眼科 | 29 |
| 耳鼻咽喉科 | 34 |
| その他 | 14 |

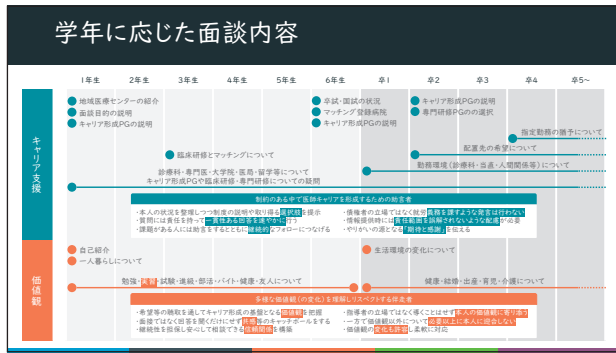
| 診療科 | 件数 |
|---------|----|
| 内科 | 5 |
| 小児科 | 4 |
| 外科 | 3 |
| 整形外科 | 0 |
| 産科・産婦人科 | 7 |
| 放射線科 | 0 |
| 泌尿科 | 0 |
| 眼科 | 1 |
| 耳鼻咽喉科 | 11 |
| その他 | 15 |

注：2次医師確保計画策定ガイドライン（医師養成研修の取組）に関する都道府県アンケート 厚生労働省調べ

- 都道府県を対象としたアンケートの結果、多くの都道府県が、診療科偏在対策が必要な診療科があると回答したことを踏まえ、次期医師確保計画策定ガイドラインにおいて、地域の実情に応じて必要な診療科の医師の確保に向けた検討を促すとともに、取組の啓発を示すこととしている。
- 次期医師確保計画策定ガイドラインへの記載内容（案）として、
 - 総合的な診療能力を有する医師の育成・確保の他、各都道府県の実情に応じて必要な診療科の医師の養成・確保について、地域の医療提供体制に応じた検討が必要がある。
 - 特定の診療科に進む意向のある医学生に対して修学資金の支援を行うなど、必要な診療科の医師の養成・確保に向けた取組を検討することが考えられる。

おわりに

- 地域枠を卒業した医師の重要性は、**都道府県はもとより地域の大学にとっても、地域医療を担うための人材フル機能の強化等、必要な医師を確保する観点から、強く認識されているもの**と思います。
こうした仕組みを維持していくためには、**入学時の丁寧かつ十分な説明を通じた仕組みへの信頼性の向上、地域へのローテにおける配座等が重要**であることから、現場における適切な運用を図って頂くとともに、制度上の課題等があれば、ぜひ伺わせて頂きたいと思えます。
- また、今般、都道府県に向けて作成した「医師確保計画策定ガイドライン」においては、**我が国が直面している人口減少等の人員確保上の制約を踏まえ、新たな養成を増加させることより、今いる地域枠医師や一般枠の医師への対応を充実させる方向で、検討を進めています。**
- さらに、今後は、**地域で必要な診療科の医師を確保する観点での議論も必要**になってくると考えられ、従来から取組のある小児・周産期や総合診療、また、今般の診療報酬改定で一定の手当がなされた外科のほかにも、**必要な診療科の医師を確保するための方策についても、都道府県・大学の関係者の方々とさらに議論を深める必要がある**と考えています。



教育的な取組

EDUCATION

- ・夏季実習
 - 修学状況にあわせ
 - 地域診断/地域医療提供体制/地域医療型医学教育
- ・プラスワン実習
 - 個別性を重視
 - 新潟の医療を学ぶセミナー(新医学セミナー)
 - 学生主体
- ・臨床実習
 - Longitudinal Integrated Clerkship / 社会医学
- ・意義
 - 地域医療/新潟県の医療/救急医療/へき地医療

学年により異なる夏季実習

『新潟県の地域医療』を要素に分け、学年ごとに対応するテーマで実習 ▶ 6年間で『新潟県の地域医療』を知る

| 1年生 | 新潟県の医療レベル | 2年生 | 地域診断 | 3年生 | 新潟県の地域医療の実態 |
|-----------------------------|----------------------------|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|
| 新潟県の医療レベルが決して低くないことを知る | 地域医療では地域の特性を知ることと重要だと気づく | 地域医療の現場で働く医師や救急士・看護師の姿を知る | 地域で求められる一般的・標準的医療を知る | 新潟県の医療現場で働く医師や救急士・看護師の姿を知る | 地域で求められる一般的・標準的医療を知る |
| 【学業の状況】 医学はどのような職業なのかを知る | 【学業の状況】 医学は地域医療とは何かを知る | 【学業の状況】 新潟県で働く医師や救急士・看護師の姿を知る | 【学業の状況】 新潟県で働く医師や救急士・看護師の姿を知る | 【学業の状況】 新潟県で働く医師や救急士・看護師の姿を知る | 【学業の状況】 新潟県で働く医師や救急士・看護師の姿を知る |
| 【実習・実地】 新潟県の大規模な病院実習を行う | 【実習・実地】 新潟県の大規模な病院実習を行う | 【実習・実地】 新潟県の大規模な病院実習を行う | 【実習・実地】 新潟県の大規模な病院実習を行う | 【実習・実地】 新潟県の大規模な病院実習を行う | 【実習・実地】 新潟県の大規模な病院実習を行う |

大学の実習とは異なり疾患に関する知識や手技等について学ぶ実習ではない

丁寧にを行うプラスワン実習

- ・新潟県外の私立大学地域枠学生が対象
- 全体の約半数を占める一方、大学単位では数名
- 夏季実習では地元でもあり大多数を占める新潟大学生に対し課外実習マッピング実習としての病院実習・見学機会も相対的に少ない
- ・学生の希望に基づいて県が病院と調整
- ・個人単位で実習
- ・費用も県が負担

6県実績
 ○ 福井県 1年1人(新潟県立病院) 2年2人(新潟県立病院) 3年2人(新潟県立病院) 4年1人(新潟県立病院) 5年1人(新潟県立病院)
 ○ 山梨県 1年1人(新潟県立病院) 2年1人(新潟県立病院) 3年1人(新潟県立病院) 4年1人(新潟県立病院) 5年1人(新潟県立病院)
 ○ 長野県 1年1人(新潟県立病院) 2年1人(新潟県立病院) 3年1人(新潟県立病院) 4年1人(新潟県立病院) 5年1人(新潟県立病院)
 ○ 静岡県 1年1人(新潟県立病院) 2年1人(新潟県立病院) 3年1人(新潟県立病院) 4年1人(新潟県立病院) 5年1人(新潟県立病院)
 ○ 東京都 1年1人(新潟県立病院) 2年1人(新潟県立病院) 3年1人(新潟県立病院) 4年1人(新潟県立病院) 5年1人(新潟県立病院)
 ○ 千葉県 1年1人(新潟県立病院) 2年1人(新潟県立病院) 3年1人(新潟県立病院) 4年1人(新潟県立病院) 5年1人(新潟県立病院)
 ○ 埼玉県 1年1人(新潟県立病院) 2年1人(新潟県立病院) 3年1人(新潟県立病院) 4年1人(新潟県立病院) 5年1人(新潟県立病院)
 ○ 茨城県 1年1人(新潟県立病院) 2年1人(新潟県立病院) 3年1人(新潟県立病院) 4年1人(新潟県立病院) 5年1人(新潟県立病院)
 ○ 栃木県 1年1人(新潟県立病院) 2年1人(新潟県立病院) 3年1人(新潟県立病院) 4年1人(新潟県立病院) 5年1人(新潟県立病院)
 ○ 群馬県 1年1人(新潟県立病院) 2年1人(新潟県立病院) 3年1人(新潟県立病院) 4年1人(新潟県立病院) 5年1人(新潟県立病院)
 ○ 東京都 1年1人(新潟県立病院) 2年1人(新潟県立病院) 3年1人(新潟県立病院) 4年1人(新潟県立病院) 5年1人(新潟県立病院)



指定勤務の市が限定されている地域枠

北里大学
・佐渡市 ・南魚沼市 ・村上市

日本大学
・三条市 ・糸魚川市 ・小千谷市 ・阿賀野市

獨協医科大学
・燕市 ・見附市

帝京大学
・魚沼市

市町村連携地域枠の 面談と実習 内容

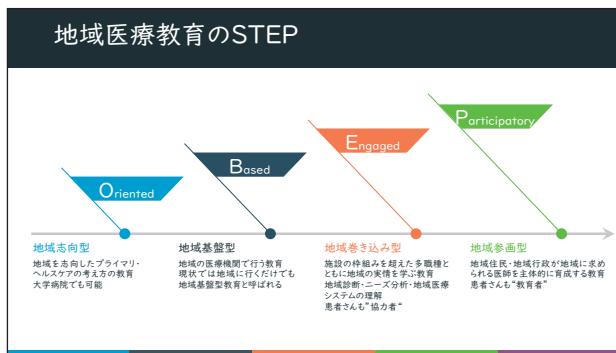
| 大学カリキュラム | 県の説明等 | 県の合同夏季実習 | 市町村・指定病院の説明 (県のプラスワン実習としての実習も可) | 個別実習 | |
|----------|------------------|--------------------|------------------------------------|----------------------|------------------------|
| 1年生 | 県のキャリア形成プログラムの概要 | 新潟県の医療レベル | 市町村・病院紹介 | (例) 地域診断 | |
| 2年生 | 基礎医学(産学) | (未定) | 地域診断(湯沢町) | 市町村独自のキャリア形成プログラムの概説 | (例) 健診・予防接種 首長との面談 |
| 3年生 | 臨床医学(産学) | 臨床研修についての概要 | 地域病院実習 | 実際の臨床研修に関する事例 | 臨床研修病院実習 |
| 4年生 | 病棟実習 | 専門研修についての概要 | 地域医療提供体制 | 実際の専門研修に関する事例 | 専門研修病院実習 |
| 5年生 | 病棟実習 | (未定) | 地域医療で求められるスキルの演習 | (未定) | (例) 指定病院実習(指定病院が果たす役割) |
| 6年生 | 卒試・国試対策 | マッチング登録病院・希望診療科の確認 | なし(勉強に集中するため) | (未定) | なし(勉強に集中するため) |

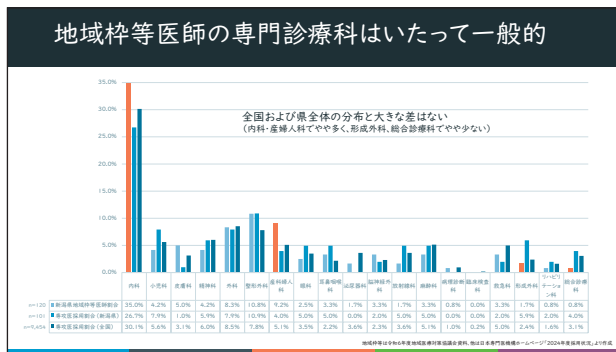
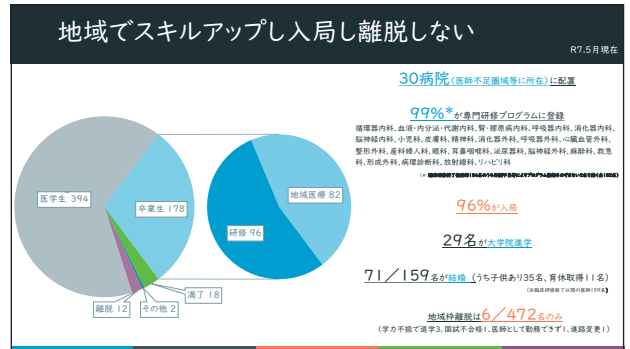
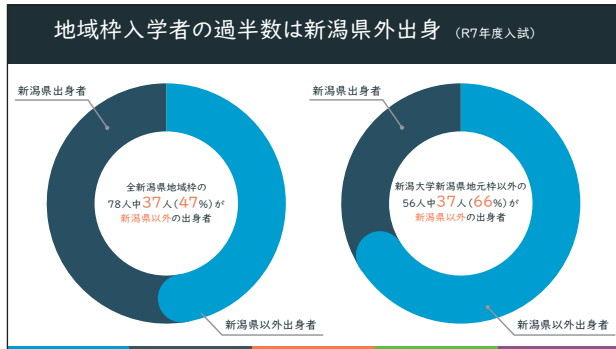
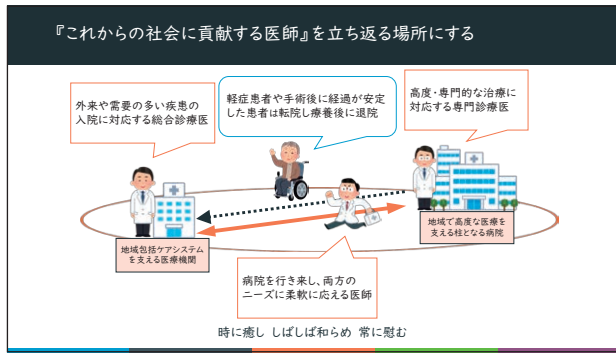
市が地域社会との接点を作ってくれます

市長訪問
保健センター見学
市役所見学
市内施設見学

元気なきたい(キラッとミュージック参加)

つばね元気かかやきポイント事業(イベント準備実習)





2026年3月5日 13:45 - 13:55
AJMC 地域枠制度についての意見交換会

地域枠を「確保策」から「キャリア形成の仕組み」へ
— 都道府県と大学の協働により、効果的な運用へ —

吉村健佑 医師・公衆衛生修士・医学博士
社会医学系指導医・精神保健指定医・労働衛生コンサルタント

- 千葉大学病院 次世代医療構想センター長 特任教授
- (一社) 地域枠医師等キャリアデザイン機構 (CORD) 理事
- 千葉県 医療整備課 医師確保地域医療推進室 キャリアコーディネータ
- (一社) 日本専門医機構 必要専門医数検討ワーキンググループ委員
- 慶應義塾大学医学部 特任教授 / 自治医科大学客員教授 / 獨協医科大学 特任教授

一般社団法人 地域枠医師等キャリアデザイン機構
Career Design Organization for Regional Doctors (CORD)

一般社団法人 地域枠医師等キャリアデザイン機構
CORD Career Design Organization for Regional Doctors

CORDの活動実績

- 全国の情報収集・共有が必要として設置
- ホームページを開設
- 相談窓口を周知
- 研修会の動画や報告書の閲覧等の情報発信を実施

一般社団法人 地域枠医師等キャリアデザイン機構 (CORD) の活動実績

2022年11月設立
2023年度より「**キャリア形成プログラム等運用支援事業**」を支援
2024年度以降、事業を委託して運営 (メンバー10名在籍) (2024年3月現在)

2025年度 業務実施内容

| 件名 | 業務実施内容 |
|--|---------------------------|
| ①各都道府県のキャリア形成プログラム及びキャリア形成前支援プランの運用の課題等に関する調査 (ヒアリング調査)・分析 | ・ヒアリング調査の実施 ・記録作成・分析 |
| ②統一的不対応マニュアル (キャリアコーディネーターの手引き)の作成 | ・原稿作成 |
| ③全国のキャリアコーディネーター等からの相談受付 | ・相談事務運営 ・相談依頼への回答・記録作成 |
| ④キャリアコーディネーターの質向上のための研修の開催 | ・研修会の企画・準備・運営 |
| ⑤都道府県の医師確保担当者・キャリアコーディネーターの初任者を対象とした交流会の開催 | ・交流会の企画・準備・運営 |

2023年度一全都道府県の医師確保事業を支援

対応窓口：本事業事務局

キャリアコーディネーターの手引き 第3版

全国キャリア形成プログラム研修会
2024年1月24日(土) 13:00-16:45
場所：東京大学大学院総合政策学系 3号館3階 303号室

調査分析 手引き 研修 個別相談

【調査結果】キャリアコーディネーターの任命状況
2025調査データより

CCの人数の推移

| 年度 | 人数 |
|--------|-----|
| 2023年度 | 162 |
| 2024年度 | 186 |
| 2025年度 | 208 |

200名以上を任命
約90%が「医師」

CCの設置人数と地域枠等定員数

CCの主たる所属先

【調査結果】診療科制限の状況
2025調査データより

表1 診療科制限の有無 (2025年度調査)

| 診療科制限の有無 | 都道府県数 |
|-----------|-------|
| あり | 13 |
| 一部あり | 4 |
| 推奨診療科あり | 8 |
| 一部推奨診療科あり | 2 |
| なし | 20 |
| 合計 | 47 |

医師備在指標と診療科制限

20都道府県＝診療科制限なし、多数県は制限ある傾向

診療科制限への対応

大学が関与すべきは「説明の質」と「透明性の担保」

- 指定診療科の選定は、都道府県側だけでなく、大学・専門研修側の理解と整合が重要。双方が説明できる状態を目指す
- 指定外の進路についても、地域事情に応じた柔軟な対応の余地 (公衆衛生医、法医学、研究職、大学教員等) を検討し得る
- 重要なのは「例外の乱発」ではなく、制度としての透明性 (判断基準と説明の型) を大学と都道府県が共同で整えること。

出典：調査報告書 (調査票) 2024 診療科制限の課題・異動設計

【調査結果】義務履行の猶予として認められる事由
(2025年度調査)

義務履行の猶予／一時中断として認められる事由

育児休業
大学院進学
県外での研修
留学
介護
災害
疾病
その他

明記する以外に「やむを得ない事由」で運用することも

ライブイベントへの対応

都道府県間連携と相談しやすい体制の整備が鍵と考えられる

結婚協定の活用
異なる都道府県の利用者同士の間では同居困難が制度につながり得る。自治体大学間士の運用を参考に、都道府県間の連携で解決に近づく可能性がある。いくつかの県で結婚協定を明記。

個別支援の体制整備
女性医師・若手医師等の多様性に対応した個別支援が行われている例がある。相談しやすい環境づくりと、支援の標準化が求められる。

出典：調査報告書（概要版）2023/2024 広域連携・結婚協定

目次（執筆者名）

2023-2025年度 キャリア形成プログラム等運用支援事業で作成した対応マニュアル「キャリアコーディネーターの手引き」の作成・改定

運営担当者が大部分の執筆を担当

目次（執筆者名）

- はじめに（小谷 新樹）……………2
- 1. キャリア形成プログラムの概要（吉村 健治）……………3
 - 1-1. キャリア形成プログラムの目的……………3
 - 1-2. キャリア形成プログラムの対象……………4
 - 1-3. キャリアコーディネーターの役割と連携……………4
- 2. キャリアコーディネーターの役割と連携（吉村 健治）……………5
 - 2-1. キャリアコーディネーターの役割……………5
 - 2-2. 利用者の抱える課題と支援……………6
 - 2-3. キャリアコーディネーターの連携……………11
- 3. キャリア形成プログラムの推進と連携（吉村 健治）……………13
 - 3-1. 地域連携（吉村 健治）……………13
 - 3-2. 自治体大学間連携（小谷 新樹）……………15
- 4. 医師免許取得のキャリアと医師のキャリア（清藤 聖子）……………23
 - 4-1. 医師免許のキャリア……………23
 - 4-2. 医師のキャリア……………23
- 5. キャリアコーディネーターと各団体の連携……………27
 - 5-1. キャリア形成プログラム推進協会の連携（清藤 聖子）……………27
 - 5-2. 医師会との連携（吉村 健治）……………28
 - 5-3. 大学の連携（吉村 健治）……………28
 - 5-4. 地域医療支援センターの連携（吉村 健治）……………28
 - 5-5. 医師会と医師の連携と連携（清藤 聖子）……………28
 - 5-6. 医師会・医師会、医師 働き方との連携（吉村 健治）……………28

制度利用者への支援 基本設計

フェーズごとに「見える化」を積み上げていく設計が有効

| 入学前 | 在学中 | 臨床研修 | 専門研修 以降 |
|-------------------|-------------------------------------|---------------------------------|------------------------------|
| 制度説明会 関心促進イベント | 先輩医師講演・訪問 将来像の見える化 縦横コミュニティ形成 | 専門研修先の医局と連携 個別面談で義務履行先・要望を確認 | 個別面談による キャリア助言 継続的フォロー |

出典：調査報告書（概要版）2023 フェーズ別アプローチ例

全国キャリアコーディネーター研修会

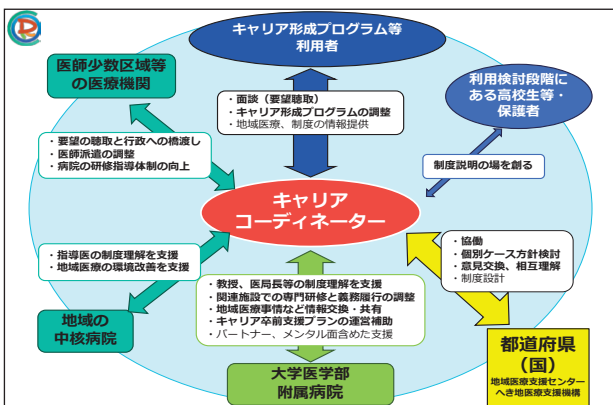
【目的】

- 関係者全体の質向上・均一化：経験の異なるキャリアコーディネーター・都道府県担当者が、場面に応じて利用者に対してある程度、適切な判断・対応ができるようになる。
- 課題の対応策の検討：都道府県間で共通する課題が存在することを理解し、類似する事例から、自都道府県の課題の対応策を検討する。
- ネットワーキング：キャリア形成プログラム等の関係者の交流・連絡・連携ができる場を作る。

2025年度 第6全国キャリアコーディネーター研修会 グループワーク・発表の様子

【期待される効果】

- 個々の経験を越えて、有用な対応策の実践を学ぶ。
- 顔の見える関係を継続して構築し、事業全体の関係者の「開わり」を増やすこと（ネットワークング）で、必要時に本事業外でも直接相談、情報共有が盛んとなることで、全体の質向上・均一化に寄与する。
- キャリアコーディネーターとして長く勤務する動機付けを行う。



地域卒業者の入局状況（概算）

CORDヒアリング調査を通して、地域卒業者の

およそ80%
が大学医局に入局している傾向を把握

※正式な調査調査ではないヒアリングベースの推計値

医師配置について、都道府県と大学病院の連携が重要

原研会公表資料より

14

大学側のメリット

「キャリア支援を織り込んだ入局」が成立し得る

利用者側の声
地域医師は医局から理解が得られ、地域勤務を考慮してもらえという声が多い。
制度理解のために利用者自ら医局に説明したケースもある。

支援者側の課題
制度が複雑で教授・医局長への説明にハードルがある。
支援業務は増加傾向にあり、情報管理・共有のデータベース化が進んでいない。

大学(担当教授)が制度説明とキャリア設計の型を整備する⇒医局も利用者にも有益

【吉村私見】大学医学部長/地域医療の各教授望ましい役割
①学内各科をまとめる役割を都道府県と協同作業できるように

出典：調査報告書（概要版）2024/2023 大学・医局連携、支援業務

今後、大学医局と都道府県庁は「一連托生」

各医局の強み＝研修設計力を制度に組み込むことが有効

調査から得られた知見

- 2023年度調査でも、専門医取得への関心は極めて高く、再期に遅れずに取得したいという意向が多数。
- 一部の都道府県では、サブスペシャリティやダブルボードの支援を検討している事例もある。
- 大学院進学・留学等は多くの都道府県で中断可能とされ、費中を押す支援が有効に機能している事例がある。

大学側の要点
「地域勤務 × 専門医 × 研究」を両立できるモデル行程表の共同作成

都道府県と共同で「キャリア行程表」を用意＝利用者の納得度と継続率の向上に直結する

出典：調査報告書（概要版）2023 専門医・アカデミック支援

【まとめ】全国事業から見えた 大学の知る/取り組むこと

1. 都道府県によりプログラム・制度の内容にばらつきが大きい
 - ⇒ 都道府県により課題が異なり、制度利用者の受け止めも様々
 - ⇒ 医師少数区域・2次医療圏の見直しなどありうる
 - ⇒ 政策動向を把握し、制度利用者へ「解像度の高い」情報提供
2. 都道府県・大学間を比較できる情報や連携が必要
 - ⇒ 共通の課題への対応と個別事案への対話を促進
 - (例) 結婚事案への都道府県間の対話
3. 「信頼を前提」に大学と都道府県の協同作業がより重要
 - ⇒ 状況変化への対応を熟議しながらすすめる

全国の運用状況を見ながら、各大学の課題解決を

17